

「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 30 年度指定校)

平成 31 年 2 月

新潟市教育委員会

目 次

1. 本事業の概要	1
2. 平成 30 年度指定校における防災教育	
1) 新潟市立木崎中学校区（北区）	4
木崎中学校, 木崎小学校, 笹山小学校	
2) 新潟市立岡方中学校区（北区）	18
岡方中学校, 岡方第一小学校, 岡方第二小学校	
3) 新潟市立大形中学校区（東区）	32
大形中学校, 大形小学校	
4) 新潟市立宮浦中学校区（中央区）	42
宮浦中学校, 万代長嶺小学校, 南万代小学校, 紫竹山小学校	
5) 新潟市立高志中等教育学校（中央区）	60
6) 新潟市立亀田中学校区（江南区）	66
亀田中学校, 亀田小学校, 亀田東小学校	
7) 新潟市立小合中学校区（秋葉区）	80
小合中学校, 小合東小学校, 小合小学校	
8) 新潟市立金津中学校区（秋葉区）	94
金津中学校, 金津小学校	
9) 新潟市立味方中学校区（南区）	104
味方中学校, 味方小学校	
10) 新潟市立小針中学校区（西区）	114
小針中学校, 小針小学校, 青山小学校, 東青山小学校	
11) 新潟市立小新中学校区（西区）	132
小新中学校, 坂井輪小学校	
12) 新潟市立巻東中学校区（西蒲区）	142
巻東中学校, 巻南小学校, 漆山小学校	

1. 本事業の概要

(1) 本事業の目的と実施方針

本事業の目的は、新潟市教育ビジョンで新潟市が目指す子どもの姿・市民の姿の実現に向け、市内各校が行う防災教育の内容が、家庭や地域と連携した実践的な取組となり、学校に定着し継続したものとなるよう支援することです。

実施方針としては、新潟市教育委員会が新潟県「ふるさと新潟防災教育推進事業(学校実践)」に申請し、その補助金を活用して事業を進めていきます。平成27年度から平成31年度の5年間で、市内全小・中・中等教育・特別支援学校を支援し、各校の新潟県「防災教育プログラム」必須項目を含む各学校の地域の特色に応じた防災教育の自校化にむけた、防災教育実践の専門的な支援、コミュニティ協議会等との地域連携のサポートを行います。

(2) 平成30年度を取組の概要

① 「防災教育」学校・地域連携事業説明会・防災教育プログラム研修会

期 日 平成30年5月10日(木)

時 間 14:00～16:30

会 場 新潟市役所本館庁舎3階 対策室1

参加者 平成30年度指定校担当者

内 容 事業概要の説明、平成29年度先行実践校の実践概要紹介、中学校区ごとのグループワーク(地域と連携した防災教育を推進する上での課題等)

② 各中学校区での防災教育支援ミーティング

期 日 平成30年6月～平成31年1月 約3回程度

時 間 15:00～16:30頃

会 場 各中学校区小・中学校

参加者 各中学校区担当、中学校区支援担当者(コンソーシアム)

内 容 地域連携の意義とその方法についての検討、学校ごとの取組についての情報共有
自校化プラン、年間指導計画、実践事例作成サポート

③ 「防災教育」学校・地域連携事業指定校報告会兼研修会

期 日 平成31年2月21日（木）

時 間 14:30～16:30

会 場 新潟市役所本館庁舎6階 講堂

参加者 平成30年度指定校担当者・平成31年度指定校担当者

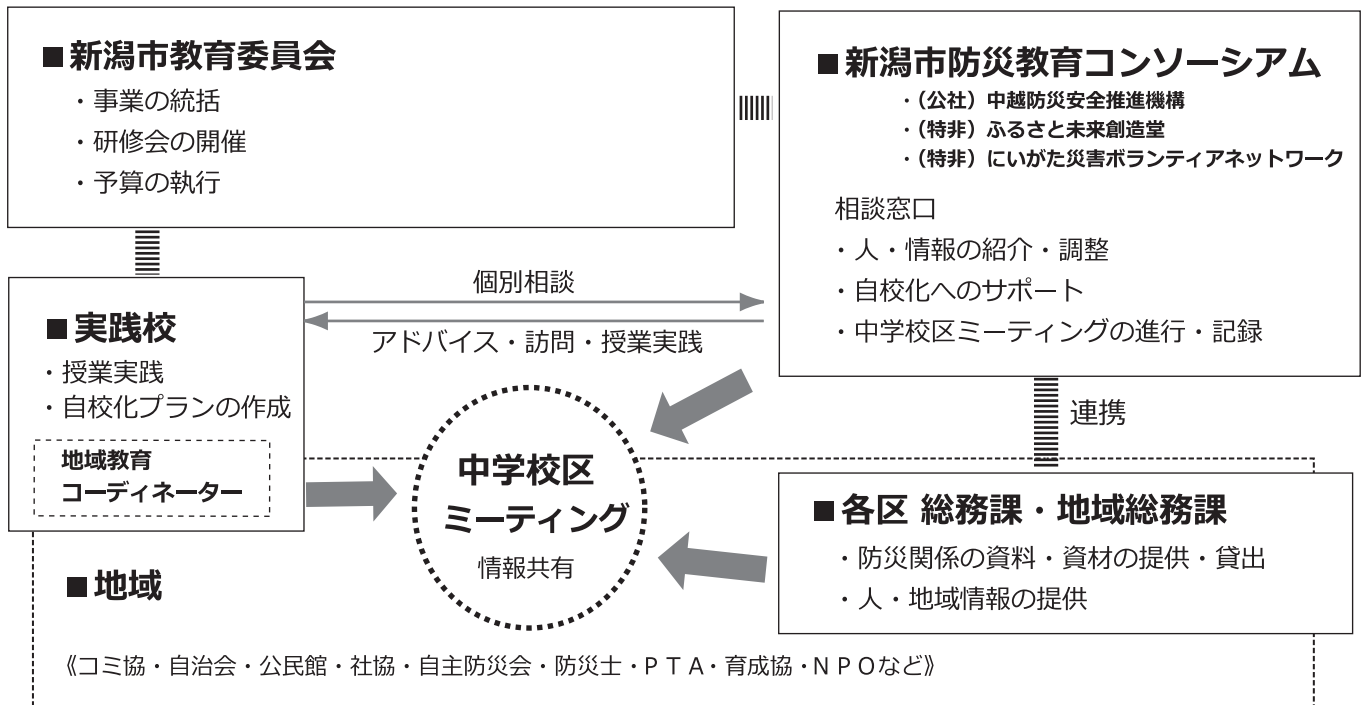
内 容 平成30年度、31年度指定校合同グループワーク（地域と連携した防災教育の意義とその課題等）

(3) 平成30年度防災教育学校・地域連携事業指定校

区	学校名	区	学校名	区	学校名
北区	木崎小学校	江南区	亀田小学校	西区	小針小学校
	笹山小学校		亀田東小学校		青山小学校
	岡方第一小学校		亀田中学校		東青山小学校
	岡方第二小学校	秋葉区	小合東小学校		坂井輪小学校
	木崎中学校		小合小学校		小針中学校
	岡方中学校		金津小学校		小新中学校
東区	大形小学校		小合中学校	西蒲区	巻南小学校
	大形中学校	金津中学校	漆山小学校		
中央区	万代長嶺小学校	南区	味方小学校		巻東中学校
	南万代小学校		味方中学校		
	紫竹山小学校				
	宮浦中学校				
	高志中等教育学校				

(4) 本事業全体イメージと新潟市防災教育コンソーシアムの役割

本事業では、市内各校で行なわれる防災教育の内容が実践的な取組となるように、様々な団体・組織が支援をしています。



この事業を進めるにあたって、学校や地域の特性、実態に合わせた防災教育が実施されるように、公益社団法人中越防災安全推進機構・特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂・特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワークの3者で「新潟市防災教育コンソーシアム(連合体)」を組織し、事業全体のサポートを担っています。

新潟市防災教育コンソーシアムの主なサポート内容は以下の通りです。

- ・年3回の中学校区ミーティング日程の調整、案内、当日の進行、記録
- ・自校化プランの企画立案のサポート
- ・講師としての授業実践または個別相談（※各校1回程度）
- ・講師（専門家・語り部等）の紹介・コーディネート
- ・地域や外部団体との連携サポート
- ・教材資料の貸出・提供
- ・事業説明会および報告会の研修内容の企画・立案・当日運営（年2回）等

各種サポートを通じて、学校と家庭・地域との連携を深め、各学校での防災教育の取組が継続したものとなるよう、支援を行います。

2. 平成30年度指定校における防災教育

1) 木崎中学校区（北区）

対象校：木崎中学校・木崎小学校・笹山小学校

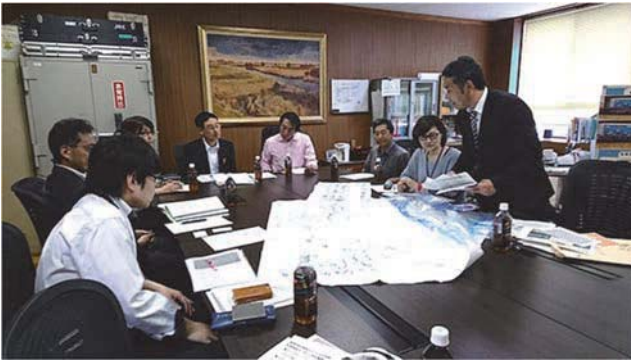
① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年5月23日 15:45～16:30 会場：木崎中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成30年7月3日 15:45～16:30 会場：木崎コミュニティセンター	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	平成30年9月21日 15:45～16:30 会場：木崎小学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（平成31年度以降の防災教育の取組や課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
木崎中学校	平成30年5月23日	打合せ	6月15日に全校を対象にした防災学習を行う。避難所について学習することで打合せを実施。
木崎中学校	平成30年6月5日	電話 メール	6月15日の全校防災学習についての相談。昨年度から避難所については力を入れており、被災地での中学生の様子や活躍などを含めた内容で「震災後、中学生が避難所でできること」を実施することになった。
木崎中学校	平成30年6月15日	講座実施	避難訓練後・中学生が避難所でできることについて講座を実施。
木崎小学校	平成30年8月9日	電話	木崎中学校エリアの防災士について区に確認、情報提供を行った。
笹山小学校	平成30年8月20日	打合せ	9月7日の小・小合同の防災学習について打合せを実施。今年が5年生を対象とした学習とし、災害に備えることは何か？についてワークショップを行うことになった。
木崎小学校 笹山小学校	平成30年9月7日	講座実施	5年生対象に2校合同で近年起こった災害から災害時の情報の大切さを中心に防災授業を実施。
笹山小学校	平成30年9月21日	資料提供	次年度以降の自校化を踏まえ、北海道胆振地震、西日本豪雨などの被害、避難所の様子などの画像提供を行った。
木崎中学校	平成30年11月14日	参観	全校生徒を対象にした避難訓練・クロスロードの授業を参観。

【5/23 第1回中学校区ミーティングの様子】



【6/15 木崎中学校 防災講座の様子】



【7/3 第2回中学校区ミーティングの様子】



【9/7 木崎・篠山小学校合同防災学習の様子】



【9/26 第3回中学校区ミーティングの様子】



【11/14 木崎中学校クロスロードの様子】



② 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

木崎中学校区では、学校・地域が連携した取組として、北区地域総務課地域・防災グループと連携し防災学習を行った学校もあった。平成31年度以降に防災学習を継続して取り組めるよう地域人材を活用し工夫した。また、小学校では今後の統合を見据えて木崎小・笹山小が連携し合同で防災学習を行った。

外部講師から近年起こった西日本豪雨、北海道胆振地震の災害について学習し、自分たちなら災害時に何ができるのか、普段からどんな準備が必要なのかなどを考えた。平成30年度は地域人材と繋がることを意識し、小学校から中学校へ効果的な学習の流れをミーティングで確認するなど、防災教育が継続できるように取り組んだ。

<木崎中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の海拔は6.6mで、地震や洪水時の避難所となる。また、砂丘地にあるため、基本的には液状化の心配も少ない。 ・ 地域の大部分が柔らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、学区内に、新発田川・福島潟放水路が流れており、津波は福島潟放水路から侵入し、標高の低い地域での浸水が想定される。 ・ 毎年、年1回の地域住民との避難所運営研修会を行っている。自治防災組織としてコミュニティ木崎村がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自ら「安全な場所」に避難するための知識や意欲を高めてほしい。 ・ 地域の構成員として、中学生として何ができるか、何をすべきかを学ばせ、実践できる生徒を育成したい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する日常の備えを見直し、災害に対して適切な行動ができるようになる。(1年生) ・ 応急手当の技能を身に付け、自己の安全ばかりでなく他の人々の安全にも配慮できるようになる。(2年生) ・ 災害時等の非常時にも、地域社会の一員として、自主的に地域の活動に参加できるようになる。(3年生)
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練（地震想定・火災想定） ・ 防災講演会（講師：（公社）中越防災安全推進機構） ・ 防災教育プログラム カードゲーム「クロスロード」（講師：北区地域総務課） ・ 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】必須学習項目の授業
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の避難訓練を実施する。 ・ 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】【洪水災害編】【雪災害編】を3年間で計画的に学習する。 ・ 外部の講師を活用した防災講演会、防災プログラムを実施する。 ・ 学校担当者と木崎コミュニティセンターによる避難所運営研修会の開催、将来的には生徒も参加する。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間活動計画に位置づけ、確実に実践できるようにする。 ・ 小中の定期的な情報交換を行う。 ・ 地域教育コーディネーターとの連携を行う。 ・ 北区地域総務課など外部機関との連携をとる。

2. 木崎中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年							「クリーン作戦」全校美化活動，地域ボランティア（生徒会活動）					
第2学年	〈社会〉 日本の 自然環境					〈保健体育〉 傷害の防止						
第3学年			避難訓練（地震想定）・防災講演会				「クリーン作戦」全校美化活動，地域ボランティア（生徒会活動）	避難訓練（火災想定）・「クロスロード」		「新潟県防災教育プログラム」を活用した授業		
						〈家庭科〉 住生活と自立			〈社会〉 日本の諸地域 「東北地方」 身近な地域の 調査			
											〈理科〉 変動する大地	
												〈理科〉 天気と その変化
												〈理科〉 自然・科学 技術と人間

3.木崎中学校 防災教育指導例

全学年

(学習のねらい) 災害時における対応を自らの問題として考え、様々な意見や価値観を共有することで状況によって判断が異なること学ぶ。また、いろいろな立場に立って考えることで他者への理解を深める

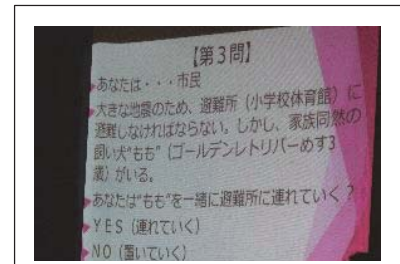
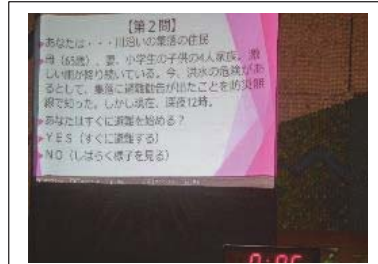
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 災害による避難の様子の導入映像を見る</p> <p>① 講師から災害発生時の対応について、説明を聞き、映像を見る。</p> <p>② 「避難しなければならなくなったとき、あなたならどうするか。」究極の2択を自分で考え、判断することを伝える。</p> <p>2. ゲーム「クロスロード」の説明を聞き、練習問題を行う</p> <p>① 講師からゲームの進め方やルールを聞く。</p> <p>② 練習問題を行い、設問の流れを確認する。</p>	<p>※避難訓練後、体育館で行う。</p> <p>映像を見て、災害時に学校が避難所になるイメージをもたせる。</p> <p>【としかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで中学校に避難しなければならなくなったとき、あなたならどうするか。」 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力する。お互いに助け合う。 <p>想定された場面の設問を講師が読み上げ、各自で「Yes」か「No」を5秒間で決める。その後、地域の方も含めたグループで意見交換を行い、グループの意見を集約する。</p> <p>【ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人の発表が終わったら、拍手をする。 ○自分と違う意見でも否定しない。 ○質問や「そういう考え方もあるんだ」というリアクションは積極的にを行う。 <p>※みんなの裏をかいてもよい。ただしきちんと理由を考え、説明する。</p>
【展開】	<p>3. 「クロスロード」を行う</p> <p>①ステージ上で進行役(北区地域総務課)が質問を2回読み上げる。</p> <p>②5秒間で各自が「Yes」か「No」かを決めて、カードを裏向きにして出す。</p> <p>③一斉にカードをオープンし、1人ずつ順番に意見を発表する。</p> <p>④グループ内に意見をまとめる。</p> <p>⑤ワークシートに記入する。</p> <p>⑥カードオープンして3分後に、講師の掛け声で全校に向けて、グループごとに(青「Yes」)か(赤「No」)の色画用紙を掲げる。</p> <p>⑦それぞれの立場の代表グループから意見発表をする。</p>	<p>【設問の例】</p> <p>1 あなたは主婦。防災のために風呂の残り湯を浴槽にためておくとよいと言われる。しかし、浴室がカビるかもしれないし、湯垢がつくと掃除が面倒。それにめったに災害は来ない。あなたは、それでも残り湯をためておく? 《ためておく、ためておかない》</p> <p>2 あなたは川沿いの集落の40代の住民、母(65歳)、妻、小学生の子供の4人家族。激しい雨が降り続けている。今、洪水の危険があるとして、集落に『避難勧告』が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時。あなたは、すぐに避難を始める? 《すぐに避難する、しばらく様子を見る》</p>

		<p>3 あなたは市民。大きな地震ため、避難所（中学校体育館）に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼犬「もも」（ゴールデンレトリバーめす3歳がいる）、一緒に避難所に連れて行く？《連れて行く、置いていく》</p> <p>4 あなたは受験生。避難所では人手が足りず、仕事を手伝う毎日。若くてとても体力があると感謝されている。しかし勉強が手につかず、このままでは合格できないかもしれない。避難所の手伝いをやめて勉強に専念する？《勉強に専念、手伝いを続ける》</p> <p>・【想定される答え】</p> <p>「Yes」か「No」のカードを選ぶ。そして理由を考え、発表する。</p>
【まとめ】	<p>4. 全体を通して、設問に対して意見を発表する</p> <p>①意外だった回答や、感心した回答などワークシートを記入する。</p> <p>②各学年2つのグループの代表者が発表する。</p> <p>5. 進行役からの講評を聞く</p>	<p>【想定される答え】</p> <p>他の人の意見を聞いて、立場や状況が変わると行動も変わることがわかった。</p> <p>【ポイント】</p> <p>○さまざまな考え方があり、自分と違う意見もあり、その人の立場になって考えることが大切である。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を「Yes」か「No」で表明することができたか。 ・自分の意見をはっきりと理由つけて発表できたか。 ・さまざまな考え方もあり、その人の立場で考えることができたか。 	

【授業実践の様子】



【スライド資料】



<木崎小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動を続けているので、上級生が下級生の面倒を見ることが多い。全校遠足では、新潟競馬場まで「なかよし班」（縦割り班）で歩き、現地で遊び、班内でもふれあう機会を増やしている。 集落ごとのつながりが強いために、地域ごとの避難に関心が高い。 <p>※ 砂丘地の高い位置にあることから、洪水（津波）の直接的な被害は少なかったようである。しかし、周囲は海拔が低いために洪水の被害が歴史的に古い。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近年の大災害や中越地震、中越沖地震での被害は少なく、新潟地震や羽越水害から約半世紀以上経たために、経験した人が高齢であり、その頃のことを語る方も少なくなっている。そのために、保護者・地域・教職員の災害に対する意識は必ずしも高いとは言えない。 そこで、災害は身近であるという認識をもち、命を守ることができる知識や技能を身に付ける必要がある。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害について確かな知識をもっている。 自分の命を守るための方法を理解している。 災害が起きたときに、冷静に行動できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練（地震、引き取り訓練等） 笹山小学校との合同災害教育
<p>自校プランの内容</p>	<p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科や総合、道徳の学習と関連付けて、災害の正しい知識を身に付ける。 避難訓練、集団下校、全校遠足などの活動を通して、集団で早く的確に行動できるようにする。 <p>【保護者・地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し訓練や地域の防災活動で、子どもが自分の命を守る行動がとれるようにする。 避難所の開設のための準備や避難経路の確認を通して、地域ぐるみで避難の準備を進める。 <p>※ 2020年度の笹山小学校との統合を見据えて、笹山小と木崎小での地区（木崎中学校区）を意識した防災訓練を進める。</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事で開催することを契機に、授業で知識などについて学習する。（例：引き渡し訓練をするときに、地震（津波）の避難について学習する。）

2. 木崎小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	【生活】学校周辺の安全確認	地域子ども会での集団下校訓練	地震対応避難訓練（防災の日・市内一斉避難訓練）	【特活】誘拐から身を守る	【特活】地震と津波は何かを知る	全校避難訓練（引き渡し訓練：保護者の迎えと引き渡し）	火災対応避難訓練（火災による避難訓練）	地域子ども会での集団下校訓練	【特活】雪道の登下校			
第2学年												
第3学年				【総合】「教えてあづき」のひみじ、安土の土地の様子、安全マップ	【特活】地震・津波からの逃げ方を学ぶ							
第4学年				【総合】「やさしい木崎のまちづくり」身近な自然環境	【特活】地震・津波からの逃げ方を学ぶ					【社会】水とのたたかい（福島潟の開拓）		
第5学年				【体育】着衣泳法、水泳の決まり	【特活】地震被害の特徴を学ぶ					【社会】「自然災害とともに生きる」		
第6学年					【特活】地震・津波被害の特徴を学ぶ（合同）				【社会】歴史の中における災害（関東大震災、東日本大震災）			

3. 木崎小学校 防災教育実践報告書

小学校高学年

(学習のねらい) 揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ

- ・地震や津波、洪水が発生した後の家や家の周りの状態、避難所の様子を知る。
- ・揺れがおさまった後の危険と身の守り方、避難してから大切なことについて考える。

	学習内容(展開)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>(小小合同防災教育活動前 45分 6月)</p> <p>◇ 『新潟県防災教育プログラム 学習指導案【地震災害編】必須-3』を活用し授業を行う</p> <p>【小小合同防災教育活動】</p> <p>1. アイスブレイク ~ 学習内容を知る</p> <p>① 並べ替えゲーム(誕生日日で替える)の後に、伝言ゲームを行う。(資料①参照)</p> <p>(両校合わせて9~10人の8グループで行った)</p> <p>② 災害が起きた後に大切なことについて学習することを伝える。</p>	 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えることが難しかったことを確認し、災害発生時にうまく伝わらなかったら困ることを手掛かりにして、ほかにも困ることはないか等、「災害発生時に困りそうなことは何か」について意識を向けさせる
	<p>2. 災害が起きた後、避難所の様子について知る</p> <p>① 中越防災安全機構の方から講演していただき、次の点をおさえる。</p> <p>1) 「<u>地震、津波、洪水、が発生した後の家や家の周りの様子</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気、ガス、水道がとまることで困ること(携帯等の充電や水の大切さが感じられる写真等) <p>2) 「<u>避難所の様子</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物資の配給の様子 ・トイレの様子 ・高齢の方や障がいをもつ方、ペットの様子 ・自分たちにできる清掃等をする小学生の様子 ・情報ボード等、様々な情報が掲示されている様子 <p>3. 災害が起きた後、大切なことについて考える</p> <p>① 災害が起きた後の危険と身の守り方、避難してから大切なことについて、次のことに気付かせる。</p> <p>1) 「<u>倒壊や液状化現象等の2次災害を想定して素早く避難する</u>」</p> <p>2) 「<u>正しい情報を得る、不確かな情報を流さない</u>」</p> <p>3) 「<u>避難所で、自分ができることは何か考える</u>」</p>	<p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの住んでいる街には、どんな災害の危険があるか知っていますか？また、自分の住む家や通学路は安全かどうか知っていますか？ ・各写真や資料について、「何をしているのか」「何が困っていることなのか」を問う <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・本やインターネットで調べる <p>(資料の例)</p> <p>【資料】 新潟市地区別防災カルテ</p> <p>～震度分布図、風水害対策地図、津波対策地図等がある</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の様子や避難所の様子を見てもらいました。災害が起きた後にはどんな危険がありましたか、どのように行動することが大切ですか？ ・避難所では、どのように行動することが大切ですか？ <p>【期待される答え】 ～左記の(1)～(3)～</p>
【展開】		

【#10】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「講演(授業)の感想」などを書かせて、発表させる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <p>○ 「日頃から訓練等を通じて、危険箇所や避難所の場所の確認をしておくことや、人の話を聞く・正しく伝えることを普段から大切にする」を確認する</p>
	<p>・講演のお話や写真資料から、地震や津波、洪水が発生した後の家や家の周りの危険性、避難所での生活の困難さについて理解することができたか</p> <p>・災害が起きた後の危険と身の守り方や避難所で行動の仕方について、危険事項や身を守る方法、行動の仕方を具体的に考えることができたか</p> <p>・災害の発生に備えて、普段から準備・確認しておく必要性を理解することができたか</p> <p style="text-align: right;">(発言やワークシートの記述)</p>	

【授業実践の様子】



木崎小の避難者は 578 人です
 笹山小の避難者は 129 人です
 困ったことがあったら
 北区の西さん、東区の南さんに
 教えてください

【資料① 伝言文】

【主なスライド資料 等】



【感想】

メモ
 くり返し出てきた言葉や数字 など
 北海道 地しん
 → 電気がつかない
 → テレビがつかない
 → 情報と偽り(正しい)

はじめて分かったこと
 信号の青信号(歩行者)
 まだ水がくることがある
 17日か人も水がつかないときがある

○避難所では、よく知らない人たちと同じ場所で過ごしたり、情報を伝え合ったりすることがあります。今日は、木崎小・笹山小と一緒に学習しました。上手く伝えられましたか？上手く伝えるにはどうしたらよいと思いましたが、木崎小・笹山小と一緒に学習した感想とあわせて書いてみましょう

よく知らない人と伝えるには、しる人との会話とちがいたり人でした。防災についてあらためて知ることがはじめて分かったり、おぼえていたこと、やらなければいけないことなどを学ぶことができました。
 上手く伝えるには、日どおぼえられぬから、話にやるとしたら、いとおぼえられた

地しんが屋根がとれる
 ・1階がつかない
 情報をよく伝えることは大切
 → 伝えることも大切

「覚えておきたい」と思ったこと

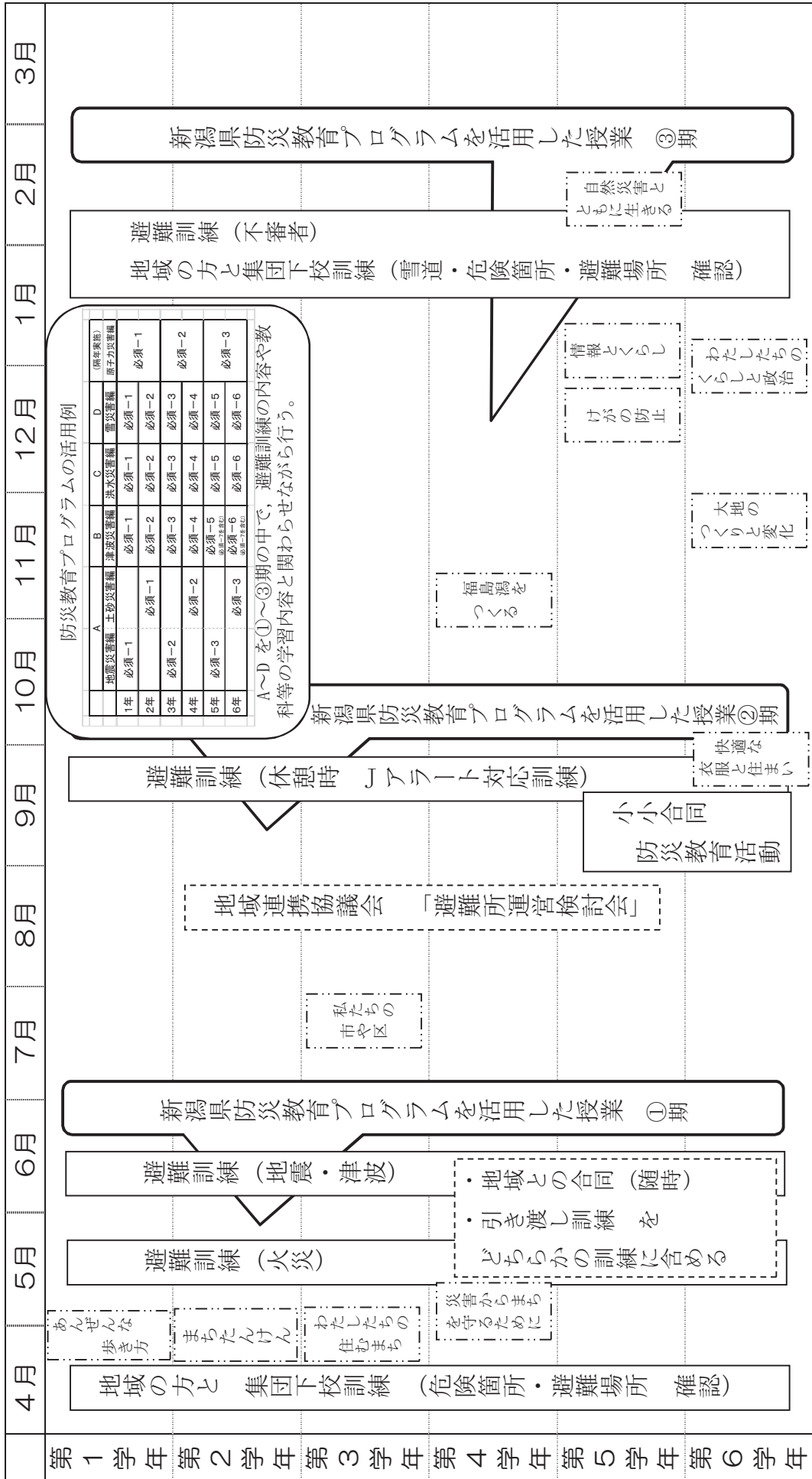
おぼえられぬから、話にやるとしたら、いとおぼえられた
 → 早く高い所などにいる
 ・大勢だとたすむおぼえする
 ・災害が起きたとき
 → につけるおぼえがない
 はんたん
 「やらなければいけないな」と感じたこと

<笹山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、新潟市の北東部、海拔5.8mに位置している。学区は、阿賀野川下流の砂丘地帯に開けた純農村地域である。 ・学区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。一方、海岸線と平行(北東-南西)に数列の微高地が並んでおり、これらの地域では周辺に比べて液状化の可能性が低くなっている。 ・津波は福島潟放水路から侵入し、標高の低い地域での浸水が懸念される。 ・新井郷川・新発田川流域の洪水によって、地区の一部で浸水の可能性はある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区は3つの自治会からなり、地域住民の連帯感が強く、まとまりのある地域である。学校教育に対しても、地域、保護者の関心は高く、学校教育活動や防災・安全について連携を図る目的で「地域連携協議会」が設営されている。毎年行われる「避難所運営検討会」をはじめ、「学校と地域連携の合同防災体験活動」などを随時行っている。 ・地域の行事に積極的に参加し、自分たちの生活する地域への愛情や誇りをもってほしい。活性化に貢献してほしい。 ・校内では、授業時間や休み時間などを使って避難訓練を行っている。しかし、災害は登下校時や在宅時など、校外で起こる可能性もある。いつでも・どこでも自分の身を守れるように、その方法を身に付けさせていきたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重し、発災時に適切に判断し、主体的に行動できる児童 ～発災時に、危険を回避し安全な行動ができる児童 ～学校が避難所になった時に、自らできる役割を自覚し、進んで活動できる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木崎中学校区にある、もう一つの小学校(木崎小学校)と連携した防災教育 ・(公社)中越防災安全推進機構から講師を招いた「避難所運営検討会」の開催
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた「新潟県防災教育プログラム」を活用した授業の実施 ・学校と地域合同の避難訓練や体験的活動等、地域連携協議会との防災に関する協力体制の構築
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携、協力しながら、防災への関心を、地域、学校共に高めていく。 ・木崎中学校区の小中一貫教育プログラムに準じ、各学年の防災教育を教育計画に位置付け、計画的に取り組む。 ・本年度つないだ人的ネットワークを活用し、防災に関わる活動や学習等の内容の工夫を図る。

2. 笹山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画



4月

あんぜんな歩き方 まちたんけん わたしたちの住むまち

災害からまちを守るために

地域の方と 集団下校訓練 (危険箇所・避難場所 確認)

5月

避難訓練 (火災)

避難訓練 (地震・津波)

- ・地域との合同 (随時)
- ・引き渡し訓練 を

どちらかの訓練に含める

6月

新潟県防災教育プログラムを活用した授業 ①期

7月

私たちの市や区

8月

地域連携協議会 「避難所運営検討会」

9月

避難訓練 (休憩時) アラート対応訓練

快適な衣服と住まい

小小合同 防災教育活動

10月

新潟県防災教育プログラムを活用した授業②期

福島県をつくる

11月

大地のつくりと変化

12月

けがの防止

情報とくらし

わたしたちのくらしと政治

1月

地域の方と集団下校訓練 (雪道・危険箇所・避難場所 確認)

避難訓練 (不審者)

自然災害とともに生きる

2月

新潟県防災教育プログラムを活用した授業 ③期

3月


第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年

3. 笹山小学校 防災教育実践報告書

小学校高学年

(学習のねらい) 揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ

- ・地震や津波、洪水が発生した後の家や家の周りの状態、避難所の様子を知る。
- ・揺れがおさまった後の危険と身の守り方、避難してから大切なことについて考える。

	学習内容(展開)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>(小小合同防災教育活動前 45分 6月)</p> <p>◇ 『新潟県防災教育プログラム 学習指導案【地震災害編】必須-3』を活用し授業を行う</p> <p>【小小合同防災教育活動】</p> <p>1. アイスブレイク ~ 学習内容を知る</p> <p>① 並べ替えゲーム(誕生日日で替える)の後に、伝言ゲームを行う(資料①参照)。 (両校合わせて9~10人の8グループで行った)</p> <p>② 災害が起きた後に大切なことについて学習することを伝える。</p>	 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えることが難しかったことを確認し、災害発生時にうまく伝わらなかつたら困ることを手掛かりにして、ほかにも困ることはないか等、「災害発生時に困りそうなことは何か」について意識を向けさせる
	<p>2. 災害が起きた後、避難所の様子について知る</p> <p>① 中越防災安全機構の方から講演していただき、次の点をおさえる。</p> <p>1) 「地震、津波、洪水、が発生した後の家や家の周りの様子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気、ガス、水道がとまることで困ること(携帯等の充電や水の大切さが感じられる写真等) <p>2) 「避難所の様子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物資の配給の様子 ・トイレの様子 ・高齢の方や障がいをもつ方、ペットの様子 ・自分たちにできる清掃等をする小学生の様子 ・情報ボード等、様々な情報が掲示されている様子 <p>3. 災害が起きた後、大切なことについて考える</p> <p>① 災害が起きた後の危険と身の守り方、避難してから大切なことについて、次のことに気付かせる。</p> <p>1) 「倒壊や液状化現象等の2次災害を想定して素早く避難する」</p> <p>2) 「正しい情報を得る、不確かな情報を流さない」</p> <p>3) 「避難所で、自分ができることは何か考える」</p>	<p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの住んでいる街には、どんな災害の危険があるか知っていますか？また、自分の住む家や通学路は安全かどうか知っていますか？ ・各写真や資料について、「何をしているのか」「何が困っていることなのか」を問う <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・本やインターネットで調べる <p>(資料の例)</p> <p>【資料】 新潟市地区別防災カルテ</p> <p>～震度分布図、風水害対策地図、津波対策地図等がある</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の様子や避難所の様子を見てもらいました。災害が起きた後にはどんな危険がありましたか、どのように行動することが大切ですか？ ・避難所では、どのように行動することが大切ですか？ <p>【期待される答え】 ~左記の(1)~(3)~</p>
【展開】		

【おとめ】	<h3>4. 学習してわかったことを確認する</h3> <p>① ワークシートに、「講演(授業)の感想」などを書かせて、発表させる。</p>	<h3>ワークシート</h3> <p>【ポイント】</p> <p>○ 「日頃から訓練等を通じて、危険箇所や避難所の場所の確認をしておくことや、人の話を聞く・正しく伝えることを普段から大切にする」を確認する</p>
【評論】	<ul style="list-style-type: none"> 講演のお話や写真資料から、地震や津波、洪水が発生した後の家や家の周りの危険性、避難所での生活の困難さについて理解することができたか 災害が起きた後の危険と身の守り方や避難所で行動の仕方について、危険事項や身を守る方法、行動の仕方を具体的に考えることができたか 災害の発生に備えて、普段から準備・確認しておく必要性を理解することができたか <p style="text-align: right;">(発言やワークシートの記述)</p>	

【授業実践の様子】



木崎小の避難者は 578 人です
 笹山小の避難者は 129 人です
 困ったことがあったら
 北区の西さん、東区の南さんに
 教えてください

【資料① 伝言文】

【主なスライド資料 等】



【感想】

メモ
 くり返し出てきた言葉や数字 など
 最初のひなん
 ニュースが見れない、正しい情報が得られないなど 道路が不通なこと
 津波が起きると 雨 断水

はじめて分かったこと

- ・高学年 = 下級生の世話
- ・子供がボランティアできる
- ・分かったら確認

○避難所では、よく知らない人たちと同じ場所で過ごしたり、情報を伝え合ったりすることがあります。今日は、木崎小・笹山小と一緒に学習しました。
 上手く伝えられましたか？上手く伝えるにはどうしたらよいと思いましたか？
 木崎小・笹山小と一緒に学習した感想とあわせて書いてみましょう

私も、伝言ゲームを勉強して伝えることができて良かったです。でも、木崎小の人たちは、友達のために苦しくくれたのどううれしかったです。それに、うまく伝えられなくて「あかじました」この合同防災講演会をふまえて、もしものことがあったら、正しい情報を詳しく伝え、協力をしていきたいと思いました。

578人
 129人
 ひなん 大変
 先のことを考える
 確認

「覚えておきたい」と思ったこと

情報 を伝える
 命を守る!!!
 ・早めのひなん
 ・不自由な方のゆうせん
 ・普段の生活を生かす
 ・大人と協力

「やらなければならない」と感じたこと

2) 岡方中学校区（北区）

対象校：岡方中学校・岡方第一小学校・岡方第二小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年5月28日 16:00～16:45 会場：岡方中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成30年8月20日 14:00～15:00 会場：岡方中学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	平成30年11月8日 16:00～16:45 会場：岡方中学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（平成31年度以降の防災教育の取組や課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
岡方第一小学校 岡方第二小学校	平成30年 6月15日	参観	隣接する保育園との合同避難訓練を参観。
岡方第二小学校	平成30年 8月8日	打合せ	10月開催の文化祭での防災学習について地域との連携や活動内容へのアドバイスを実施した。
岡方第二小学校	平成30年 9月7日	打合せ	新聞スリッパの作り方資料提供と、当日の進め方の確認を行った。
岡方第一小学校	平成30年 9月26日	打合せ	避難訓練を行う際、水害の想定でどのような活動ができるか内容の検討・アドバイスを実施。防災クイズの企画を提案した。
岡方第一小学校	平成30年 10月3日	メール	避難訓練時に行う防災教育プログラムのアドバイス資料を提供した。
岡方第二小学校	平成30年 10月21日	講座実施	全校児童及び保護者・地域住民に向けての避難所についての講話を実施した。
岡方第一小学	平成30年 11月19日	講座実施	避難訓練時に洪水をテーマにした防災クイズを実施した。
岡方中学校	平成30年 12月12日	打合せ	3年生対象のHUG（避難所運営ゲーム）の実施について打合せを行った。
岡方中学校	平成30年 12月18日	講座実施	実際の校舎を想定とした3年生対象のHUG（避難所運営ゲーム）を実施した。中学生として何ができるかワークシートを活用した。

【5/28 第1回中学校区ミーティングの様子】



【6/15 岡方第二小学校避難訓練の様子】



【8/20 第2回中学校区ミーティングの様子】



【10/21 岡方第2小学校 防災学習会の様子】



【11/19 岡方第一小学校防災クイズの様子】



【12/18 岡方中学校避難所運営ゲームの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

岡方中学校区はもともと地域との関わりが深く、これまでの連携を防災学習にどう活かしていくかを検討した。各小学校では、隣接している保育園と合同で避難訓練を実施し、5、6年生が保育園児の手をひいて誘導し共助の気持ちを育む活動を行った。また既存の行事を防災学習会として開催し、地域・保護者とともに平成31年度以降も継続できるよう工夫した学校もあった。

中学校は元々あった地域との関わりを活かしながら、校舎が避難所になることを想定としたHUG（避難所運営ゲーム）を通じて、地域の一員として生徒自身が中学生として避難所で何ができるのかを考える活動を実施した。

<岡方中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 ・ 阿賀野川の洪水, 新井郷川・新発田川流域の洪水及び安野川の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川の洪水では、地区のほぼ全域で浸水の可能性がある。 ・ 一部地域に土砂災害警戒区域等が分布しており、がけ崩れの危険がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が主導する中学生と保護者・地域との、地域貢献活動や地域交流活動などはたいへん良好な雰囲気の中で双方向的な取組がなされているが、有事の際を考えると、各自治会や地域での行事や活動への、中学生の自発的・自主的参加や交流を望んでいる。（特に地域への防災訓練など） ・ 自助・共助の意識を高くもちながら、地域に積極的に貢献できる中学生であってほしいと願っている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の一員としての自覚をもち、有事には進んで防災の行動ができる生徒 ・ 将来にわたって自分の身は自分で守ることができる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事から防災を考える （NIE教育の一環として、西日本豪雨の報道記事を題材に、防災を考える） ・ 避難所現地確認 （北区地域総務課・自治会長とともに、代表生徒が避難所現地確認・再点検） ・ 岡方地区防災訓練への参加 （コミュニティ協議会主催の防災訓練に、参加希望生徒が参加） ・ 全校防災教育① （『避難所運営〇×クイズ』をもとに、避難所・避難者について考える） ・ 全校防災教育②（各学年での自校プランの内容 ※下記参照）
<p>自校プランの内容</p>	<p>< 3年間を見据えた持続可能な防災学習の指導計画の作成と実践 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次：保護者や地域の人から防災を学ぶ（フィールドワーク） ・ 2年次：災害時に実際に役立つ活動を学ぶ（パッキング） ・ 3年次：避難所開設について考える（避難所運営ゲームHUG）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間のカリキュラムとして位置づけ、学習時間を確保する。 ・ 地域の自治会、コミュニティ協議会、防災士等と連携して活動に取り組む。

2. 岡方中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		地域との絆づくり①(地域貢献活動『岡方花の陣』)	春季避難訓練(地震)	全校防災学習(避難所と避難者について考える)		避難所指定所(岡方中学校)現地確認	地域との絆づくり②(地域交流活動『岡方むら祭』)	秋季避難訓練(地震→火災)		【地域の防災を知る】 (保護者や地域の人からの聞き取り調査)		
第2学年										【災害時の具体的実践】 (バッククッキング実習)		
第3学年										【救命救急法講習】	【避難所運営について考える】 (HUG:避難所運営ゲーム)	

3. 岡方中学校 防災教育指導例

全校	(学習のねらい) 避難所と避難者について考える ・過去の震災時における避難所の状況や課題を知る。 ・避難所のあり方や避難所における中学生の役割や行動について考える。
-----------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 避難所についての関心を喚起する ① 過去の震災（阪神淡路大震災，中越地震，中越沖地震，東日本大震災）の映像や写真を見て，避難所の状況や様子について知る。【資料1】 ② 今年度の実際の現地確認検討会（10月中旬，区担当者・自治会長・生徒会役員による中学校施設検分）時の画像や，新潟市・北区の避難所運営についての資料を見て，当事者意識をもつ。【資料2】【資料3】	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">【資料1】県防災教育プログラム（地震災害編）DVD</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">【資料2】避難所運営校舎図面図・現地確認状況画像</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">【資料3】新潟市避難所運営マニュアル（概要版）</div> 【指導のポイント】 ○自分たちの中学校も避難所になること。 ○自分がそこで避難生活をおくる可能性が十分にあり得ること。
【展開】	2. 避難所について知る ① 『避難所運営〇×クイズ』8問について考える。 （パワーポイントで問題提示） ② 設問ごとに，縦割り班で意見交換をし，班としての解答をワークシートIに記入する。 ③ 設問ごとに，なぜそう考えたかを説明する。 （各設問，2班程度を指名する。） ④ 設問ごとに，地域の状況や災害事例を交えて，指導者が解説を加える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ワークシートI（避難所運営〇×クイズ）</div> 【指導のポイント】（各設問に関する解説・指導内容） ○現在地から一番近い避難所に避難するのが原則だが，災害時どこにいるかわからないので他の避難所も把握しておく必要がある。避難所は，どんな人にも平等。 ○避難所の運営は，行政側ではなく，住民の代表や自主防災会が中心となり運営する。中学生も，避難所としての大きな戦力として期待されている。ただし，良かれと思うことでも，勝手な行動をしてはならない。 ○避難所では，家事は男子もすべきである。避難所では平穏時での役割分担も見直すことが必要になる。 ○避難所での水や保存食には限りがある。 ○避難所ではストレスがたまりトラブルも発生しやすくなる。その解消のための提言は悪いことではない。 ○ペットは避難者の癒し効果が高く，避難所でのペットの受入体制やルール作りも検討しなければならない。
	3. 避難所において自分たちができることを考える ① ワークシートIIを使って，避難所で困ることや不便を感じることにに対する解決方法について話し合い，ワークシートIIの表に書き込む。 ② 解決方法をもとに，自分たちにできることを話し合い，ワークシートIIの表に書き込む。 ③ ワークシートIIの表に書いたことをグループごとに発表し，全体で共有を図る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ワークシートII（避難所の運営について考えよう）</div> 【指導のポイント】 ○避難所生活では，災害による不安でパニックになる人がいること。 ○高齢者や乳幼児，妊婦，外国人，障害者など，避難所には様々な人がいること。

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① 避難所生活を実際に経験した（あるいは知人や友人が経験した）教職員の体験談を聞く。</p> <p>② 授業の感想、新たに知ったこと、考えたことをワークシートⅡに記入し、班で互いに発表し合う。</p>	<p>【指導のポイント】</p> <p>○避難所での行動に正解はなく、他者に対して何ができるのかを考え、それを実行するという態度や姿勢が大切であること。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所のイメージを把握し、避難所の課題や問題点について、自分なりに考えることができたか。 ・避難所における中学生の役割について、真剣に話し合っていたか。 ・自分自身が避難所生活に身を置いた場合には、避難所運営に主体的に協力することを通して、地域に貢献しようとする意識が芽生えたか。 	

【授業実践の様子】



【資料】（パワーポイントで提示したクイズ形式の設問）

<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q4 <避難所運営の基本①></p> <p>地域の防災訓練でも、お母さんやおばあちゃんを中心に、これまで何度も炊き出しの訓練をしてきました。炊き出しは、女の人に任せれば大丈夫です。</p>	<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q5 <避難所運営の基本②></p> <p>避難所運営スタッフに、思いきり声を出したり、思いきり体を動かす場所がほしいと要望しようと思ったら、お母さんから「みんなやりたいことを我慢してるんだから」と怒られました。</p>	<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q6 <避難所での食料></p> <p>避難所には、当面の水や食料が用意されているので、家からは持って行きませんでした。荷物で人のスペースが狭くなるし、自分の食料がない人が、他人のものをとったりするなど、トラブルの原因にもなると聞いたからです。</p>
<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q1 <岡方中学生として①></p> <p>大地震が発生し、岡方中学校が避難所として開設されました。私は岡方中学校の生徒であるし仲の良い友達とも会えるので、岡方中学校に避難してきました。</p>	<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q2 <避難所運営の基本①></p> <p>避難所の運営は、北区の区役所の職員の方々が一生懸命やってくれています。自治会長さんや私たちも、役所の方々に全力で協力しています。</p>	<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q3 <岡方中学生として②></p> <p>岡方中学校が避難所として開設されました。私は、校内の教室の位置やいろいろな物品などの場所がよくわかるので、率先していろいろな人に案内してあげました。</p>
<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q7 <避難所のペットの持同></p> <p>飼い主の気持ちはわからないでもないですが、避難所には様々な人が避難してきているので、「かわいい」「家族同然」といっても、避難所にペットをつれてくるのは、マナー違反だと思います。衛生上もよくないと思います。</p>	<p>【課題B】これだけは知っておこう！ 『避難所運営クイズ』 Q8 <避難所でのトイレの設置></p> <p>緊急事態なので、避難所のトイレは、できるだけ避難所の一カ所に集めて、くさい臭いもするので、敷地の端の場所に設置する方がよいと思います。</p>	

<岡方第一小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 阿賀野川右岸に位置し、東には福島潟がある。平成に入ってから大きな水害でも浸水していない。地区には大きな住宅はなく、鉄筋4階建ての校舎は水害時の避難場所となっている。 海拔3m、海岸線からおよそ15km内陸に位置し、津波の被害は想定されていない。 農村地帯で、農業従事者が多く、3世代、4世代で暮らしている家庭が多い。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域に住む人と共に暮らし、行事などに参加してお互いを大切に思う温かな地域
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域の地形や社会を理解し、愛着を持って地域に貢献しようとする児童 有事の際、落ち着いて状況を把握し、適切な判断ができ、自分や他者の身の安全を確保できる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集団下校訓練（4月） 火災想定避難訓練（4月） 保育園と合同で、地震発生後、津波災害想定避難訓練（6月） 不審者対応避難訓練（8月） 1年生対象 子どもの体験型安全教室（9月） 災害時児童引き渡し訓練（10月） 非常ベル訓練 休み時間の避難訓練
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災士による防災についての講話 防災の日 全校一斉災害授業 全学年で、「県防災教育プログラム」を活用した 地震・水害についての授業を行う。 1年・3年・5年 地震災害 2年・4年・6年 水害
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災授業の日の設定による定例化 岡方第一小学校防災教育の指導計画と指導案の作成（全学年）

2. 岡方第一小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	集団下校訓練	第一回 避難訓練 (火災)	第二回 避難訓練 (地震・津波 保育園と合同)		第三回 避難訓練 (不審者対応)	子どもの体験型安全教室 (一・二年)	引き渡し訓練	第四回 避難訓練 (火災) 防災の日全校一斉授業		緊急地震速報訓練		
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 岡方第一小学校 防災教育指導例

小学校低学年

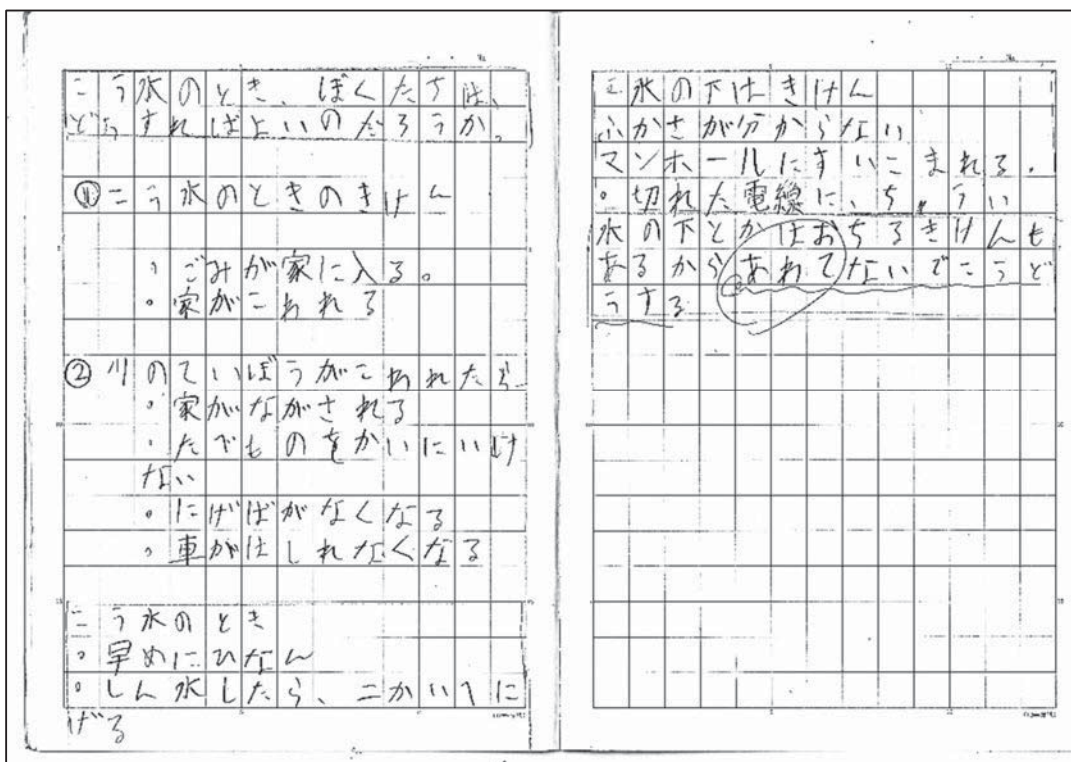
(学習のねらい) 大雨が降った時の身を守る行動を知る

- ・大雨で洪水が発生したときの危険性を知る。
- ・自分たちにできる備えや避難方法について理解を深める。

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 洪水が発生したときの危険性を知らせ、学習のねらいを知る</p> <p>① 川が増水している動画見せて、川があふれたらどんなことがおこりそうか考える。</p> <p>② 洪水が起こったときの身を守るための行動について学習することを知らせる。</p> <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> こう水のと看、ぼくたちはどうすればよいのだろうか。 </div>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の水があふれたら、どうなってしまうでしょう。 <p>◆資料 増水した川の映像</p> <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家が流される ・人が流される
【展開】	<p>2. 洪水の危険について考える</p> <p>① 洪水が起こったら、町はどんな様子になるのかを知らせ、道路が水につかったり、川があふれることがあることを押さえる。</p> <p>1) 道路が水につかってしまう。</p> <p>2) 川があふれる。</p> <p>② 大雨で浸水している写真を見せ、道路が水につかっているときに、次のような危険性があることを知らせる。</p> <p>1) 流れに足をとられ、流される。</p> <p>2) 車が止まってしまう。</p> <p>3) マンホールに吸い込まれる</p> <p>4) 切れた電線から漏電する。</p> <p>※水に浸かったところは、すべて同じ高さに見えるが、深い場所や側溝などがあっても分からなくなり、出歩くのは危険であることを知らせる。</p>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨がたくさん降って、洪水になったとき、どんなことが起こるでしょう。 <p>◆資料 道路が浸水している写真</p> <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路が水につかる ・家の中に水が入ってくる <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路が水につかってしまうと、どんな危ないことが起こるでしょうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流される。 ・おぼれる。 <p>◆資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンホールに吸い込まれる仕組みのイラスト ・電線が切れて漏電しているイラスト ・増水した道路を歩く人のイラスト ・下水噴射の映像 ・洪水時のニュース映像

	<p>3. 大雨の際に注意すべきことを知る</p> <p>① 大雨が降った時に、身を守るための行動として、以下のことを教える。(これを「まとめ」とする)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1) 道路が浸水する前に、早めに小学校やコミュニティセンターなどに避難する。</p> <p>2) 道路が浸水したら、決して外には出ないで、水に浸らない高い場所に避難する。</p> <p>3) 川や田んぼの様子を見に行ったりしない。</p> <p>4) 日頃から避難グッズを用意しておき、自宅に用意してある場所を家の人と確認しておく。</p> <p>5) テレビやラジオ、インターネットなどの情報を利用する。</p> </div>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降って、洪水になりそうなときは、どうすればよいでしょうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出ない。 ・家にいる。 ・舟を作る。 <p>◆資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズのサンプルや写真 ・地域の避難場所の地図
【まとめ】	<p>3. 学習してわかったことを確認する</p> <p>③ワークシートに、ふり返りとして、「授業の感想」と、「大雨が降ったらどうしたらよいか」を書かせ、発表する。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大雨が降ったら安全な避難場所や、高いところにいること ○ 流れる水には近づかないこと ○ ラジオやテレビ、インターネットなどで情報を集めること。
【自己評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ったとき、どのような危険があるか理解できたか ・より安全な避難方法について理解することができたか。 ・災害に備えて、防災グッズや、避難方法を日ごろから準備・確認しておくことよいことを理解することができたか。 	

【児童のノート】



<岡方第二小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は海拔 2.9m に位置している。阿賀野川, 新井郷川・安野川の洪水により浸水が想定される。また, 地区の大部分が軟らかい地盤であるため, 地震の際は強い揺れや液状化の可能性もある。 ・今年度の取組で防災に対する意識は児童も保護者も高まってきたところである。今後, その意識を継続できるようにしていくことが望まれる。 <p>※地域で起こりうる可能性の高い災害は地震, 津波, 洪水である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団下校での親子による危険箇所の確認, 防災学習での避難所体験等から, 自分の身は自分で守ったり, 互いに助け合ったりすることの大切さを理解し, 主体的に防災への取組を実践できるようになってほしい。 みんなが助け合える仕組みをつくりたい。 安全な環境づくりを進めたい。
<p>防災教育において, 目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の身は自分で守ることと互いに助け合うことの大切さがわかり, それを主体的に実践できる児童 ・自分の住む地域の災害時の危険箇所, 避難場所を理解している児童 ・災害時, お互いに助け合い, 必要なものを身近なもので工夫することができる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園との合同避難訓練（地震・津波を想定） ○全校防災学習会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの避難訓練, 避難所体験, 防災グッズ作り ○家庭教育講演会「避難所生活をよりよくするのは○○だ」
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズをつくろう（2 学年） ・地域の災害について考えよう（1～4 年） ・災害時の食事について考えよう（5・6 年） ・避難訓練の事前指導時間を活用した必須項目の学習
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科, 理科, 社会, 総合, 道徳など各教科と関連させて指導する。 ・避難訓練の事前指導では, 避難訓練の想定と合わせた災害の内容を扱う。 ・実践した資料を「防災学習ファイル」に綴り, それを見れば誰にでも実践できるようにしておく。

2. 岡方第二小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年										生活科 ふゆのあそび 【雪害編】必須1 地域の災害について考えよう ・雪が降ったら危ない場所		
第2学年			学活 避難・引き渡し訓練事前指導 【津波災害編】必須1～6		生活科 おかがただいすき 地域の災害について考えよう ・いざというとき集まる所・高い所		全校防災学習 【洪水災害編】必須1～6	生活科 おもちゃづくり 防災グッズづくり				道徳 かけがいのないのち 【原子力災害編】必須1
第3学年				社会 わたしたちの住む町はどんな町 地域の災害について考えよう ・危険なところ・安全なところはどこ？		学活 避難訓練事前指導 奇数学年【地震編】必須1～3・偶数学年【土砂災害編】必須1～3		総合 高森の歴史を調べよう 地域の災害について考えよう ・地域にはどんな災害があった？				
第4学年				社会 わたしたちの政令市新潟 地域の災害について考えよう ・災害が起きたらどうするの？								道徳 思いでつなげる命 【原子力災害編】必須2
第5学年								理科 流れる水のはたらき 【津波災害編】必須7				道徳 家族に感謝して 【原子力災害編】必須3
第6学年								家庭科 食べて元気に 災害時の食事について考えよう	理科 大地のつくりと変化 地震と噴火について知ろう			
								家庭科 くふうしようおいしい食事 災害時の食事を作ろう				

3. 岡方第二小学校 防災教育指導例

小学校全学年	(学習のねらい) 避難に関する意識について、地域の方と一緒に必要感を伴った避難所活動を通して、自ら考え行動する主体性を身に付けることができる
---------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 実際の避難所の様子から、そこでの必要な行動を知り、必要感をもつ。</p> <p>① 文化祭において作品鑑賞をしているときに災害が起きたことを想定しての避難訓練 →体育館へ地域ごとに避難</p> <p>② 講師（NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク）のお話から実際の避難所の様子を知り、課題意識を高める。</p>	<p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所に来た人はどこに何があるか分かりますか？ →学校をよく知っている自分たちで校舎案内をしたらどうだろう。 避難所では物品が不足するかもしれないね。 →身近なもので防災グッズがつかれないかな。 避難所生活が長くなると、疲れから笑顔がなくなる。 →地域の方を楽しませることはできないかな。 <p>【ポイント】</p> <p>実際の避難所の様子を映像で伝えたり、ロープでスペースを区切って狭さを体感させたりする。</p>
【展開】	<p>2. 模擬避難所（校舎）案内と防災グッズづくり</p> <p>① 模擬避難所（校舎）案内 地域ごとに各教室を案内する。 ・ 6年生が、地域の方々・保護者・下学年に、どの教室がどのように使われるのかを説明する。 ・ 自分の学年の教室では、文化祭の自分の展示作品についてそれぞれが説明や紹介をする。</p> <p>② 防災グッズづくり 地域ごとに新聞スリッパを作成する。</p> <p>3. みんなで楽しむ活動</p> <p>① 4, 5年生の器楽合奏 にじいろ音楽祭に向けて取り組んだ曲を発表する。</p> <p>② 神楽舞 総合的な学習で取り組んできた地域の伝統芸能である神楽舞を3～6年生が披露する。</p>	<p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が避難所となったとき、どの部屋がどのように使われるのだろう。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所の説明と作品紹介をすることで、子どもたちと地域の方々がお互いに一步深く知り合う場面とする。 <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所で不足したものを身近なもので作ることはできないかな。 <p>【ポイント】</p> <p>5, 6年生が新聞スリッパの作り方を下学年や保護者、地域の方々に教え、一緒に作成する。</p> <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所生活が長くなった方々に楽しんでいただくためにできることはないかな。 <p>【ポイント】</p> <p>自分たちの発表を伝える相手意識をもたせる。</p>

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>活動のまとめ 防災士より講評（2名） 教頭先生のお話 学習内容のまとめとお礼の言葉</p>	<p>【ポイント】</p> <p>同じ地域の方が集まって活動することには、お互いの顔が分かり絆を深められるという大きな意義がある。</p> <p>実際に災害があったときには、どこを通過してどこに避難するのか考えておかなければならない。</p>
【学習】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所ではどのようなものや活動が必要になるかを理解することができたか。 ・必要感を持ち、主体的に避難所活動（校舎案内・防災グッズづくり・楽しむ活動）をすることができたか。 	

【授業実践の様子】



(1) 実際の避難所の様子



たくさんの方が、体育館に避難してきている。自分たちができることはあるだろうか？



(2) 避難所で必要な行動は？

① 避難所に来た地域の人は、どこに何があるかわからないね。
→校舎案内をする。



地域の方は、校内の様子がわからないので、困るだろうな。



(2) 避難所で必要な行動は？

② 物品が不足するかもしれないね。
→代用できる防災グッズを作成する。



危険な物が落ちているかもしれない。身近にあるもので、スリッパが作られればいいな。



(2) 避難所で必要な行動は？

③ 避難所生活が長くなると、疲れから笑顔がなくなってしまうよ。
→地域の方を楽しませる。



みんな疲れて笑顔がなくなってきた。地域の伝統の神楽舞や音楽を披露して、楽しんでもらいたい。



3) 大形中学校区（東区）

対象校：大形中学校・大形小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年5月29日 15:00～16:00 会場：大形中学校	1. 本事業についての概要説明 2. 今後進めていく防災教育について情報共有 3. その他
第2回	平成30年10月9日 15:00～16:00 会場：大形中学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他
第3回	平成31年1月17日 15:00～16:00 会場：大形中学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
大形小学校 大形中学校	平成30年 5月29日	資料提供	5月10日研修会の振返り資料や地域教育コーディネーター向けの事業説明資料等を提供。
大形中学校	平成30年 6月5日	打ち合わせ	総合的な学習の時間における防災学習の進め方について相談。
大形中学校	平成30年 8月20日	打ち合わせ	総合的な学習の時間における防災学習の進め方について相談。
大形中学校	平成30年 9月20日	講座実施 参観	全学年対象の防災講話とその後の各学級でのファシリテーションを活用した話し合い活動の見学。

【5/29 第1回中学校区ミーティング】



【6/5 大形中学校打ち合わせ】



【9/20 大形中学校 防災講座】

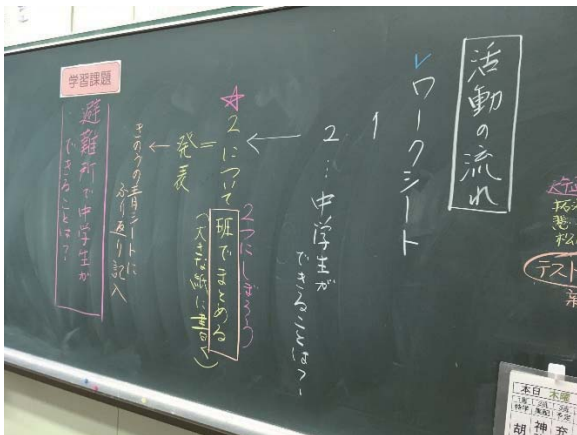


【9/20 大形中学校 防災講座】



【9/20 大形中学校 各学級での話し合い活動】

【9/20 大形中学校 各学級での話し合い活動】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

大形中学校区では、総合的な学習の時間を活用し、各学年での防災学習を計画した。その際、学習の動機付けについては、防災教育コンソーシアムスタッフが担当し、以降は区総務課、区社会福祉協議会、赤十字等地域の組織・団体と連携し活動を行った。総合的な学習の時間の枠で行ったため、連続した講話や体験を通して得た学びを話し合いやプレゼンテーションでアウトプットしたことで充実した学習活動になったのではと感じる。また、次年度以降の自校化を見据え、新潟県防災教育プログラムをベースに学校オリジナルの学習を組み立てた学校もあった。

<大形中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の避難場所に指定されており、災害時には多くの地域住民が避難に来ることが予想される。近隣には多くの、幼稚園・保育施設、高齢者・障害者福祉施設がある。 ・校区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。津波による浸水は広い範囲で想定されている。 ・阿賀野川の洪水、通船川流域の洪水および鳥屋野潟流域の洪水によって浸水の可能性がある。特に、阿賀野川の洪水ではほぼ全域での浸水の可能性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守れるように、防災意識を高め、避難時に適切な行動がとれるように正確な知識を身につけてほしい。また、地域を支える貴重な人材として、様々な場面で協力し、貢献できるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災など現代的な課題に対応するための知識・技術を備えた生徒 ・困難点、問題点から自己や集団の課題を設定し、課題解決に向けて取り組み、まとめたり、発信したりする力を備えた生徒 ・社会・世界とどのように関わり、よりよい人生を送るかを考え、目的意識をもって学ぶ生徒 ・多様性を尊重しながら互いのよさを生かして協働する力、リーダーシップやチームワーク優しさや思いやりを発揮しようとする生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校との合同避難訓練 ・総合での防災教育の実施
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は「自分の命を守れる」2年生は「災害を理解できる」3年生は「誰かの役に立てる」をテーマに「防災の絆づくり学習」を行う。 ・特別支援学校との合同避難訓練を行う。 ・心肺蘇生法、AED操作法等を行う。 ・地震、津波のメカニズム、大雨・洪水に対する避難等を学ぶ。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を中心に防災の絆づくり学習を計画的に行う。 ・災害を体験した方や地域の防災士、消防団として活躍されている方にゲストティーチャーとして参加してもらおう。また、東消防署、東区地域課等と連携をとれるようにする。

2. 大形中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			特別支援学校との合同避難訓練		[総合] 自分の命を守る 避難の仕方 防災工作				避難訓練 (火災想定)			
第2学年						[総合] 災害を理解する 防災教育プログラム						
第3学年						[総合] 誰かの役に立つ 地域で実践できること						

3.大形中学校 防災教育指導例

全学年	(学習のねらい) 実際の災害の映像を見て、災害の様子を知ること、災害・防災の理解を深める
------------	--

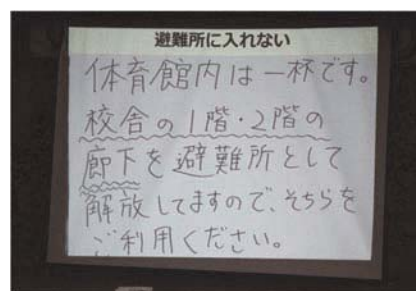
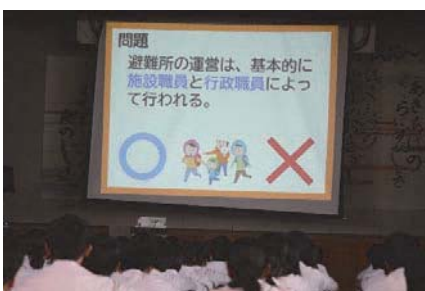
	学習内容(展開)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>【全校防災講演会】 「中学生が防災を学ぶ意義とは？」 講師：中越防災安全推進機構 松井千明氏</p> <p>1. 避難所生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の避難所生活の様子を写真でみる。 ・避難所生活に関する新聞記事をみる。 ・災害では、直接死もあるが関連死が多いことを知る。避難所生活も命を落とさないように気をつける必要があることを知る。 	<p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の運営は、基本的に施設職員と行政職員で行われると思いますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思う。 ・他の人も手伝う必要があるかも。 <p>【ポイント】 <実際の避難所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住が満たされているわけではない。 ・施設職員、行政職員は手一杯 ・いろいろな人が一斉に集まり、いろいろな問題が生まれる。
【展開】	<p>2. 考えてみよう！（ワークショップ） 避難所生活、あなたならどうする？</p> <p>① 食料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お腹が空いたので家から持ってきた食料を食べようとしたところ、まわりを見渡すと手ぶらで避難している人もいます。 <p>② トイレについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は断水で水が使えない状態です。 ・仮設トイレはまだ到着していません。 ・避難者から「水が流れずトイレが汚い」と報告がありました。 <p>3. 避難所生活で実際に中学生がやったことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の清掃、食料品の配布、物資の運搬、水の運搬、子どもたちの遊び相手 など 	<p>・個人で考えて、ワークショップを行い、お互いの意見を交換し合う。その後、全体で発表する。</p> <p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたなら、持ってきた食料を食べますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で準備したので食べる。 ・分けてあげる。 ・食べない。 ・子どもにあげる。 <p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたなら、トイレを掃除しますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除はしない。 ・簡易トイレをつくる。 ・交代で掃除する。 ・みんなで話し合う。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の運営は、大人も子どもも関係なくお互いが助け合いの気持ちをもってできることを分担して支え合うことが大事である。 ・助け合うためにはまず自分の命を守ることが大事である。

【お話し】	4. クラスごとに、講演会の振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを書き、ワークショップを行い、クラスで発表する。 学年ごとのテーマを考えることをきっかけに、講演会後の防災学習につなげていく。 	【問いかけ】 1年生 「避難所生活に必要なもの、困り感について考えよう」 2年生 「避難所生活の健康、メンタルについて考えよう」 3年生 「避難所生活で中学生ができることを考えよう」
【お話し】	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができたか。 防災について理解を深めることができたか。 お互いの考えを認め合い、協力して活動することができたか。 自然災害を身近な問題として捉え、学習することができたか。 	

<感想>

- 自分が想像していた何倍も大変そうだったし、避難所ならではの課題、問題があるんだなあと思った。
- 防災の大切さ、直接死より関連死の方が断然多いことや体育館に行けなくて、廊下で生活している人もいてびっくりした。実際に起こるかもしれないので、頭の片隅に留めておきたい。
- 避難所生活では、いつもの暮らしが帰ってくるのではなく、衣食住が満たされず、夜は眠れなかったり寝たきりの生活になったりと思った以上に不便なことが分かりました。助け合いが必ず必要だなと思いました。
- 災害が起きたときのことを考えるいい機会でした。関連死や食料不足などのニュースでみたと言うよりも現実味のあるお話を聞いて良かったです。
- 実際の避難所は想像以上に問題が多いことが分かったし、「避難できた！もう安心！」では済まないのだと知ってがっかりしました。でも、だからこそ私たちにもできることを教えてもらいました。
- 一人一人が頑張らないと避難場所では、よい環境を作ることができないことが分かりました。

【講演会の資料】



【ワークショップの様子】



<大形小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、日本海から約8kmのところに位置し、海拔1.0mである。 ・地盤が弱く、大きな地震が発生した場合、液状化したり、建物が倒れたりする危険性がある。 ・学校の近くには、阿賀野川、通船川がある。日本海を震源とする地震により津波が発生した場合、津波が阿賀野川、通船川を遡って到達する可能性がある。 ・平成23年7月の新潟・福島豪雨では、阿賀野川の河川敷まで水が浸水し、危うく堤防を乗り越えて、大形地区に流れ込む危険性があった。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を通して、災害時に必要な事柄を実践的に理解させたり体験させたりすることで、安全な生活を営むことのできる態度や能力を養いたい。 ・防災学習を通して、災害のメカニズムや地域の危険性、そしてその対応策を習得し、自分たちが生活する地域の自然とのかかわり方を学んでほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重し、「自分の命は自分で守る」という意識をもって生活している子ども ・日常生活における危険を予測したり、安全を確認したりして、的確な判断のもと安全に行動できる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4月20日（金）集団下校学習</p> <p>4月24日（火）火災想定避難訓練</p> <p>6月15日（金）地震・津波を想定した避難訓練 地震・津波に関する防災学習</p> <p>9月12日（水）大雨・洪水に関する防災学習（※1日学習参観を利用して） NPO法人ワーキング・ウィメンズ・アソシエーションの特別支援学級を対象にした防災ポケットメモの作成</p> <p>12月19日（水）雪害に関する防災学習 雪害を想定した集団下校学習</p> <p>1月下旬 不審者を想定した避難訓練</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震・津波、不審者を想定した年3回の避難訓練の実施。 ・地震・津波、大雨・洪水、雪害を中心とした防災教育の実施。 ・地域と連携した避難訓練の実施。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画に位置付け、確実に実践できるようにする。 ・地域の自然条件から起こりうる可能性の高い災害についての防災学習を優先的に実施する。 ・学習参観日を利用した防災授業を定例化する。 ・地域教育コーディネーターとの連携を行う。

3.大形小学校 防災教育指導例

小学校高学年		(学習のねらい)
学習内容(展開例)		資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震・津波について学習することを知る。 ・VTRで新潟地震の様子を視聴する。 ・地震について学習していくことを知る。	・新潟地震のVTRをスクリーンに投影する。
	2. 防災学習の講師について知る。 ・地震・津波に関する防災学習の話をしてくださる講師のことを知る。	・校長先生の紹介で、講師のことを知る。 (新潟市東区総務課安心安全担当)
【展開】	3. 地震に関する知識を得る。 ・VTRを視聴して、地震のメカニズム(プレートが関係していること)や震度やマグニチュードなど、地震に関する知識を得る。 ・VTRを視聴しながら、ワークシートに必要な情報を記入する。	・VTR(日本赤十字社が作ったもの)をスクリーンに投影する。 ・事前にワークシートを配っておく。
	4. 釜石市の奇跡について知る。 ・スライドを見て、東日本大震災の時に、釜石市の小中学生の命がほとんど助かった、「釜石市の奇跡」について知る。 ・スライドを見ながら、ワークシートに必要な情報を記入する。	・パワーポイントのスライドをスクリーンに投影する。
【まとめ】	5. ワークシートの確認をする。 ・横に並んで座っている4人グループで、ワークシートに必要な情報が書き込まれているかを確認し合う。	・横に座っている4人で、1つのグループになる。
	6. 学習してわかったことを確認する ・授業を受けて、考えたことや感想を紙に書く。	



新潟地震の様子【映像イメージ①】



新潟地震の様子【映像イメージ②】

災害のとき、 自分たちができることは 何だろう？

ひがしやくしよ そむか
東区役所 総務課

やまだ ありさ
山田 亜里紗



講師 提示スライド①

ひがしにほんだいしんさい 東日本大震災

でも、その中で
学校にいた児童1924人が
全員助かった小学校がある！

かまいし きせき
➔ 「釜石の奇跡」
と呼ばれている

講師 提示スライド②

かまいし きせき 釜石の奇跡

かまいし
釜石の子供たちが
いつも言われていたこと

- 率先してにげること
- 想定にとらわれず、
最善をつくすこと



講師 提示スライド③

災害時、自分たちにできること

自分の命は自分で守る！



人の命を救うことにも
つながる

講師 提示スライド④

4) 宮浦中学校区（中央区）

対象校：宮浦中学校・万代長嶺小学校・南万代小学校・紫竹山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月25日 16:00～16:45 会場：紫竹山中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成30年9月7日 14:00～15:00 会場：紫竹山小学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	平成31年1月 日 16:00～16:45 会場：紫竹山学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（平成31年度以降の防災教育の取組や課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
宮浦中学校	平成30年 6月22日	打合せ	今後の計画作成・予算の使い方について、事例を参照しながら打合せを行った。
南万代小学校	平成30年 7月6日	ヒアリング	各学年の発達段階と教科と関連付けた防災教育の内容についてヒアリングを実施。
万代長嶺小学校	平成30年 7月29日	相談	合同防災訓練時に低学年に見せる防災に関連するDVDについて照会
南万代小学校	平成30年 8月6日	打合せ	各学年の先生と授業内容の検討を行い、資料の提示・アドバイスを実施した。
万代長嶺小学校	平成30年 9月9日	参観	学校と地域が合同で行う地区防災合同避難訓練を参観
宮浦中学校 紫竹山小学校	平成30年 9月14日	メール サポート	地震を想定した危険箇所チェックポイントに関する資料を送付
南万代小学校	平成30年 9月19日	メール サポート	3年生地図作成の際の地震のチェックポイント、5年生バッククッキング、6年生避難者ゲストスピーカーについて、資料を照会した。
南万代小学校	平成30年 10月4日	参観	6年生、東日本大震災の避難者の体験談の授業を参観した。
南万代小学校	平成30年 10月12日	講座実施	5年生を対象に災害時の備えと災害食を作って食べるバッククッキングの講座を実施した。
南万代小学校	平成30年 10月18日	参観	1年生学校内で災害が起こったら校舎はどうなるのか？危険箇所を学ぶ授業を参観。
南万代小学校	平成30年 11月3日	参観	学習発表会で1年、3年、5年、6年の防災学習の発表を参観。
紫竹山小学校	平成30年 11月10日	参観	学習発表会で4年生「地域の防災について」の発表を参観。

【9/7 中学校区ミーティングの様子】



【9/9 万代長嶺小学校 地区合同避難訓練の様子】



【10/4 南万代小学校 6年生避難者の講話の様子】



【10/12 南万代小学校 パッククッキングの様子】



【11/10 紫竹山小学校 学習発表会の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

宮浦中学校区は、商業地が近く、マンションなどが多い地域のため、各校とも地域人材とつながることが課題であり、防災士、語り部、自治会、行政などと連携しながら、平成31年度以降への自校化を模索した一年であった。

小学校では、防災学習で学んだことをまとめ、学習発表会で寸劇やデモンストレーションをするなど保護者や地域住民への普及啓発を行った学校もあった。また、自治会の防災訓練に全校生徒で参加した学校など地域の特性を活かした特色のある活動が見られた。

平成30年度、地域人材と連携した実践を行ったことで新たに見えてきた課題を、それぞれの学校がどのように活かしていくのか期待したい。

<宮浦中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>・防災教育を実践する上で、その必要性和成果を示すことが重要です。また、防災対策や防災教育の必要性を理解しても「具体的にどうしたらいいのかわからない」というのが実態です。近隣の教育機関や地域との連携が弱いことも地域の実態として挙げられます。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>・毎年、地震や風水害など、多くの特殊な自然災害が発生しています。この自然災害による被害を少しでも小さくするために「自助」「共助」「公助」の取組が重要です。地域に属する一人一人の防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進することなどにより、地域の防災力を強化することが重要です。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>・災害から自分の命を守り、身近な人を助ける自助・共助が重要であることを理解させるとともに、日頃の訓練・教育の積み重ねにより災害を減ずる技術を習得させ、災害発生時に適切な判断の下、全員がスムーズに、かつ安全に避難活動ができる実践力を身につけることを目指します。</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>①全校体制での避難訓練を2回実施しました。 1) 地震・津波を想定して屋上への避難誘導(6月) 2) 火災(調理室)を想定して体育館への避難誘導(11月) ・地域の消防隊の方々にも来校いただき、講評と指導をいただきました ②地域の防災マップづくり(1年生) 5月～10月までの総合的な学習の時間を利用し、防災の学習を計画的に進めながら、まとめとして10月に地域のフィールドワークを地域の防災担当の方と一緒にを行い、防災マップづくりに取り組みました。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<p>・自分たちのできる範囲で取り組むことを基本に計画しています。具体的な取り組みとしては、年に2回の避難訓練(想定内容を変え、様々な場面での訓練・地域の消防団との連携)と1年生を中心とした防災教育(防災マップづくり)に地域の方々と共に取り組んでいます。</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>・一人一人が防災教育の担い手であることを意識して、日常的に行動することが重要です。そのために、避難訓練だけで終わらせるのではなく、その実践を通して身近に災害が発生した場合にどう対処するのかその適切な判断力と行動力を身につけさせたいと考えます。職員研修や外部の関係機関と連携しながら継続的に自校プランに取り組んでいきます。</p>

2. 宮浦中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

6日(水) 全校一斉避難訓練(地震・津波想定)

【防災教育】(総合的な学習の時間)
 ・防災の基礎知識～様々な災害～
 ・地域の防災について～身近な課題～
 ・フイールドワーク～防災マップ～

16日(金) 全校一斉避難訓練(校舎火災想定)

3.宮浦中学校 防災教育指導例

中学校1学年	(学習のねらい) 被害を最小限にとどめるために、災害時の人間の心理を知る
--------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 前回の学習を復習し、今日のねらいを伝える</p> <p>①前時の内容をまとめたスライドを見る。 ②生徒が書いた前時の感想を聞く。 ③今日のねらいを確認する。 「学習課題：自然災害の際、人はどのように考え、行動するのか知る」</p>	<p>【ポイント】 スライド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ防災学習が必要なのか、を振り返らせる。 ・防災学習は、自分の命や大切な家族、友人の命を守るために必要であることを再度強調する。 ・生徒の感想を紹介し、全体で共有することで、学習に参加する意識を高める。 ・前時の学習と本日の学習のねらいを関連させ、展開の問いに入る。
【展開】	<p>2. 災害時の人間の行動心理を知る（正常性バイアス）</p> <p>①問いをきっかけにして、人間は災害時、どのように行動するのか関心をもつ。</p> <p>②火災報知器が鳴ってから部屋を出るまでの行動を実験したVTRを見る。</p> <p>③人間の正常性バイアスについて知る。 「人間の行動は<u>周り</u>の人に<u>左右</u>される傾向がある」 「人間は他の人が動かないと<u>自分</u>も動かない傾向がある」 「人間は、危険な状況でも、<u>正常</u>だと間違っただけの思いこみをしてしまう」 「結果として人は、災害時に<u>逃げ遅</u>れてしまう」</p>	<p>【問い】 スライド・ワークシート</p> <p>「もしビルの中や宿泊先等で火災報知器が鳴ったら？ 次のどれかに手を上げてみよう。なぜそのような行動をとりますか？」</p> <p style="padding-left: 20px;">①すぐに非常口や避難経路を探す ②とりあえず周りの様子を確認する ③そのままの状態待つ</p> <p>【想定される答え】</p> <p style="padding-left: 20px;">①…全体の2割 ②…全体の7割 ③…全体の1割</p> <p>「火災報知器が鳴ってから部屋を出るまでの実験 VTR を見てみよう。」 【資料】災害時の行動心理 VTR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被験者1人の実験→部屋を出るまで平均2分20秒 ・被験者3人の実験→部屋を出るまで平均4分15秒 ・被験者10人の実験→部屋を出るまで平均6分 <p>【問い】</p> <p>「なぜこのように人間の行動は遅れるのですか？」 「このバイアスが働くと、災害時、人間はどのようになってしまうか？」</p> <p>【想定される答え】</p> <p>「大丈夫と思ひ込み、<u>逃げ遅</u>れてしまう。」</p>
	<p>3. 災害時の人間の行動心理を知る（正常性バイアス）</p> <p>①問いをきっかけにして、災害時の、この状況下での人間は、どのように行動するのか関心をもたせる。</p>	<p>【問い】 スライド・ワークシート</p> <p>「強い地震が発生した。津波の恐れがあり避難することになった。近くに小さな子供がいる幼稚園や一人暮らしのお年寄りがいる施設がある。あなたはどうか行動しますか？ 次のどれかに手を上げてみよう」</p>


<p>【展開】</p>	<p>②東日本大震災の宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地区の行動を分析したVTRを見る。</p> <p>③人間の愛他行動について知る。 「自然災害のとき、人間は自身の危機回避を優先せず、他者を助けようとする行動に出てしまう」</p> <p>④同調バイアスを知る。 「判断や行動を、周りに合わせようとする心理が働き、行動してしまう」</p>	<p>①率先して手助けする ②手助けできることはないか、立ち寄る ③自分の避難を優先させる</p> <p>【想定される答え】 ①…全体の2割 ②…全体の6割 ③…全体の3割</p> <p>「巨大津波その時ひとはどう動いたか VTR を見てみよう。」【資料】巨大津波その時人はどう動いたか VTR</p> <p>【問い】 「愛他行動や同調バイアスは、どのような場面で起こり、その結果どのようになるだろうか」</p> <p>【想定される答え】 「一人暮らしの高齢者を助けようとして自分も津波に巻き込まれる」 「周りの人もそうしているから自動車で公民館や中学校へ避難しようとする。火災の際、何人かが出口へ急いだため、多くの人が一挙に出口に殺到し、逃げ遅れる」</p>
<p>【まとめ】</p>	<p>4. 学習内容を確認し、自己評価と振り返りを記述する 「正常性バイアス、愛他行動、同調バイアスにより、結果として災害時に誤った判断や行動をしてしまう」</p>	<p>【問い】 スライド・ワークシート 「災害時に行動する際には、どのようなことに気をつける必要がありますか」</p> <p>【想定される答え】 「思い込みに気づき、自分で考えて判断、行動する」</p>
<p>【評価】</p>	<p>・災害に巻き込まれた際の人間の心理や行動を知ることができたか。 ・被害を最小限度にとどめるための行動や心構えに、興味や関心をもったか。 ・今日の学習活動を振り返り、考えたことや感じたことを、正常性バイアス、愛他行動をキーワードに記述する。</p>	

1. もしビルの中や宿泊先等で火災報知器が鳴ったら？

①～③のどれかに手を上げてみよう。

- ①すぐに非常口や避難経路を探す
- ②とりあえず周りの様子を確認する
- ③そのままの状態で待つ

「火災報知器が鳴ってから部屋を出るまで」の実験VTRをみてみよう(5分)。



1. もしビルの中や宿泊先等で火災報知器が鳴ったら？

①被験者1人の実験 → 部屋を出るまで平均(2)分20秒
②被験者3人の実験 → 部屋を出るまで平均(4)分15秒
③被験者10人の実験 → 部屋を出るまで平均(6)分

「人間の行動は、**周り**の人に**左右**される傾向がある。」
「人間は、他の人が動かないと**自分**も動かない傾向がある。」
「人間は、危険な状況でも、**正常**だと間違った思いこみをしてしまう。」


人間の正常性バイアス → 人間は**正常**な状態と思いこみたい思いこんでしまう傾向のこと。

結果として人は、災害時に**逃げ遅れ**てしまう。

2. 強い地震が発生した。津波の恐れがあり避難することになった。近くに小さな子供達がいる幼稚園や一人暮らしのお年寄りがいる施設があるのだが、あなたはどの行動しますか？

- ①率先して手助けする
- ②手助けできることはないか、立ち寄る
- ③自分の避難を優先させる

「巨大津波その時人はどう動いたか」東日本大震災の宮城県名取市閑上地区の行動をみてみよう。



2. 避難の際、近くに子供達がいる幼稚園やお年寄りがいる施設があるが、あなたはどの行動しますか？

- ① **正常性バイアス**
突発的事態に際して、危険でないと思い込む心理。(海岸から遠い地域の人たちほど安心感があるため、逃げなかった。)
- ② **愛他行動**
自身の危機回避を最優先せず、他者を助けようと思ひ行動すること。(一人暮らしの高齢者を助けようとして自分も津波に巻き込まれた。)
- ③ **同調バイアス**
判断や行動を周りに合わせようとする心理。(周りの人もそうしているから公民館や中学校へ避難しようとする。火災の際、何人かが出口へ急いだため、多くの人が一挙に出口に殺到し、逃げ遅れた。)

結果として人は、災害時に**誤った**判断や行動をしてしまう。

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の全域が津波浸水予想地域となっている。 ・児童の登下校路には大型のマンションやビル, 商店街がある。また, 通学路は細い路地が多く, 大きな地震が発生した際には頭上からの落下物で命に危険を及ぼす可能性が高い地域である。 ・マンションに住んでいる家庭もあり, 住民同士が関わり合う経験が乏しい児童もいる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は, 地域と学校（教職員, 保護者）が共に協力し合い, 日頃から児童の安全を見守り, 安心して生活できる地域にしていきたいと考えている。 ・学校は, 日常の学校生活や防災教育を通して, 児童には災害や避難に関する正しい知識や技能を身に付けさせると共に, 有事には学びを生かして命を守るための判断をし, 実践する力を身に付けさせたいと考えている。
<p>防災教育において, 目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守ることの大切さを理解し, 主体的に判断・行動する児童 ・防災に関する正しい知識と技能を身に付ける児童 ・自分も地域住民の一人であることを意識し, 共助の気持ちを高める児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団下校訓練 ・非常時における避難の仕方指導 ・休み時間中の非常ベル・放送訓練 ・地震及び火災発生時の避難訓練 ・ばんなが防災デー（一日学習参観日） <ul style="list-style-type: none"> 防災教育プログラムの地震編, 火災編の全校一斉公開授業 地域合同防災訓練（万代コミュニティ協議会, 長嶺コミュニティ協議会） 非常時を想定した給食体験（非常食を食す） 地震後の津波を想定した引き渡し訓練
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の避難訓練に加え, 1日学習参観日を「防災デー」として, 児童, 教職員だけでなく, 保護者も含めて地域の防災訓練に参加できるようにした。通常の訓練では「避難の仕方」を身に付けさせるために, 「防災デー」では「災害時に自分にできること」を見学や体験を通して考えさせるために行った。 ・非常時を想定し, 非常食の給食を全校で体験した。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災担当者と打ち合わせを行い, 改善できることを修正していく。 ・防災士や地域の防災に精通している専門家と連携し, 講演や訓練の助言などを通して最新情報を取り入れ, マンネリ化を防ぐ。

2. 万代長嶺小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	集団下校訓練	放送訓練	避難訓練（地震後、火災想定）	集団下校訓練		防災デー（万代長嶺小学校区防災訓練） 午前：防災教育プログラム、地域住民と合同訓練 午後：引き渡し訓練（地震後、津波想定）				避難訓練（不審者対応）	集団下校訓練	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3.万代長嶺学校 防災教育指導例

小学校全学年	(学習のねらい) 地震・津波発生時の避難の方法を考えたり、防災訓練や避難訓練を体験したりすることを通して、自助、共助の意識を高める
--------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【一時間目】	1. 防災教育プログラム「地震編」「火災編」を行う。 これまでの指導実績により、以下の内容を各学年で指導した。 【低学年】 1年生…津波（必須1） 2年生…火災（必須1） 【中学年】 3年生…火災（必須3） 4年生…津波（必須3） 【高学年】 5年生…津波（必須5） 6年生…火災（必須5）	【ポイント】 ・資料は新潟県防災教育プログラムに掲載されているものを基本とし、校内、校区にある表示や看板を必要に応じて取り扱うことで、より実践に近いものにする。
【二時間目から四時間目】	2. 地域の防災訓練に参加する。 【訓練内容】 ① 初期消火訓練 消火器を使用した小さな火災の消火方法を見学、体験する。 ② 心肺蘇生法、AED使用（手配）訓練 119番通報の呼びかけ、AEDの手配、胸骨圧迫を見学・体験する。 ③ 応急手当訓練 応急担架の作り方と負傷者の搬出を見学・訓練する。 ④ 簡易テント・トイレ内見学、簡易ベッド設置訓練 簡易テントとトイレ内の見学、簡易ベッド設置の見学・訓練する。	【ポイント】 ・低学年、中学年、5年生、6年生に分かれ、4つの訓練をローテーションで参加する。 ・地域の防災訓練に参加することで、自分も地域の一員であることを自覚させ、今後は学校行事以外にも自ら参加しようという気持ちをもたせる。
【給食】	3. 非常時の給食を体験する。 災害が発生し、給食の供給が間に合わない場合の非常時給食を体験する。 【非常時給食の献立】 ・ナン、レトルトカレー、リンゴジュース	【ポイント】 ・日頃食べている給食と比較させ、「量」「温かさ」「食器」などの違いがあるものの、非常時にはこのようにして食事をとる必要があることを知る。
【五時間目】	4. 避難訓練後、引き渡し訓練を行う。 地震、津波対応の避難訓練を行う。その後、保護者への引き渡し訓練を行う。	【ポイント】 ・地震に対する身の守り方、津波に対する身の守り方を指導する。 ・保護者に訓練の主旨を伝え、児童と同じように真剣に参加してもらう。

【評】

- ・新潟県防災教育プログラムの地震や津波の学習において、内容を理解することができたか。
- ・地域の防災訓練において、地域が自主的に防災訓練を行っていることや訓練内容を知り、共助の気持ちを養うことができたか。
- ・地震、津波避難訓練の際、指示を正しく聞き取り、自主的かつ安全に緊急避難することができたか。

【活動の様子】



【AED 使用訓練】



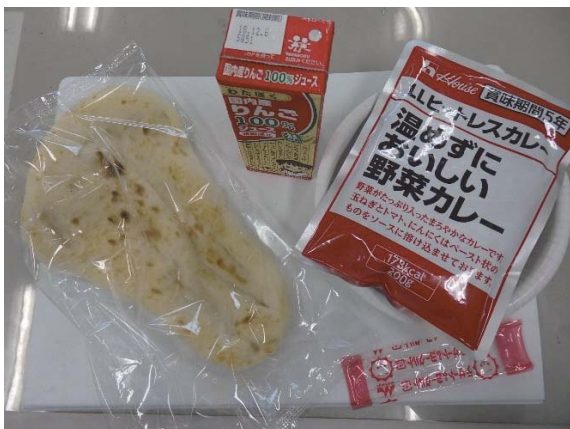
【初期消火訓練】



【応急手当訓練（簡易担架の作り方）】



【簡易ベッド設置訓練】



【非常時の給食献立】



【引き渡し訓練】

<南万代学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、新潟駅北側の繁華街に位置し、学校周辺は人や車の往来が多い。海拔0m地帯にあるため、豪雨時や排水機の破壊時には浸水の危険性がある。校地のすぐ脇に信濃川が流れ、河口からは約4kmの距離にあるため、津波が発生した場合には大きな被害が出る。 ・校地全域が信濃川の旧河道上にあるため、大規模地震発生時、液状化現象による地盤沈下、地下水の噴出、噴砂などの危険がある。 ・児童の通学路沿いには多数の高層マンションや大型商業施設があるため、地震が発生した場合には倒壊・火災発生の危険性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治会による合同防災訓練を毎年行い、希望した児童も参加しているが、地域住民の防災訓練への参加意識等個人の温度差が大きい。 ・校内の避難訓練は、授業時間や休み時間を想定して行っている。しかし、災害は児童の登下校時や自宅にいるときなど、学校外で起きる可能性もある。そこで、災害発生時、自らの危険を予測し、危険を回避できるよう、その方法を学ばせたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に、自らの危険を予測し、危険を回避できる子ども。 ・安全で安心な社会作りに貢献する意識をもつ子ども。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のセーフティースタッフ、補導部長参加の集団下校訓練(4月) ・地震、津波発生時の避難訓練及び引き渡し訓練(6月) ・リトルファイヤースクール(6月) ・火災時における避難訓練(9月) ・不審者対応の避難訓練及び警察署員による避難の仕方の指導(1月) ・新潟県防災教育プログラムを活用した授業。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、総合的な学習の時間を活用した新潟県防災教育プログラムの実施。 ・地域安全マップ作り ・年3回の避難訓練の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育計画に基づき避難訓練の計画を立て、年間行事に優先的に位置づける ・新潟県防災教育プログラムをカリキュラムに位置づけ、計画的に取り組めるようにする。 ・地域教育コーディネーターとの連携を行う。

2. 南万代小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	集団下校訓練											
第2学年		非常ベル訓練										
第3学年		校区調べ (社会)										
第4学年			新潟県防災教育プログラムを活用した授業(地震・津波・土砂災害)									
第5学年			第一回避難訓練及び引き渡し訓練(地震・津波想定)	安全なくらしと町づくり (社会)								
第6学年					新潟県防災教育プログラムを活用した授業(洪水災害)	第二回避難訓練(火災)	新潟県防災教育プログラムを活用した授業(原子力災害)					
							ご飯を炊いてみよう(家庭科)					
								町の幸福論 (国語)				
											新潟県防災教育プログラムを活用した授業(雪災害)	
												第三回避難訓練(不審者)

3.南万代小学校 防災教育指導例

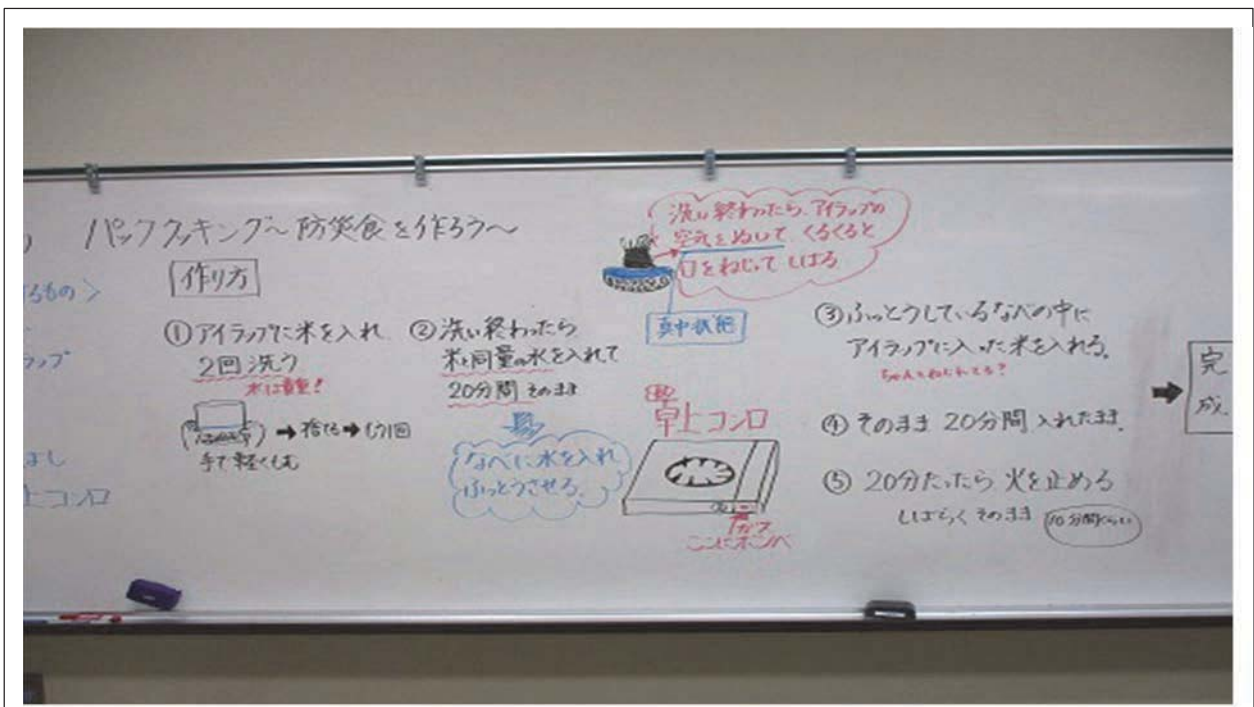
小学校高学年		(学習のねらい) 災害発生時に、自分で『自分の命を守る』ための知識や技能を身に付ける ・自分たちができる防災対策について知る。	
		学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 様々な災害について知り、災害が起きたときに困ることを考える。(2時間)</p> <p>① 熊本地震, 西日本豪雨, 新潟地震, 三条の大雨の写真を提示し, 災害によって, ライフラインの切断や道路の切断等が引き起こされることをおさえる。</p> <p>② 学習のねらい「災害でどんなことが困るか。」をおさえる</p> <p>③ 学年内で発表会をする。</p>		<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きて, 電気, 水, ガスが止まると, どんなことが困るでしょう。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べられない。 ・住めない。 ・寝られない。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○被災後72時間(3日間)生きること, 避難袋・備蓄食の準備が大切であることを説明する。
【展開】	<p>2. 72時間生き延びるために用意する物やその活用方法を知る</p> <p>① ゲストティーチャーに来校していただき, 何をとおくと良いのかについての話を聞く。</p> <p>② 3日間生き延びるために, どんな物を用意したら良いか, 家にある物を調べる。</p> <p>③ 備蓄品でパッククッキングのごはん・スープ・カップケーキを作る。</p>		<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日間生き延びるために常備しておかなければならない物は何でしょうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水 ・非常食 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○備蓄食を使ってパッククッキングで作った物を食べることにより, カセットコンロと鍋があれば簡単に普段通りの食事ができることを実感させる。 ○非常食ではなく, 日常食べている食品を備蓄し, 食べた分だけ買い足すローリングストックが有効であることを指導してもらう。

【おもしろ】	4. 分かったことをまとめて、学習発表会で伝えよう(12時間) これまで学んだことを全校児童や保護者、地域の方にわかりやすく伝える方法を考え、発表する。	【ポイント】 ○ テーマ「災害が起こると何があるか。」「どうやって食べ物を作るか。」「備蓄した方が良い物。」について伝える方法を考え、発表する。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こり、ライフラインが切断されると、どんなことが困るか分かったか。 ・災害発生時に、自分で「自分の命を守る」ために、家でどんな物を備蓄すれば良いか分かったか。 ・備蓄品を使って、食べ物を作ることができたか。 ・「命を守る」ために、できることをまとめ、分かりやすく伝えることができる。 	

【授業実践の様子】



【板書】



<紫竹山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態</p> <p>※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の南側には鳥屋野潟があり、校区の大部分が海拔以下の場所に面している。特に新潟バイパス以南の鳥屋野潟周辺や新潟駅南周辺はその傾向が強く、洪水・津波には非常に弱い地域である。 ・地区の大部分が柔らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。特に液状化の可能性は非常に高い。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会と学校が連携して、毎年地域の防災訓練を行っている。年々保護者、地域住民の参加者が増えているため、さらなる保護者・地域の防災に関わる意識向上を図っていききたい。 ・学校では、毎年、火災想定、地震想定、津波想定、不審者想定 of 訓練を4回行っている。繰り返し訓練してきた結果、児童は冷静・迅速に行動することができる。児童のさらなる避難に関わる適切な判断力・行動力を養っていききたい。 ・校内での防災教育の成果を生かし、家庭に戻ってからの災害に遭った時に安全に行動できる力を、育成していききたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域の特徴やそのための災害の危険性について知り、身の回りの危険についての関心・意識を高め、自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、自主的に安全を確保するための行動ができる子ども。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○4年生を中心として、総合的な学習の時間に防災教育（防災マップ作り）を取り入れた取組（5月～11月） ○地震・火災を想定した避難訓練の実施（5・6月） <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟県防災教育プログラム」（地震災害編）を用いた事前指導（全学年） ○津波を想定した避難訓練及び引渡訓練（7月） <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟県防災教育プログラム」（津波災害編）を用いた事前指導（全学年） ・保護者も参加した引渡訓練（引渡方法の説明と実際） ○紫竹山コミュニティ協議会防災訓練（11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・総合学習と地震想定、津波想定 of 避難訓練を関連させた防災学習を行い防災意識を高める。 ・新潟県防災教育プログラムに基づいた防災教育の実施。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災士と連携した、今後の継続した防災学習について協議する。 ・各教科・総合学習と関連した防災教育を継続すると共に、4年生以外の学年についての実践についても蓄積し、全学年を通したより実践的な防災教育計画になるように、継続的に改善していく。 ・宮浦中学校区内の小中学校と連携した防災教育について協議する。

2. 紫竹山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	生活 「がっこう だいすき」											
第2学年	生活 「町のすてき 大はっ見」											
第3学年	社会 「私たちの大 好きな町」											
第4学年	社会 「安全なくらし とまちづくり」											
第5学年	社会 「わたしたちの くらしと国土」											
第6学年												
			第1回避難訓練 (地震想定) 第2回避難訓練 (津波想定) 引き渡し訓練			第3回避難訓練 (不審者侵入想定)				第4回避難訓練 (火災想定)		
				総合 「鳥屋野潟博士 になろう」				理科 「風の働き」			社会 「わたしたちの県 のまちづくり」	
							総合 「わたしたちの防災 地図を作ろう」				社会 「国土と自然とと もに生きる」	
							理科 「台風の接近」 「流れる水の はたらき」				理科 「電気と私たちの 生活」 「人と環境」	
							理科 「大地のつくり と変化」					

3. 紫竹山小学校 防災教育指導例

小学校4学年	<p>(学習のねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水・津波災害のことを理解することで、災害時の対応力を習得する。 ・防災マップ作りのための地域探検を通して、校区内の避難場所やその周辺についての理解を深める。 ・児童を通じて、家庭や地域の防災意識の向上を図る。
---------------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【オリエンテーション】	<p>1. 紫竹山小学校区の様子を知ろう</p> <p>① 亀田郷の学習を通して、紫竹山小学校区は「芦沼」と呼ばれるような低湿地帯であったこと理解する。</p> <p>② 紫竹山小学校区は、現在は親松排水機場により乾田の状態になっていることや、亀田郷の排水の仕組みを理解する。</p> <p>③ 新潟市のハザードマップを元に、紫竹山小学校区や自宅周辺の海拔を理解する。</p>	<p>○社会の学習と関連して、亀田郷について学習する。</p> <p>【校外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟・福島潟・佐潟 ・江南区郷土資料館・新潟市歴史博物館 ・親松排水機場 <p>【出前授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県新潟地域振興局農林振興部農村計画課 <p>○紫竹山小学校区の海拔について調べる。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮浦中学校区津波ハザードマップ(浸水想定図) ・紫竹山小学校区白地図 ・新潟市津波浸水想定動画(YouTube) ・釜石の奇跡(DVD)
【防災マップ作り】	<p>2. 自分の住む地域の災害の際の危険箇所を調べ、防災マップを作成する</p> <p>① 防災士を招いての防災マップ作りのオリエンテーションを行い、防災マップの作り方について理解する。</p> <p>② 防災士、地域ボランティアと共に、自分の家がある地域を歩いて、避難場所や避難する際の危険箇所、海拔表示シートを見つけて、地図に書き込んだり、デジカメで写真を撮ったりする。</p> <p>③ 地域探検の結果を基に防災マップを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモや写真を大きな地図に貼り付ける。 ・地域を歩いて見たこと、気付いたことを話し合う。 ・みんなで相談して、地図上に避難場所まで最も安全な経路を書き込む。 <p>④ 防災士を招き、各地域毎に発表会を行う。</p> <p>⑤ 防災士の感想や意見を基に、防災マップを修正する。</p>	<p>○防災マップの作り方について知る。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひなん地図WS講座(パワーポイント資料) <p>○地域探検で防災マップの資料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災士2名、地域ボランティア2名の協力を得て、各地域毎(15班)に避難経路に沿って危険箇所、災害時に役に立つ施設を調査。 <p>○防災士3名、地域ボランティア1名を招いて、発表会をすることを児童に知らせ、各地域毎(15班)に、防災マップを作成する。</p> <p>○防災士から発表に関わる感想・助言をいただき防災マップの修正及び活動のふり返しを行う。</p> <p>○以下のような役割分担を行い、発表資料の作成及び発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紫竹山小学校区の海拔と災害に関わる特徴 ・地域毎の防災マップ(3班) ・避難の際に気をつけること ・災害の際に役立つグッズ
【学習発表会】	<p>3. 学習発表会に向けて活動内容をふり振り返り再整理する</p> <p>① 今まで調べてきたことを整理して、役割分担し、学習発表会で発表する。</p>	

【評価】

- ・防災マップを作成する活動を通して、自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺の避難場所や避難経路での危険箇所について理解することができたか。
- ・非常用持ち出し品、避難の際に気をつける事など、日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。
- ・学校での活動成果を基に防災について家族で話し合い、防災に関わる意識を共有することができたか。

【活動の様子】



地域探検（9/26）



防災マップの作成（9月～10月）



防災士を招いての発表会（10/18）



学習発表会（11/10）

5) 高志中等教育学校（中央区）

対象校：高志中等教育学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月20日 16:30～17:15 会場：高志中等教育学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他
第2回	平成30年10月24日 16:00～16:45 会場：高志中等教育学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他
第3回	平成30年11月8日 16:30～17:15 会場：高志中等教育学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
高志中等教育学校	平成30年6月20日	資料提供	5月10日研修会の振り返り資料や地域教育コーディネーター向けの事業説明資料等を提供。
高志中等教育学校	平成30年10月24日	参観	避難訓練とその後の各学級での振り返り活動の様子を参観。
高志中等教育学校	平成30年12月1日	資料提供	10月24日の避難訓練後の振り返りワークシートについて考察した資料を提供。

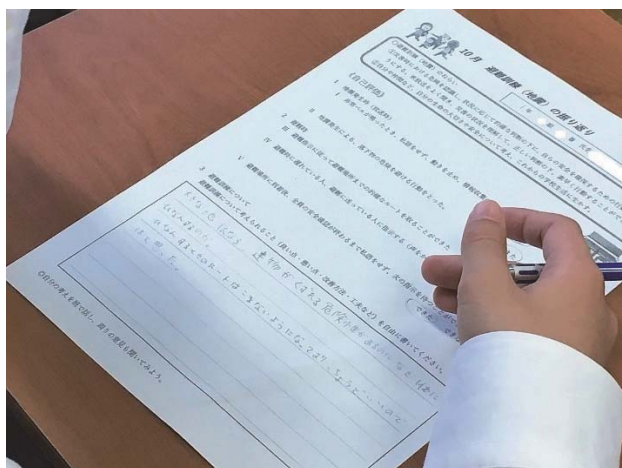
【10/24 地震想定避難訓練】



【10/24 地震想定避難訓練 各学級での振り返り】



【10/24 地震想定避難訓練 各学級での振り返り】



【10/24 地震想定避難訓練】



【10/24 地震想定避難訓練 各学級での振り返り】



【10/24 地震想定避難訓練 各学級での振り返り】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

高志中等教育学校では、学校の特性に合わせた、次年度以降も継続可能な取組について可能性を模索した。「課題を認識し、それに向けて自分の考えを表現する」ことが得意な生徒が多いという特性から、避難訓練後の振り返りの時間に「避難訓練について考えていること（良い点・悪い点・改善点）」をワークシートにまとめ、生活班で話し合う機会を新たに設けた。「予告を無くし、各自で最適と思われる場所へ避難した方が良い」「学校に地域の人が避難してきた場合の生徒の動きを知りたい」など訓練の改善や災害から命を守ることにについて考えを巡らせていた。

<高志中等教育学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校舎は鳥屋野潟の湖畔に位置し、校地は盛り土により高くなっているが、周辺は海拔1.0m未満のところが多い。避難対策区域に指定されており、災害時には周辺地域より多くの避難者が来るものと考えられる。 生徒は、前期生351名、後期生328名が在籍しており、新潟市全域から登校している。災害時には、帰宅困難者が出ることも予想される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災の方法について、生徒・職員・地域が協力して考え、災害時には自ら判断し、的確な行動ができる生徒を育てたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害の発生する理由を考え、そこから根本的な解決を考えられる生徒。 緊急時に、自分の身を守ることはもちろん、学校が地域の避難所に指定されていることもあり、地域の方々が避難してきた際に適切な行動・支援ができる生徒。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練（2回） <ul style="list-style-type: none"> 5月 火災を想定した避難訓練 10月 地震を想定した避難訓練（振り返りを実施） 地域別集会（7月） 中央区ハイパージュニアレスキュー講習会への参加（8月 11名） 京王自治会防災訓練（10月 20名）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域別集会 避難訓練（振り返りシートを利用した避難訓練の見直し） 自治会防災訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校担当と地域教育コーディネーターが協力し、地域との連携を取りながら、防災のあり方を考える。 避難訓練の振り返りシートを活用し、今後の避難訓練についての注意点や改善点を探り、より次年度に生かす工夫をする。 地域の防災訓練に参加し、地域の方と直接触れ合うことで、緊急時に積極的に関わることができるようにする。

2. 高志中等教育学校(前期課程)「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		避難訓練(火災)										
第2学年				地域別集会			自治会防災訓練	避難訓練(地震)				
第3学年												

3. 高志中等教育学校 防災教育指導例

前期生	<p>(学習のねらい) 避難訓練を実施し、内容を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の避難経路、避難方法を確認する。 ・ 避難訓練を振り返り、より良い避難方法について考える。
------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【説明】	<p>1. 活動のねらいを知る</p> <p>①避難経路・注意事項を説明し、意識を高める。</p>	<p>○避難経路・方法を説明する。また、なぜその経路・方法を使うのかを考えさせる。</p>
【避難訓練】	<p>2. 避難訓練</p> <p>①放送を聞き、今の状況を確認するとともに、一時的な避難行動をとる。</p> <p>②再度、放送の指示により避難を開始する。</p> <p>③避難場所に避難し、次の指示を持つ。 避難完了後、学校長より講評をいただく。</p>	<p>○一時避難として、机の下に身をかくす。第一優先として頭を守り、揺れが収まるのを待つ。</p> <p>○避難を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経路は指示されたとおりに移動する。 ・ ハンカチを使用し、口を押える（火災、ガス漏れ対策として） ・ 避難時は1列とし、階段や避難場所入口で他学年と多列になれるようにする。 ・ 私語をせず、指示をよく聞く。 <p>○避難後は、私語を慎み、静かに次の指示を待つ</p>
【振り返り】	<p>3. まとめ</p> <p>① 各教室に戻り、振り返りシートを記入する。</p> <p>②振り返りシートに記入したことを班で話し合い、お互いの考えを聞き、さらに考える。</p> <p>③班でまとめた考えを、クラスで発表し、考えの共有化をはかる。</p>	<p>○振り返りのワークシートを配布し、各自で考えて記入する。</p> <p>○他人の意見を聞き、自分の考えと比較してより良い避難方法について議論する。 また、避難訓練について、より良い訓練にするための方策も考えるように指示する。</p> <p>○考えを共有化し、今後の避難訓練に活かす。</p>

【避難訓練・振り返りの様子】



※多かった意見

- ・避難ルートを再考する（避難場所を2つに分ける，階段も2列で避難する，地震の訓練は外へ避難する，体育館正面口を使うクラスを増やす等）
- ・予告なしの訓練にする（年間計画表に明記しない，休み時間，朝学活，移動教室時に実施する，）
- ・身の守り方の事前学習を再考する（「おはしも」のルールが現実にそぐわない，並ばずにそれぞれが避難場所に向けて避難する，机が小さく体が収まらない，窓を開ける係の人が危険，ガラス飛散防止のためにカーテンを閉める，ハンカチを使うか迷う，避難完了後の動き（地域住民の避難者はどうなるのか等）について教えて欲しい）

6) 亀田中学校区（江南区）

対象校：亀田中学校・亀田小学校・亀田東小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月7日 15:00～16:00 会場：亀田小学校	1. 本事業についての概要説明 2. 今後進めていく防災教育について情報共有 3. その他
第2回	平成30年9月13日 15:00～16:00 会場：亀田東小学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他
第3回	平成30年11月13日 15:00～15:45 会場：亀田中学校	1. 今後進めていく防災教育について情報共有 2. その他

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
亀田中学校 亀田小学校 亀田東小学校	平成30年 6月7日	資料提供	5月10日研修会の振返り資料や地域教育コーディネーター向けの事業説明資料等を提供。
亀田小学校	平成30年 9月15日	参観	地域合同防災訓練の様子と、同日に行われた地域別の児童・保護者対象の防災学習の様子を参観。
亀田東小学校	平成30年 11月13日	参観	5年生対象の防災学習の参観。江南区地域総務課による防災講話と新潟市在住の視覚障害者による被災体験談、江南区社会福祉協議会による福祉体験を参観。

【6/7 第1回中学校区ミーティング】



【9/15 亀田小学校 地域家庭連携防災訓練】

【9/15 亀田小学校 地域家庭連携防災訓練】



【9/15 亀田小学校 地域家庭連携防災訓練】



【11/13 亀田東小学校 防災学習】



【11/13 亀田東小学校 防災学習】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

亀田中学校区では、防災教育の自校化に向けて新たに地域の組織・団体・人材を活用した取組の可能性を探った。土曜日を授業日とし、保護者の参加も呼び掛けた防災訓練では、地域の防災士による学区の災害特性の話を聞き、煙体験やAED等の体験活動を行ったあと、地域ごとに保護者も交え異学年での話し合い活動を行った。また、社会福祉協議会のコーディネートで、市在住の視覚障害者の方から、災害時の対応等の講話を聞き、簡易の視覚障害者体験を行った学校もあった。さらに、需用費を活用し「避難所運営ゲーム」を購入し、次年度以降も継続可能な計画を模索した学校もあった。

< 亀田中学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心・たくましい実践」を教育目標に掲げ、思いやりの心に溢れ、健康な身体と豊かな知性を持ち、前向きに生き抜く生徒の育成を目指している。あいさつの良い、地域に誇れる生徒であるべく生徒会活動も盛んである。校舎の立地場所は海拔2.2メートルであり、海や大河からは離れているため津波による二次被害は想定しにくい。だが亀田郷はそもそも湿地帯であり、周辺の河川から時間をかけて水が溢れ出し、一帯が浸水してしまう恐れはある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い、地域の方々からは中学生に防災の担い手となり、学校が避難所になった際には避難所運営の中心的存在になってほしいという期待が高い。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高い危機管理能力を持ち、災害発生時にはまず自らを守り、共に避難する仲間達と力を合わせ、余裕があれば地域へも目を向けることのできる生徒。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定し、落下物からの身の守り方を意識した避難訓練（シェイクアウトの徹底）。 ・中学生が防災の担い手となるためのセミナー（ジュニアレスキュー講習会）。 ①消火器使用訓練 ②応急担架による被災者搬送訓練 ③心配蘇生法訓練 ④AED使用体験 ・火災を想定し、煙からの避難を意識した避難訓練。 ・学校が避難所になった場合を想定した学習。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災を想定した避難訓練の実施。 ・ジュニアレスキュー講習会の実施。講習会体験後の『避難所HUG』（避難所設置学習教材）を使用した学習。 ・各学年・各教科での、「新潟県防災教育プログラム」を参考にした自然災害やボランティアに関する授業。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に位置づけしてある防災教育の活動計画の見直しを毎年行う。 ・年間指導計画に則り、「新潟県防災教育プログラム」を参考にして授業、活動を行う。 ・江南区消防署、江南区役所の方々、校区内小学校や地域コミュニティ協議会との連携を密にとっていく。 ・地震と火災との差異を明確に意識づけながら、計画的に避難訓練を実施する。 ・学区内小学校と地域の方と共に行う地域の安全確認に参加する。 ・亀田祭りなど、地域行事への積極的参加を促して地域とのコミュニケーションづくりに努める。

2. 亀田中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

【理科授業】 1年生：津波のメカニズム・脅威 2年生：洪水災害からの避難法 3年生：自然と人間のあり方
【第二回避難訓練】 火災想定。煙からの避難を念頭に、ハンカチの携帯を徹底する。防災訓練の振り返り。
【道徳授業】 冬の地域ボランティア
【道徳授業】 避難できな い人の心理
【『避難所HUG』を活用した授業】 学校が避難所になった場合に、自分たちに何ができるかを考える。
【亀田祭り】 地域におけるコミュニケーションづくり
【ジュニアレスキュー講習会】 ①消火器の放水訓練 ②応急担架での搬送訓練 ③AED使用体験 ④心配蘇生法実地訓練
【第一回避難訓練】 地震想定。『シェイク・アウト』の徹底。ガラス等、上からの落下物から身を守る訓練。

3. 亀田中学校 防災教育指導例

中学校 1 学年

(学習のねらい) 緊急時の対応講習を通じて、自助・共助・公助について学ぶ
ジュニアレスキュー講習を通して、災害時に中学生が担える役割を考える

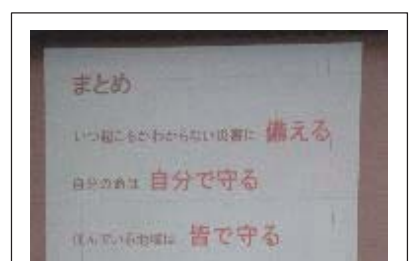
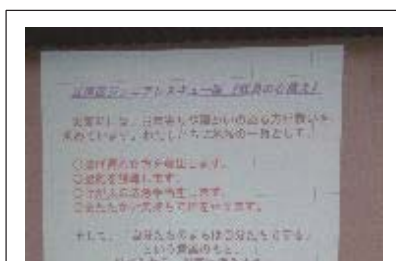
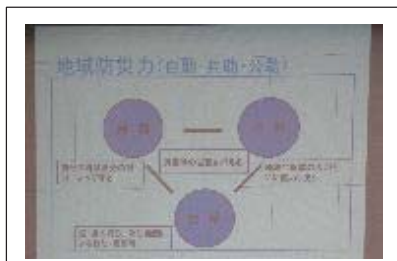
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地震想定での避難訓練を振り返り、本時のねらいを知る</p> <p>① 災害発生時、学校が地域の避難所となることを知る。 大人たちが復旧活動や仕事で出払った後、避難所に残るのは小・中学生とお年寄りが中心になる。</p> <p>② 避難所には様々な人が集まる。体調を崩した人が出た時、自分たちに何ができるか。火の不始末等で火災が発生した時、落ち着いて対処できるか。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <p>「地震の揺れが収まった後、君たちの学び舎が避難所になる。大人たちは出払い、君たちが避難所運営の中心になる。病気の方が出たり火事が起きたりした時、どうする？」</p> <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 119 番に電話→災害発生時、公助には限界がある。 ・ AED を使う/消火器を使う→使い方がわかるかな？ <p>【ポイント】</p> <p>「いざというときに落ち着いて行動できるよう、器具の使い方などを体験しておこう」</p>
【展開】	<p>2. 心肺蘇生法について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数グループに分かれ、ダミー人形を使って一人一人が心肺蘇生の実地体験をする。 <p>3. AED を体験使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生体験と同じグループで、AED の使用方法について確認する。役割分担を行い、各人が全ての役割を体験する。 <p>4. 消火器を使った放水訓練をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を入れた消火器を使って、一人一人順番にグラウンドの対象に向けて放水訓練を行う。 <p>5. 簡易担架を使った搬送訓練をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担架が身近にない場合を想定して、毛布などを使って簡易担架を作り、実際に人を運んでみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急隊員の指導のもと、全員で声を出しながら心臓マッサージを行う。 ・ 被験者（ダミー人形）に対応する人、救急隊に連絡をする人、AED を運ぶ人に分かれて順次体験活動を行う。 ・ 消防署職員の指導のもと、全員で大きな声を出して放水訓練をする。 ・ 小人数グループに分かれ、消防団員の指導のもと、2本の棒に毛布を巻いて、交代で友人を運んでみる。 <p>【ポイント】</p> <p>「人任せにしないで、実際に自分一人でやることを想定して取り組もう」</p>

【まとめ】	<p>6. 学習してわかったこと、感じたことを確認する</p> <p>○各教室に戻って、ワークシートに「授業の感想」などを書き、班ごとに話し合って発表する。</p>	<p>ワークシート</p> <p>○体験を通して感じたこと、考えたことを班単位で自由に話し合い、意見交換をする。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時、自分たち中学生にも社会から求められていること、できることがあるのだと理解できたか。 ・AEDや消火器、簡易担架などの使用体験に、実際に自分一人で使用する場面を意識して取り組むことができたか。 ・自助、共助、公助それぞれの意味することを理解し、防災について意識を高めることができたか。 	

【授業実践の様子】



【スライド資料】



< 亀田小学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀田小学校区の指定避難所となっている場所は亀田小学校, 亀田市民会館, 亀田総合体育館 (アスパーク) となっている。 ・ 亀田小学校は, 津波による浸水被害はあまり想定されていない。しかし, 信濃川や阿賀野川の氾濫にも目を向けなければならない。 ・ 台風や地震災害による被害を優先ハザードとして考え, 実践を行っている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>・ 今日, 日本中で起こっている台風や地震などの災害はいつ・どこで起こり, 誰が被害に遭うか, 全く予想ができない。そのような状況の中, 学校内だけでの訓練や学習に留まらず, 通学路や家の中など, 地域にいるときに災害が起こったらどのように行動するのか, 具体的な行動について, 自分自身の地域を基に考えることができる児童を育てたい。また, そのことについて地域住民や地区の友だちと話し合うことで, 物的な備えだけではない, 具体的な行動や日頃からの意識としての「備え」の大切さを実感し, 行動してほしい。</p>
<p>防災教育において, 目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害安全に対する意識を高め, 自他の安全を確保する能力や実践的態度を備えた児童。 ・ 災害安全に対する理解を深め, 非常時の適切な行動を自ら考え, 行動することができる児童。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域合同防災訓練の実施。</u> →避難所開設訓練, 地域の防災士や行政の方からの講演会, 体験型訓練, 地区ごとに行う学習 (地区子ども会), 非常食体験, 集団下校訓練 ※体験型訓練・・・煙・消火・応急処置・担架作り・起震車・AEDの訓練を, 消防隊や消防団の方から指導をいただきながら保護者・地域住民と共に実施。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域合同防災訓練の毎年実施 (コミュニティ協議会と要相談) ・ 防災訓練時, または, その前後に児童の意識付けとして, 学年の発達段階に応じた「新潟県防災教育プログラム」を活用した授業実践。 ・ より実践的な避難訓練の計画, 実施。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域合同防災訓練について, 実施前, 実施後にコミ協との打ち合わせを綿密に行い, より実践的・実現可能な訓練を計画していく。 ・ 学校内での地域合同防災訓練の位置付けを確かなものにし, 児童の防災意識を高めていく。 ・ 危機意識や課題意識をもって訓練に参加するように, 実施内容の工夫・改善を毎年行いながら実施していく。

2. 亀田小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難経路の確認・第一回避難訓練（火災想定）	第二回避難訓練（地震想定）・引き渡し訓練	ベル訓練（地震想定）	地区子ども会（夏休みの生活安全について）		地域合同防災訓練・防災会議（地区子ども会）		第三回避難訓練（不審者対応）	地区子ども会（冬休みの生活安全について）			
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

○これらの活動の他に、年間指導計画により防災学習プログラムの履修計画に沿って学習を進めていく。

○避難訓練や地域合同防災訓練については、想定を変更したり、地域との関わりを大切にしたりするため、時期を変更して行うこともある。

3. 亀田小学校 防災教育指導例

(学習のねらい) 地震等の災害時に、自分が実際に避難する場所を理解したり、自分の自宅がある地区における危険箇所についてその地域の人と話し合ったりすることで、日頃からの備えの必要性について知ること	
小学校高学年	(学習のねらい) 地震等の災害時に、自分が実際に避難する場所を理解したり、自分の自宅がある地区における危険箇所についてその地域の人と話し合ったりすることで、日頃からの備えの必要性について知ること
	学習内容(展開例)
【導入】	<p>1. 新潟地震の写真を提示し、災害への対策は、訓練を行うことだけでは不十分であることに気付く</p> <p>①防災訓練から、煙・火災・怪我等への対応や身の守り方を身に付けたことを振り返る。</p> <p>②新潟地震の、実際の地域の被害の様子を写した写真から、今回のような「学校」で行う訓練だけで「家」「地域」にいるときの対応が十分にできるかどうかを問う。</p>
	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(写真を見せながら) 今回学校で行った訓練で、自分の命をばっちり守れそうですか? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し足りない。 ・避難する場所が分からない。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の住む地区(家)で、災害が発生したときにどのように行動すべきかを考えよう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料1】 新潟地震での被害の様子を写した写真</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題 地震などの災害のときに、自分の命を守るには、どうしたらよいか。</p>
【展開】	<p>2. 自分の地区の危険箇所について知る</p> <p>①グループごとに、自分の住む地区や近所で、新潟地震のときのような危険が潜んでいないか、地図をもとに書き込みをしながら話し合う。</p> <p>1) 「<u>通学路や自宅周辺など、地域の危険だと思われる場所</u>」</p> <p>2) 「<u>自宅近くに崩れそうな物や危ない物が近くにない、安全と考えられる場所</u>」</p> <p>②グループで出た考えを全体で交流し、地区全体の防災マップを作成する。</p> <p>3. 実際に災害が発生したときのために、日頃から何を備えておくべきかを考える</p> <p>1) いざというときに避難をすることができるよう、どういう場所が危険であるか把握するために、地域を知ること。</p> <p>2) 一時避難後に、家族との集合場所を決めておく必要があること。連絡先を把握する必要があること。</p> <p>3) 家族とも連絡が取れないときに、最終的には避難所に行く必要があり、自身の避難所がどこであるかを知る必要があること。</p> <p>4) 非常時に、すぐ持ち出す必要のある物などを日頃から準備しておく必要があること。</p>
	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなさんが住んでいる地域に、写真のような状況になりそうな場所はありませんか? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あるかも ・よく思い出してみないと分からない。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料2】 亀田小学校区安全マップ</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、いざ災害が起きてしまったときに、まずは何をしますか。その後、どうしたら安心できますか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは身を守るために危険な場所から離れる。 ・家族と会えれば安心する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料3】 非常持ち出し品リストの例</p>

まとめ 日頃から訓練をして、落ち着いて行動すること。
 家の人と約束をしたり、防災グッズを準備したりして、「備え」をしておくこと。

【まとめ】

4. 学習のまとめを行い、訓練だけでなく、日頃からの備えが必要であることをおさえる

- ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる
- ② 自宅に帰ったら、家族の連絡先を覚えたり、緊急時の集合場所を決めたりするなど、家族との約束をきちんとすることを宿題とする。

ワークシート1

【ポイント】

- 「日頃からの訓練もちろん大切である、目の前に起こっている事実から、どのように行動するか考えなければならない」ことを確認する

【評価】

- ・校区の安全マップから、通学路や自宅周辺など、地域の災害時の危険箇所や避難する場所を理解することができたか。
- ・非常用持ち出し品や避難方法、家族との約束事を日ごろから備えておく必要性を理解することができたか。

【授業実践の様子】



【板書】



< 亀田東小学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区は鳥屋野潟・信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた土地が低い地域である。 ・阿賀野川の堤防が決壊した場合、0.5m～1.8mの浸水が予想されている。 ・学区内の古くからある地域は住宅が密集し、道幅も狭い。ひとたび火災が発生すると延焼する恐れがある。 ・3年に1度、当校のグラウンドを避難所とした地域合同避難訓練が行われる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら身を守る態度を身につけてほしい。 ・災害や防災についての知識を備え、行動する力をもってほしい。 ・安心安全な社会づくりに貢献する心をもってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全や防災について理解し、発達段階に応じた判断力を身につけた児童。 ・避難訓練、交通安全教室、不審者対応訓練を通して防災への心構えと安全行動を身につけた児童。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災、江南警察署員を招いた不審者対応の避難訓練（全校児童を対象に実施） ・引き渡し訓練（全校児童と保護者を対象に実施） ・水害や防災についての講話、福祉体験、災害食実習を行う授業（第5学年を対象に実施）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の避難訓練（5月、9月、10月） ・年間1回の引き渡し訓練（8月） ・年間4回のベル訓練（6月、7月、9月、2月） ・新潟県防災教育プログラムの実施 ・第5学年を対象に水害・防災の授業実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画を基に避難訓練の計画を立て、年間行事計画に明確に位置付ける。実施後の振り返りを基に見直しを行っていく。 ・新潟県防災教育プログラムを参考にし、各教科・総合的な学習の時間と関連づけて防災学習を実施する。 ・第5学年の総合的な学習「亀田の米づくり」の取組に災害食実習を取り入れ、適宜見直しを図りながら継続的に取り組める内容へと精査する。

2. 亀田東小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年		○避難訓練（地震） ○防災教育	○ベル訓練（地震）	○ベル訓練（Jアラート） ○防災教育（放射線）	○避難訓練（引き渡し）	○避難訓練（火災・Jアラート（ベル）） ○防災教育（土砂）	○避難訓練・警察による防犯教室（不審者）	○防災教育（雪）	○ベル訓練（Jアラート）			
第5学年		社会 リトルファイヤー スクール （地震・津波）	○防災教育（洪水）	○防災教育（放射線）	○避難訓練（引き渡し）	○避難訓練（火災・Jアラート（ベル）） ○防災教育（土砂）	災害への備え 災害食実習	○防災教育（雪）	○ベル訓練（Jアラート）	社会 自然災害と ともに生きる		
第6学年							理科 大地のつくり と変化	○防災教育（雪）	○避難訓練・警察による防犯教室（不審者）	理科 流れる水の はたらき	○ベル訓練（Jアラート）	理科 人と環境

3. 亀田東小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい) 大雨・洪水による被害を知り、防災意識を高める ・自分の地域で想定される被害の大きさを知る。 ・福祉体験や災害食実習を通して、災害時の対応についての意識を高める。
--------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 水の恵みと災いについてふり返り、自分の地域で想定される被害の大きさを学ぶ</p> <p>① 三条市の7.13水害や今年の西日本豪雨の写真を見せ、大雨・洪水災害の被害状況についておさえる。</p> <p>② 豪雨や川のはんらんで水害が起こると、どんな困ったことが起こるか話し合わせ、共有する。</p> <p>③ 実際に亀田で水害が起こったときに気を付けることを考える。</p> <p>④ ハザードマップで自分たちの住む地域の予想される被害状況について確認する。</p>	<p>【資料】新潟県防災教育プログラム〈洪水災害編〉より 写真資料</p> <p>【学習課題】 雨が長い間降り続いたり、いっきにたくさん降ったり、川がはんらんしたりすると、亀田はどうなってしまうだろうか。</p> <p>【まとめ】 雨がたくさんふったり、川がはんらんしたりすると、3m～5m浸水することがあり、命の危険もある。</p> <p>【ポイント】 ○生活するには川からの恵みが必要不可欠であるということ、川は時には災いをもたらすということを理解させる。 ○亀田は周りを川で囲まれた低い土地だということをおさえ、ハザードマップで自分たちの地域がどれくらいの被害を受けるのか知らせる。</p> <p>【資料】新潟市作成の亀田中学校区ハザードマップ</p>
【展開】	<p>2. 災害に備えた準備と、避難所での生活について知る</p> <p>① 平成10年に亀田で起きた水害の写真を見せる。</p> <p>② いつ起こるか分からない自然災害のために、「備えている」と「備えていない」のでは、命が助かる確率やその後の生活についてどのような影響が出るのか知る。</p> <p>③ 季節や災害が違えば、それによって備えも変わってくるという事を知る。</p> <p>④ 中越地震や熊本地震の時の避難所の写真を見る。</p> <p>3. 避難所にはいろいろな人が集まってくることを知る</p>	<p>【お招きした方】 ○江南区役所地域総務課職員 ○江南区社会福祉協議会職員 ○視覚障害者講師</p> <p>【資料】水害時の写真・各スライド</p> <p>【問いかけの例】 ○災害が起きた時に備えて、日頃からどんなことに気を付けておけばよいと思いますか？</p> <p>【想定される答え】 ○避難場所を確認しておく。 ○避難するための準備をしておく。 ○非常用持ち出し袋を用意する。</p>

	<p>① 視覚障害者の方から普段の生活で困難を感じる話や、ご自身が災害に遭われた時に話をさせていただく。</p> <p>② 視覚障害者体験をする。</p> <p>4. 災害食「パッククッキング」の実習をする</p> <p>① ビニール袋で炊飯する方法を知る。</p> <p>② パッククッキングの実習を行う。</p>	<p>【ポイント】</p> <p>○普段の自分の生活と比べながら話を聞くようにする。</p> <p>○2人1組になり、誘導する側とされる側をどちらも体験できるようにする。</p> <p>○歩くコースは曲がり道と10cm程度の段差を用意。</p> <p>【ポイント】</p> <p>○災害を想定し、ペットボトルの水とお茶で炊飯する。</p>
【まとめ】	<p>5. 学習してわかったことを振り返る</p> <p>① ワークシートに、授業を通してわかったこと・考えたこと・福祉体験をしてみて感じたことなどを書く。</p>	<p>ワークシート</p> <p>○これまでの学習を振り返る。</p>

【授業実践の様子】



防災講話（江南区役所職員より）



福祉体験



パッククッキング



防災講話（視覚障害者講師より）



福祉体験

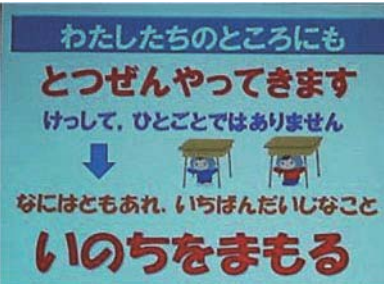


パッククッキング

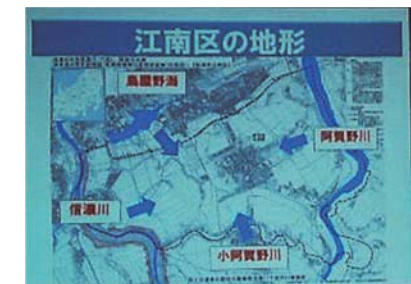
【スライド写真】



亀田の洪水の様子



災害時は「命」を最優先



江南区の地形

7) 小合中学校区（秋葉区）

対象校：小合中学校・小合東小学校・小合小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年5月31日 15:30～16:55 会場：小合中学校	1. 5/10（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 4. その他（外部講師や地域との連携事例等）
第2回	平成30年7月27日 15:40～16:55 会場：小合中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について 3. 10/21（日）小合地域自主防災訓練について（情報共有・意見交換） 4. その他（予算活用状況等）
第3回	平成30年11月20日 16:00～16:45 会場：小合中学校	1. 各校の取組紹介 2. 10/21（日）小合地域自主防災訓練の振り返り 3. 次年度以降、継続していくために（課題抽出・意見交換） 4. その他

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
小合中学校 小合東小学校 小合小学校	平成30年 5月11日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
小合中学校 小合東小学校 小合小学校	平成30年 6月1日	資料提供	小・中学校が全校で地震からの身の守り方に関する防災学習を行う際の参考資料として、計画資料やワークシート資料等を提供した。
小合東小学校	平成30年 8月31日	電話相談	10/21（日）地域防災訓練当日の講座について相談を受けた。9/10（月）に小合東小にて、外部講師・地域の防災士の紹介や当日の講座の流れ・ワークシート等の詳細について打合せを行う。
小合東小学校	平成30年 9月10日	打合せ	10/21（日）の講座内容について打合せを行った。保護者・地域の方にサポートや参観をしていただきながら、避難所をテーマに全校で学習を行う予定。当日の流れ及び貸出品や準備品等の確認と学校・コミ協・NPOの役割分担を調整した。
小合東小学校	平成30年 10月21日	講座実施	小合地域自主防災訓練にて、全校児童と保護者や地域の参加希望者を対象に、避難所の困りごとを知る学習や、困りごとを解決するための防災グッズを作ったり、展示されている防災グッズを使ってみたりする体験講座を行った。

小合中学校	平成 30 年 11 月 5 日	電話相談 コーディネ ーター	これまで地震や避難所生活について学んできたことの まとめとして、他の地域では中学生がどのような役割 を担っているか紹介できる方を講師として招きたいと の相談を受けた。講師を選定し、紹介した。
小合小学校	平成 30 年 11 月 26 日	コーディネ ーター	1 月に上・下学年で雪災害の防災学習に取り組みたい ので、専門家等の講師紹介について相談を受けた。 雪災害に関する専門家講師を調整した。

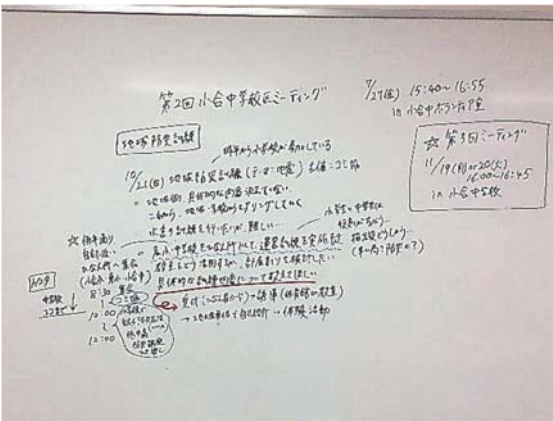
【5/31 第1回中学校区ミーティングの様子】



【7/27 第2回中学校区ミーティングの記録】



【7/27 第2回中学校区ミーティングの記録】



【10/21 小合地域自主防災訓練の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

小合中学校区では、小・中学校と地域が連携した実践的な取組として、コミュニティ協議会が主体で実施している防災訓練と同日に、両小学校が防災学習を行う形を検討した。地域の一員として、自地域の防災訓練に参加後、所属校に移動し、災害時の避難所を知り、自分たちにできることを考え、体験する学習や、新潟県防災教育プログラムを活用した授業を行った。中学生は、事前学習で避難所について考えたことや体験したことを防災訓練の中で地域の大人や小学生に紹介している場面もあった。地域で毎年実施している訓練が大人にとっても子どもにとっても学びが深まる機会にするために工夫をした結果、継続・発展が可能な防災教育の形を作ることができた。

<小合中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、避難訓練を年2回、春と秋に実施している。春は地震を想定した内容、秋は火災を想定した内容を行っている。 ・地域の自主防災への意識は高く、全ての自治会が地域自主防災訓練に参加している。なお、この地区自主防災訓練については、中学生は自主参加という形をとっている。 ・小合中学校区は、旧新津市の西部を流れる信濃川の右岸に位置している。中学校の海拔は2.6mであるが、数年前、信濃川が氾濫した際に、水浸しになった地区が学区の西部に広く存在する。そのため、地域の優先ハザードとしては、水害の優先順位が高いと考える。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等を通して、災害時に必要な事柄を実践的に理解させることで、自分の身を守ることができる能力を養いたい。また、防災教育では、災害のメカニズムや地域の危険性、それに対する対応策に関する知識を習得させたい。 ・地域の行事等に積極的に参加して、自分たちが生活する地域の活性化に貢献してほしい。 ・災害発生時に、中学生として、できる役割を担い、「自助」と「共助」を実践し、適切な行動をとることができるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生に伴って考えられる危険を予測し、適切な避難ができる生徒 ・地域と協力し、防災訓練等に積極的に参加することができる生徒 ・災害発生時に、地域の主体となって積極的に行動できる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練〔地震を想定したもの〕（6月） ・地域の防災担当の方を招いた防災授業〔2回〕（10月） ・防災グッズ作り（10月） ・小合地域自主防災訓練〔避難・ボランティア〕（10月） ・避難訓練〔火災を想定したもの〕（10月） ・災害用伝言ダイヤルの使い方（11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練 ・「新潟県防災教育プログラム」を活用した授業の実施 ・総合的な学習の時間における「地震」と「水害」の内容の学習（隔年） ・地域と連携した防災授業の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、総合的な学習の時間の指導計画を見直し、時間を確保する。 ・指導内容を重点化して、教科の指導内容の中に盛り込む。 ・地域との連携を継続して図っていく。

2. 小合中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		①中越沖地震・東日本大震災における被害 防災学習（地震）										
第2学年			避難訓練（地震想定）									
第3学年						④防災グッズ作り⑤避難の仕方 ②避難所について③地域での中学生の役割 防災学習（地震）	地域自主防災訓練	避難訓練（火災想定）	防災学習（地震）⑥災害時の対応⑦講話			

3.小合中学校 防災教育指導例

全校生徒対象

(学習のねらい)

災害時、避難所等で中学生が地域から期待されていることを考える
・災害時における中学生の役割や行動について考える。

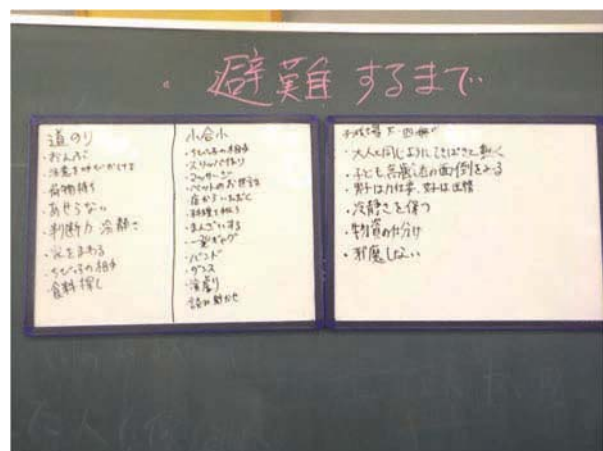
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 避難所について、理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅から、まず、どこへ避難するのか、また、その後、どこへ避難するのかを確認する。 ・自分（の家族）の一次避難所、二次避難所を確認する。 <p>2. 第二次避難所になる学校には、どのようなスペース・機能が必要かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が避難所になった時に、どのように活用したらよいか考える。 ・二次避難所の場所（部屋）の割り振りを知る。 	<p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・近くの公民館 ・二次避難所になっている学校 ・まずは、自宅近くの一次避難所に向かう。最終的には、2階以上の建物であり、物資が届けられる二次避難所である学校に避難することを確認する。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し場 ・トイレ ・洗濯場 ・風呂 ・ゴミ置き場 ・乳幼児室 ・ペット飼育場 等 <p>【資料】二次避難所の学校の避難場所配置図</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分たちが避難する学校が、避難所として、どのような機能を持ち、部屋割りがどうなるかを実感させる。
【展開】	<p>3. 中学生が地域からどのようなことを期待されているかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに話し合い、その内容をホワイトボードに書いて発表する。 ・地域の実態を聞き、中学生である自分たちができることを確認する。 ・地域の自主防災対策本部長から、地域が中学生に期待していることを聞く。 ・各地域、自治会で行っている災害への備えや自主防災訓練の内容を理解する。 	<p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物資の配付 ・お年寄りや身体の不自由な方の移動補助 ・幼い子どもの世話や話し相手 等 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間には、地域外に働きに出ていて、地域にいる大人が少ないという地域の実態を理解させるとともに、中学生である自分たちが、避難所になる学校の施設について、一番よくわかる存在であることを自覚させる。 ・ラジオ体操の先導（エコノミークラス症候群の予防） ・避難所内の案内や誘導や炊き出しの手伝い 等 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生である自分たちが地域から期待されていることと、実際に地域の方々から期待されていることを比べさせ、擦り合わせる。

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったこと、思ったことを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を振り返りシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かの生徒に発表させる。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生がいかに地域から頼りにされているか、ということを知覚して、災害時には自主的に行動できることが重要になるということを理解させる。 <p>振り返りシート</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所には、どのような機能が必要かを理解できたか。 ・災害時に、自分たち中学生が担う役割が理解できたか。 	

【授業実践の様子】



【板書】



<小合東小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信濃川, 大通利川に囲まれた低湿地である。 ・ 低湿地だったため低地は地盤が軟らかく大地震時は強い揺れや液状化の可能性はある。 ・ 低湿地のために水はけが悪く, 雨が集中的に降ると, 水浸しになる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行事やお祭りなど, 小学生が地域と関わる機会はある。地域全体で, 児童を見守り, 学校に協力的である。有事の時に, 小学生も関われる事が多くなることを期待している。(特に地域の防災訓練など)
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献できる小学生
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月の地域自主防災訓練で, 学校も連携をとり, 防災教室を位置付けた。 1 水消火器訓練, 2 AEDの操作体験 3 簡易担架の体験 4 アルファ化米の試食 5 新聞紙スリッパの作成 6 消防団の放水訓練 ふるさと未来創造堂から防災に対する関心・知識を深めるために講話をしていただいた。当校が避難所になったときに想定される事に対して, どのような対策がとれるのか話し合った。防災士からも見ていただき助言していただいた。
<p>自校プランの内容</p>	<p>指導計画の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 親子で防災教室 2 避難所について考える。小学生にできることを考える
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事のカリキュラムの一つとして, 位置付ける。 ・ 地域の消防団, 防災士, 自治会, コミュニティ協議会と連携して活動を組む。

小合東小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難訓練の参加の仕方 「おはしも」		避難訓練 地震		洪水 プログラム		地域 防災 防災 教室 避難所 運営		避難 訓練 不審者		避難 訓練 火災	
第2学年												
第3学年	避難訓練の積極的参加 「おはしも」											
第4学年												
第5学年	避難訓練の意義 「おはしも」											
第6学年												

3.小合東小学校 防災教育指導例

小学校 全校	(学習のねらい) 災害時に開設する避難所で小学生として実践できる役割について、他の避難所の学習を通して縦割り班で話し合い避難所での過ごし方を考えることができる
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1 災害時の避難所の様子や困りごとを写真資料から知る <ul style="list-style-type: none"> ・1週間避難所での生活をするとしたらどのような事が心配か話し合う。 ・各グループから心配事を発表し共有する。(縦割り班でホワイトボードミーティング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンに映し出された災害時の避難所の様子 【としかけの例】 <ul style="list-style-type: none"> ・1週間避難所での生活をするとしたらどのような事が心配ですか。 【想定される答え】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活物資が足りなくなる。 【ポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・いざというときに、協力して行動したり、助け合うことが大切である。
【展開】	2 災害時の避難所で頑張っていた、活躍していた小・中学生の例を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・安心して避難所生活を過ごせるように小学生にできること・気を付けることをグループで話し合う。 ・小学生にできることや気を付けることを発表し合う。 3 自分にできることや、皆で協力して助け合うことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班のリーダーが進行し、副リーダーがホワイトボードに書き込む。全員の意見をとりあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難所で頑張っていたり活躍していたりした小・中学生の様子を紹介したスライドを見る。 【としかけの例】 <ul style="list-style-type: none"> ・安心して避難所生活を過ごせるように小学生にできること、気を付けることはないか。 【想定できる答え】 <ul style="list-style-type: none"> ・病気の人やお年寄りがいるので、静かに過ごす。 ・小さい子がいたら、一緒に遊んであげる。 【ポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな年齢の人や健康上の問題を抱えている人などがいるので自分でできることを考えて行動する。
【まとめ】	4 困りごとを解決する方法や防災グッズをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールパーティションづくりを縦割り班で協力して行う。 	【としかけの例】 <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにして協力したら良いかな 【想定できる答え】 <ul style="list-style-type: none"> ・上学年が下学年の友だちに優しく声がけをする。 【ポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールカッターを安全に気を付けて使用するよう指導する。

【評価】

- ・縦割り班で課題に沿った話し合いを進んでいったか。
- ・避難所での過ごし方について考えを深めたり，防災グッズづくりに協力したりして参加することができたか。

【授業実践の様子】



にいがたしのひなんじよは
どのような時にあくの？

じしんの場合



しんど6弱以上 → あきは区のひなんじよがあく

しんど5弱・5強 → ひがいをかくにんして、
ひつような時にあく

NPO法人
ふるさと未来創造堂

それをだれがやるの？

ちいきの人

+

学校の先生

+

しゃくしょの人

+

ひなんしてきた人・

きょうりよくしてくれる人(ボランティアなど)

ふるさと未来創造堂

<小合小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 秋葉区内の信濃川東岸沿いの地域に位置する全校児童100名程度の小規模校である。信濃川沿いは海拔が低く、堤防の決壊等による大規模な水害が想定され、氾濫した場合、校区内のほぼ全域が浸水深2.0～5.0mになると想定されている。小合地域は平成19年より毎年10月下旬の日曜日に小合地域自主防災協議会（小合地域コミュニティ協議会）主催、小合地区自治会町内会共催で地域防災訓練を実施しており、今年で12回目を迎えた。参加者は小合地域14自治会町内会の住民で、防災意識の向上に力を入れている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3世代家族が多く祖父母との関わりは強い。また、地域の大人が子どもたちを温かく見守っている。地域の大人が皆で子どもたちを大切に守っていこうという気持ちが強い地域である。 子どもたちが、日常や学校での生活の中で「気付き、考え、実行する」力を身に付け、豊かな体験を通して、自信を高めるように取り組んでいる。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小合小学校では日頃から児童に「気付き・考え・実行する」を合い言葉に、自分の判断で行動できる児童の育成を目指している。災害時においては、状況をふまえ「自分の身は自分で守ることができる児童」が目指す児童像である。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ウエルカム参観日」と銘打ち、小合地域自主防災訓練当日の防災訓練に引き続いて、小学校で防災教育の学習参観を行った。学習参観後には、災害時等における引き渡し訓練を行った。防災訓練は、二次避難所に避難してから救助訓練や避難所の部屋の確認等が行われた。そこで体験したことを基に、低・中・高学年に分かれて、「避難所の様子、役割、自分たちにできること」について授業を行い、地域や保護者の方から参観していただいた。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小合地域自主防災訓練と学校の防災教育を同日に行うのは、今年度が2年目となる。地域防災訓練によるプログラムの中に、「避難所施設」のことを地域の方からより知ってもらいたいがあり、学校の防災授業でも「避難所」に視点を置き、避難所の役割・避難所で自分たちが気を付けることやできることについて考える学習を行った。

2. 小合小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>新年度の登校班の確認 子ども1110番の家の確認</p>	<p>避難訓練(火災) ・避難場所確認 ・指示の聞き方、避難の仕方 ・避難場所での待機の仕方</p>	<p>新潟市内一斉対応訓練 ・上学年の指示を聞く ・屋上への避難 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】 ・身の守り方(校内、校外)</p>	<p>着衣水泳 ・着衣時の動き方 新潟県防災教育プログラム【津波災害編】 ・津波とは</p>	<p>避難訓練 新潟県防災教育プログラム【土砂災害編】 ・土砂災害と危険性</p>	<p>ウエルカム参観(学習参観) ・「避難所」に関わる防災授業 (避難所の様子、役割、自分を付けること、できること) ・引き渡し訓練 地域防災訓練参加 ・実際に避難 ・消火訓練 ・救助訓練 ・心肺蘇生法 ・避難所の部屋確認等</p>	<p>避難訓練 新潟県防災教育プログラム【土砂災害編】 ・土砂災害の種類 ・前ふれ</p>	<p>避難訓練 新潟県防災教育プログラム【土砂災害編】 ・要因 ・身を守る行動</p>	<p>新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】 ・大雨時の危険性 ・身を守る行動の仕方</p>	<p>降雪時の登下校の仕方 ・通学班による安全な登校、下校 ・通学路の変更 ・雪による道路の危険性</p>	<p>避難訓練(火災、休憩時) 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・雪遊びと雪の性質</p>	<p>避難訓練(火災、休憩時) 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・雪の重さと危険性、降雪の仕組み ・凍結時の歩き方</p>	<p>避難訓練(火災、休憩時) 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・雪国のくらし ・雪の溶け方</p>	<p>新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・凍結時の歩き方</p>	<p>1年間の反省</p>
<p>新年度の登校班の確認 登校班の班長指導</p>	<p>避難訓練(火災、休憩時) 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・雪国のくらし ・雪の溶け方</p>	<p>避難訓練(火災、休憩時) 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・雪の重さと危険性、降雪の仕組み ・凍結時の歩き方</p>	<p>新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】 ・雨の降り方と洪水 ・洪水から町を守る対策</p>	<p>避難訓練 新潟県防災教育プログラム【土砂災害編】 ・身を守る行動</p>	<p>新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】 ・洪水への日々の備え ・川の恵みと災害</p>	<p>新潟県防災教育プログラム【雪災害編】 ・凍結時の歩き方</p>	<p>1年間の反省</p>							

3.小合小学校 防災教育指導例

小学校低学年	(学習のねらい)
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きたときに、自分の家(地域)の避難所の場所が分かる。 ・地域防災訓練の様子や避難所の写真を見て、避難所で気を付けることが分かる。

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1 今日の避難所への避難をふり返り、学習課題を確かめる</p> <p>T 今日は朝家を出て最初に何処に集まりましたか。</p> <p>C 集会所 公民館 等</p> <p>T 今日みなさんが集まった場所を避難所と言います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>避難所とはどんな場所だろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所が分からないときは参観されている保護者に聞く。 ・地域名を書いた一覧表を掲示して避難場所を書き込む。
【展開】	<p>2 避難所と自分の家を比べて違いを見付け、避難所で気を付けることを考える</p> <p>T 避難所のくらしは家と比べてどんなところが違うだろう。</p> <p>C 大勢が狭い場所に集まっている。</p> <p>C 自分の部屋がない。</p> <p>C 床で寝る。</p> <p>C 人で混んでいる。</p> <p>T 家と比べると不便だね。どんなことが困るかな。</p> <p>C お風呂に入られない。ご飯を作る場所がない。</p> <p>C ゲームができない。</p> <p>T 避難所は丈夫で安全な場所ですが大勢の人と一緒に生活をしなければならないです。どんなことに気をつけるといいと思いますか。</p> <p>C 避難してきた大勢の人と一緒に生活するんだね。</p> <p>C 大きな声を出したり走ったりするのはよくないね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の様子を想起したり、避難所の写真を掲示したりして、避難所がどんな場所なのか想起させる。 ・近くの友達と相談する。 ・集団生活と家庭生活の違いに着目することで、気付きを促す。
	<p>3 学習して分かったことを確認し、振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人がいる。→大声を出さない。 ・自分の部屋がない。→好きなことはがまん。 ・ゲームができない。→わがまを言わない。 </div> <p>C 大声を出したり、走り回ったりすることはしないようにしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災で集まってきた大勢の人と一緒に訓練を受けたことや、避難所の写真を見て、多くの人と一緒に生活するということを押さえる。 ・学習カードに今日の学習のふり返りを記入する。

【評価】

- ・自分の家（地域）の一次，二次避難所の場所が分かったか。
- ・たくさんの人が避難している避難所では，周りに迷惑をかけることがないように気を付けて過ごすことが分かったか。

【授業実践の様子】

地域の防災訓練後，1・2年合同で避難所についての授業を行う。



「避難所はどんな場所だろうか」の学習課題で，考えを出し合う子どもたち



今日のまとめをメモし，ふり返りを書いている様子

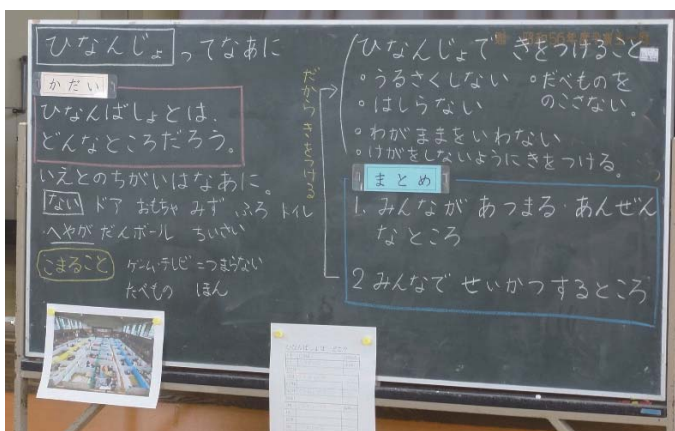


3・4年生の防災授業の様子
避難所の役割について考える。



5・6年の防災授業の様子
避難所で高学年としてできることを話し合う。

【板書】



1・2年の防災授業の板書



3・4年の防災授業の板書

8) 金津中学校区（秋葉区）

対象校：金津中学校・金津小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月27日 16:00～17:00 会場：金津中学校	1. 5/10（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 4. その他
第2回	平成30年7月17日 15:00～17:00 会場：金津中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 10.13（土）小・中学校と地域合同防災訓練について（検討） 3. その他
第3回	平成30年8月1日 14:00～15:25 会場：金津中学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 10.13（土）小・中学校と地域合同防災訓練について（検討） 3. その他
第4回	平成30年10月25日 16:00～16:45 会場：金津中学校	1. 学校・地域連携10.13小・中合同防災訓練の振り返り 2. 次年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
金津中学校, 金津小学校	平成30年 5月11日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
金津中学校	平成30年 8月2日	資料提供	地域の自治会や大人の巻き込み方に関する参考資料や案内資料の参考資料を提供した。
金津中学校	平成30年 9月11日	電話相談 資料提供	金津小・中合同防災訓練実施計画案及び中学生の事前学習内容について相談を受け、計画案への追記や事前学習の日程を調整した。 参考資料として、新潟市避難所運営マニュアル等の避難所運営に関する参考資料や事前学習計画案を提供した。
金津中学校	平成30年 9月25日	講座実施	全校生徒を対象に避難所運営ゲームHUG（ハグ）を用いて、避難所の実際を知り、運営時の役割や中学生にできること等を考える学習を実施した。

【6/27 第1回中学校区ミーティングの様子】



【7/17 第2回中学校区ミーティングの様子】



【7/17 第2回中学校区ミーティングの記録】



【10/25 第4回中学校区ミーティングの記録】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

金津中学校区では、小・中学校と地域が連携した実践的な取組として、コミュニティ協議会や地域の消防団、行政等と連携した防災訓練（防災士の講話、小学生と地域で濃煙体験や初期消火の体験、中学生と地域で避難者の誘導や炊き出し訓練等）を実施した。これまでの地域防災訓練を小・中学生も体験的に学べる防災学習の機会にするために、学校主体でコミュニティ協議会と地域防災訓練の内容や役割分担、班編成等を見直したところ、学校・地域とも、大満足の機会となった。訓練後の振り返りでは、コミュニティ協議会から「訓練は毎年休日の開催が難しければ、平日開催をする年があってもよい。」といった提案もあり、取組を継続していく形が見えた一年となった。

<金津中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区は, 里山の豊かな自然や美術館・植物館など教育環境に恵まれ, 地域や保護者の方の教育への関心も高く, 学校に対して非常に協力的である。生徒は, 積極性に欠ける掛ける面が見られるが, 純朴で礼儀正しく素直である。 ・地区の北西部は柔らかい地盤が分布しているため, 地震により液状化の可能性がある。また, 近隣河川の洪水により, 北西部の低地で浸水, 南東部の丘陵地では土砂災害や土石流の危険性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に「助けられる」立場から「助ける」立場となる意識をもたせる防災教育を実施してほしい。 ・学校と地域コミュニティ協議会が連携した防災訓練を行い, 生徒や地域住民の防災意識を高めてほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動できる生徒 ・自分たちが周りのために何ができるか考えて行動できる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 5月（火災） 10月（地震） ・防災講座 9月 ・応急手当講習会 7月（1年） ・学校地域・連携 小・中学校合同防災訓練の開催 10月 ・新潟県防災教育プログラム必須学習項目の履修 10月
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムの必須学習項目を3年間で学習する。 ・年2回以上の避難訓練の実施 ・地域と連携した防災訓練や防災講座の実施 ・消防士による応急手当講習会の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災教育の実施事項・内容を明確に年間計画・教育計画に位置付ける。既存の教育活動に支障が無いよう配慮する。 ・学校と地域コミュニティ協議会の活動連携を図り, 必要物品や指導者等を把握し, 適材適所で活用できるように情報を収集していく。

2. 金津中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年		○火災を想定した避難訓練		○応急手当講習会(1年)			○防災講座 ・避難所運営ゲーム(HUG)を通して… 「避難所の課題」 「自分ができること」	○学校・地域連携 小・中合同防災訓練 ・避難訓練(地震想定) ・避難所開設訓練 ・体験活動 AED体験 簡易毛布 煙体験 消火器体験 アルフア化米 ・新潟県防災教育プログラム				
第3学年												

3. 金津中学校 防災教育指導例

中学校 体験型訓練 (全5時間)	(学習のねらい) ・災害が発生したときの避難所の役割や機能について学ぶ。 ・防災活動の体験や防災学習を通して、自助・共助の意識を高める。
---------------------------------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
地域連携 小・合同防災訓練	<p><当日を迎えるまでの事前学習></p> <p>①避難所運営ゲーム HUG の体験を通して、災害時の避難所の課題や運営について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の災害時の避難所の様子や課題を資料から学ぶ。 HUG ゲームの説明と体験 災害時に自分たちにできることを考える。 <p>②10/13(土) 合同防災訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震想定で訓練を実施し、中学校が避難所として開設した場合の自分の役割を理解する。 地域の中学生として期待されている姿を知る。 	<p>①【新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須-5, 選択-8 対応】</p> <p><HUG 事前準備></p> <ul style="list-style-type: none"> 縦割りグループ作り(生徒7~8名×17グループ) <p><HUG 準備資料></p> <ul style="list-style-type: none"> HUG カード ・ 仮想校舎図 ・ 敷地図 ・ 体育館図・模造紙 ・ A3用紙 ・マジック 等 <p>② 事前予告</p> <ul style="list-style-type: none"> 合同防災訓練のねらい, 日程の説明 避難所開設準備・運営における役割確認
	<p><当日></p> <p>①避難所開設役割分担確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒を8つの避難所準備・運営班に分ける。(総務班, 案内班, ニーズ班, 応援救護班, 表示班, 食料物資班, 誘導班, 環境班) <p>②避難訓練(地震想定)※生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生 シェイクアウト訓練 教室から体育館へ避難する。 <p>③避難所開設準備作業※生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 8つの避難所準備・運営班に分かれて, 避難所開設のための準備作業および配置につく。 <p>④避難訓練(地震想定)※児童・地域住民</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生 シェイクアウト訓練 小学校や自宅から中学校の避難所へ避難する。 <p>⑤避難所開設・受付・地域別集合</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所の受付を通り, 体育館に地域別に整列する。 <p>⑥全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> 合同防災訓練の目的・日程説明する。 	<p>【ポイント】</p> <p>①専門委員会毎に, 避難所の準備や運営活動を割り振り, 分担の確認や準備作業を行う。</p> <p>②地震発生に伴い, 身を守る行動をとる。 専門委員会ごとに避難し, 学級別に整列して点呼</p> <p>③児童・地域住民の受入態勢を整える。 ※食料物資班は, 参加者配付のアルファ化米調理に入る。</p> <p>④児童は, 小学校職員誘導で中学校体育館へ。 地域住民は, 自治町内ごとに中学校体育館へ。</p> <p>⑤小・中・地域住民が, 地域別に整列する。</p>

小・中合同防災訓練	<p>⑦防災体験をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AED の使い方，心肺蘇生の方法を知る。 ・ 簡易担架の作り方と運搬方法を知る。 ・ 消火器の使い方を知る。 ・ 火災時の煙の流れや怖さを体験する。 <p>※非常食（アルファ化米）の調理を学ぶ。</p> <p>⑧全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災士講話 ・ 金津地区コミュニティ協議会 会長あいさつ ・ 中学校長あいさつ <p>⑨アルファ化米配付</p>	<p>【ポイント】</p> <p>⑦消防団・秋葉区地域総務課等から，それぞれ体験ができるように煙発生器，消火器，AED，担架器具，アルファ化米を用意し，指導してもらいながら体験させる。</p> <p>全体を4グループに編成し，1つの体験活動時間を約20分に設定して，全ての活動を体験する。</p> <p>⑨食料物資班が調理した，アルファ化米を参加者全員に配付する。</p>
防災学習	<p>⑩防災学習をする</p> <p>○1年 雪災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪の重さと危険性を学ぶ。 ・ 様々な雪の災害から対策を考える。 <p>○2年 洪水・土砂災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水・土砂災害時の避難や身を守る方法を知る。 ・ 洪水・土砂災害の危険箇所マップから，災害の危険箇所を知る。 <p>○3年 原子力災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線の存在と身を守る方法を知る。 ・ 原子力災害時にとるべき行動を知る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 資料：新潟県防災教育プログラム 【雪災害編】 必須－7，選択－3 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 資料：新潟県防災教育プログラム 【洪水災害編】 必須－7 【土砂災害編】 必須－4，選択－3 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 資料：新潟県防災教育プログラム 【原子力災害編】 必須－1・4 </div>

【小・中合同防災訓練の様子】

全体会



消火器体験



簡易担架作り



煙体験



心肺蘇生・AED体験



<金津小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は海拔9.2mの高さにあり、地盤も安定した場所と考えられる。これまでの歴史の中でも大きな災害の記録はない。 ・大きい地震が発生した場合、地域によって強い揺れや液状化の危険、崖地等での崖くずれの可能性がある。なお、津波による浸水は想定されていない。 ・河川氾濫の場合、北西部の低地では浸水の可能性があり、南東部の丘陵地では土砂災害警戒区域での災害発生の危険がある。 ・地区全体に8つの避難所が設定されており、小学校もその一つとなっている。 ・地区の各自治会では、防災に対する取組が積極的に行われている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断し、命を守るための安全な行動ができるようになってほしい。 ・児童が地域の防災への取組に積極的に参加し、災害時に自分ができることを理解してほしい。 ・家庭と地域が一体となった取組で、災害時の被害を最小限にとどめたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの地域の様子や起こりうる災害の危険について理解するとともに、地域の防災について自分のできる役割を考える。 ・学年の実態に応じて、自他の生命の安全を大切にするとともに、日常生活における危険を予測し、自分で判断して安全に行動できるようにする。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生を想定した児童の保護者への引渡し訓練の実施（4/18） <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の下校班編制と保護者への引渡し訓練 ・ひまわりクラブ（放課後児童クラブ）との連携を確認 ○地域住民および小・中合同の避難訓練と防災訓練（10/13） <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時、避難所への避難の仕方を理解する。 ・地域住民や中学生と共に活動し、地域防災についての意識を持つ。 ○防災士及び外部講師による小・中合同防災体験（10/13） <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と共に防災体験をし、共助の意識を高める。 ・実際の災害に近い体験や防災の活動を通して、知識と技能を結び付ける。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習時に、学習内容と関わる地域の優先ハザードを取り上げ、身近に起こりうるものとして意識させる。 ・第2回目の避難訓練を地域及び小・中合同で実施し、発達段階に合わせた意識を持たせるとともに、相互の連携を深める。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭への引渡し訓練を定期的実施し、家庭との連携を図る。 ・地域の各自治会、中学校との連絡を密にし、合同訓練の定着を目指す。 ・防災についての新しい情報を入手し、児童が体験できる場を設定していく。

3. 金津小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
第1学年	避難経路の確認・集団下校	【避難訓練】害獣出現時の対応の仕方 引渡訓練	第1回避難訓練 地震発生時の対応の仕方 ※小・中合同避難体制の確認	火災 社会「安全な くらしとまち づくり」	新潟県防災教育プログラム (地震災害編・土砂災害編)	第2回避難訓練 (小・中合同) 災害発生時の動きと役割	防災体験	防災体験	防災体験	第3回避難訓練 火災時の対応の仕方 積雪時の避難経路の確認											
第2学年											緊急時の 行動・害獣 への知識	緊急時の 行動・害獣 への知識	害獣・土砂崩れ 総合「朝日の森を守ろう」	害獣・土砂崩れ 総合「朝日の森を守ろう」	土砂崩れ 理科「流れる 水の働き」	地震・津波 理科「大地の つくりと変 化」					
第3学年																					
第4学年																					
第5学年																					
第6学年																					

3. 金津小学校 防災教育指導例

全校児童対象
(4時間扱い)

(学習のねらい)

- ・災害時の適切な判断や必要な行動ができるように、訓練を通じて実践的な態度を育成する。
- ・避難所への避難を想定した地域や学校での対策を知り、平常時に必要な取組に気付く。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
[45分]	1. 「防災」について学習する ○ 1, 2年生（地震災害） ・地震による災害の様子を知る。 ・地震からの身の守り方（学校内）を学ぶ。 ○ 3, 4年生（地震災害） ・地震による災害の地域の特徴を知る。 ・地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ。 ○ 5年生（土砂災害） ・土砂災害について地域の特徴を知る。 ・土砂災害からの身の守り方を知る。 ○ 6年生（地震災害） ・起震車体験を通して既習の事項を確認する。	【資料】新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須-1 【資料】新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須-2 【資料】新潟県防災教育プログラム 土砂災害編 必須-1 ・導入で映像を見せ、意識を持たせる。 【資料】新潟市洪水ハザードマップ（校区周辺） ・新潟県は土砂災害の多い地域であることに気付かせる。
[30分]	2. 小・中地域合同避難訓練（防災訓練）を行う ①小学校児童 ・地震発生→教室から校庭へ避難する。（一次避難） ・校舎倒壊と土砂災害の危険があるため、中学校へ避難する。（二次避難） ②中学校生徒 ・避難所開設の必要があるため、役割分担にしたがって準備を行う。 ③地域住民 ・地震発生→各家庭から地域ごとに中学校へ避難する。	【ポイント】 ・小学生は、二次避難の際に地域ごとに緊急時のグループで行動する訓練を行う。 ・中学校へ到着後は各地域で集合し、中学生、地域住民と合流する。
[105分]	3. 防災体験を行う ・地域別のグループで、4つの防災体験を行う。 (20分×4種) ①AED操作 ②消火器操作 ③毛布を使用した簡易担架作り ④煙の中の避難体験	【ポイント】 ・体験は、小学生、中学生、地域住民が同じグループで一緒に行う。 ・世代の異なるメンバーがともに体験に参加することを通して、防災訓練に対する児童の意識を高める。 ・防災教育プログラムでの知識が、体験を通して技能として身に付くように配慮する。 ・体験では、地域の防災士や消防団の指導を受ける。

【50分】	<p>4. 学習・訓練でわかったことを確認する</p> <p>①全体会で講話を聞く。</p> <p>②中学生と地域住民が用意した「アルファ化米」を受け取って学校へ戻る。</p> <p>③「アルファ化米」を食べた後に、振り返りカードを使用して児童一人一人に活動を振り返らせる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災士による講話を聞き、活動を振り返る。 <p>振り返りカード用意（学年部別）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生が先頭になって避難所を運営していたことを話し、災害時の「協力」について考えさせる。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習から、学校や自宅周辺の地域の特徴を知り、地震や土砂災害から身を守る方法を理解することができたか。 避難訓練を通して、災害時の避難の仕方を身に付けることができたか。 防災体験を通して、より実践的な意識を持つことができたか。 	

【活動の様子】



ぼうさいくんれん ふりかえりシート（1～4年生）

ねん くみ なまえ

<あてはまるところを○でかこみましょう。>

1 じしんのべんきょうがしっかりできましたか。

よくできた できた もう少しだった できなかった

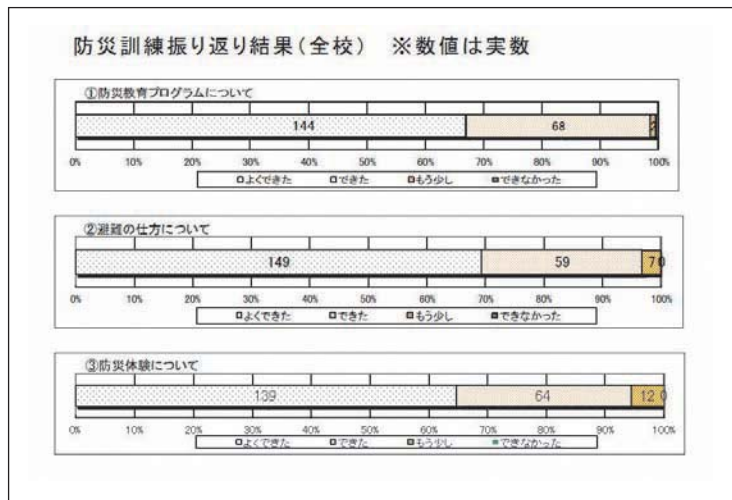
2 しょうがっこうからちゅうがっこうまでのひなは、じょうずにできましたか。

よくできた できた もう少しだった できなかった

3 いろいろなくんれんを、すすんでやりましたか。

よくできた できた もう少しだった できなかった

4 あなたが一ばんがんばったことを1つかいてください。



9) 味方中学校区（南区）

対象校：味方中学校・味方小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年8月1日 10:00～10:40 会場：味方中学校	1. 5/10（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 4. 今後の味方中学校区ミーティングの在り方について →味方小・中学校は国土交通省の水防災学習のモデル校指定を受けている。学校の負担軽減のために、本事業のミーティングを水防災学習の会合内に位置付け、小・中学校の実践をサポートしていく。
第2回	平成30年8月6日 14:00～16:00 会場：味方中学校	1. 国土交通省モデル校における水防災学習の進め方 2. 国土交通省のプログラム案及び提供資料について 3. 意見交換
第3回	平成30年8月21日 14:30～16:00 会場：味方中学校	1. 小・中学校で取組む水防災学習計画について（検討） 2. 小・中学校 合同水防災学習に向けた役割分担について（検討） 3. その他（講座候補日程の調整等）

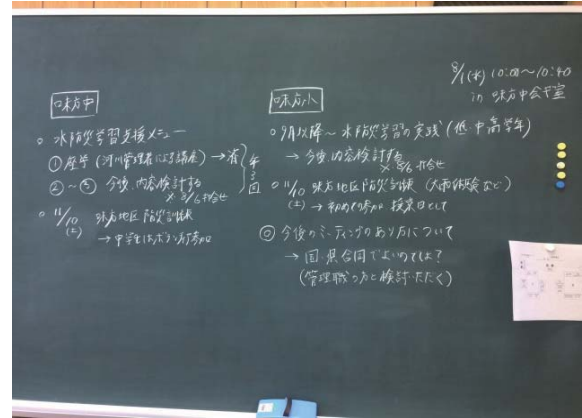
② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
味方中学校、 味方小学校	平成30年 8月1日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
味方中学校	平成30年 8月2日	資料提供	小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
味方小学校	平成30年 9月4日	電話相談 資料提供	10/15（月）の合同水防災学習（まち歩きの視点を身に付け、防災マップのまとめ方に見通しを持つ）の時数や時間帯、最終成果として防災マップの作製を行うための指導計画について相談を受けた。計画案や防災マップの参考資料を提供した。
味方中学校	平成30年 9月11日	電話相談	10/15（月）の合同水防災学習の事前学習をお願いしたいとの相談を受けた。夏休み前に専門家による講義を実施したが、生徒が自分事としてとらえられていないように感じている。まち歩き前に、防災意識を高められるように、考える活動を交えた講座を行う。
味方小学校	平成30年 9月18日	参観	国土交通省が提案したプログラムを活用した水防災学習の様子を参観した。
味方中学校	平成30年 10月9日	講座実施	全校生徒を対象に、洪水災害の危険性と命を守る行動を具体的な状況下で考える学習を行った。
味方小学校	平成30年 10月15日	講座実施	小学校5、6年生と中学生全校を対象に、洪水災害に備えて地域の危険箇所を予測する視点を育み、街歩き及び地図にまとめる活動の練習を行った。

【8/1 第1回中学校区ミーティングの様子】



【8/1 第1回中学校区ミーティングの記録】



【10/15 小・中合同防災学習の様子】



【10/15 小・中合同防災学習の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

味方中学校区は、今年度、国土交通省等が検討を進めている水防災教育のモデル校でもあり、当コンソーシアム以外にも様々な防災関係団体が学校防災教育の計画・実践に関わった。当コンソーシアムは、水防災教育モデルプランのアレンジ及び講座実践のサポートを中心に行った。小・中学校合同で校区の洪水災害の危険箇所や避難場所を調べ、まとめた防災マップを作成し、自分たちの学びを地域に発信する機会を通じて、洪水災害に対する心構え、事前の準備と早めの避難の重要性を一人一人が実感していた。

一年のモデル校実践を経て、中学校区に水防災教育の専門的な資料等が蓄積した。今後は、それらを精選し、味方の防災教育が、より発展していくことを期待する。

<味方中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに中ノ口川があり,河川堤防の決壊による水害については知っているものの,水害に対して意識が薄い。 ・昔から河川堤防の決壊から水害に見舞われてきたが,年齢層の若い方々は被害経験がなく,水害に対して意識が高いとはいえない。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害で命を落とさないことを第一に考える生徒であってほしい。 ・防災に対する主体性を育む生徒になってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害で命を落とさないことを考えると共に,生徒自身が災害から生き抜く力を身に付ける。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水防災教室 ・保・小・中合同水防災避難訓練 ・小・中合同水防災学習現地実習 ・防災学習発表会
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中合同で水害に対する避難訓練の実施 ・外部講師から地域の特性や水害に対する正しい知識の習得を図る機会を設定する。 ・避難場所の位置等避難のための地域情報を収集させる機会を設定する。 ・危険箇所を知るため,味方地区のまち歩きから防災マップを作成する。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携を図り,防災マップの作成を継続する。 ・新潟県防災教育プログラムを基に,確実に指導を実施する。 ・外部講師を招き,地域の特性や水害への備えへの意識向上を図る。 ・南区総合防災訓練に積極的に参加するよう呼びかけを図る。

2. 味方中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			○保・小・中合同避難訓練				○水災害に対する学習会開催	○防災学習発表会開催				
第2学年			○水害学習会開催				○小・中合同防災事前現地実習実施					
第3学年							○小・中合同防災現地実習実施					

3. 味方中学校 防災教育指導例

中学校
全校生徒対象

(学習のねらい)「洪水から自分の命は自分で守ること」について学ぶことを通して、防災意識を高める
・水防災マップ作成を通して、周りの人の生命を守る行動がとれるようにする。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【第一次】	<p>【全校一斉指導】</p> <p>1. 洪水対策をし、学習のねらいを伝える</p> <p>学習のねらい「過去の歴史から味方地域には洪水の危険性があることを知り、洪水に対する日頃から備えを知る」</p>	<p>味方地区の過去の災害から以下のことを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中ノ口川の決壊を踏まえ、どのくらい浸水があるかハザードマップから読み取ることができること ・河川の危険水位等の情報はネット等で調べられること <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守るために日頃から準備すること
【第二次】	<p>【保・小・中合同指導】</p> <p>2. 地震後、中ノ口川の堤防決壊による避難訓練</p> <p>保育園・小学校・中学校による合同避難訓練 実際の災害時には校内のどこに避難するのかを想定し、時間を計りながら訓練を実施</p>	<p>【避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分の命を守りながら、中学生として小さい子の命を守るか実際に体験した。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子がいる場合、手をつなぎながらどのくらいの時間で避難が完了するのか気付かせる。
【第三次】	<p>【全校一斉指導】</p> <p>3. 洪水災害の危険性と命を守る行動を確認する</p> <p>① 地域の洪水の危険性や避難場所を知るために、「<u>洪水ハザードマップで知ることができる</u>」ことを確認する。</p> <p>② 災害には次のことがあることを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「洪水には内水氾濫、外水氾濫がある」 2) 「避難については「避難勧告」「避難指示（緊急）」「避難準備・高齢者等避難開始」があること」 3) 状況設定から班で自分の命を守る行動について考えた。 	<p>【問いかけの例】</p> <p>自宅で1人。夕方から大雨が降り続いて、家の前の道路が30cmくらい水に浸かった。あなたはどのようにして行動して自分の命を守るか。</p> <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に避難する。 ・家の2階に逃げる。 ・家族に連絡を取る。 ・よくわからない。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から考えなければならぬ課題に気付かせる。
【第四次】	<p>【小・中一斉指導】</p> <p>4. 地域の危険箇所を予測する視点を知り、率先して命を守る行動をとることができる</p> <p>① 味方中学校区の小学生と中学生が合同で、避難の仕方、避難箇所・安全な場所を予測する。</p> <p>② まち歩きをして気が付いたこと・写真をまとめ、防災マップを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩き調査実施前には防災という視点で、ふるさと未来創造堂の中野氏より避難の仕方、危険箇所、安全な場所の調査をする事前練習を実施した。 ・調査地区の地図に危険な場所にはシールやデジタルカメラで撮った写真を貼る等防災マップを作成する。

【第五次】	<p>【防災教室発表会】</p> <p>5. 洪水被害について学習した事項を地域に発信し、安心・安全な暮らしの実現に向けて、自分たちのできることを考える</p> <p>① ポスターセッション形式で発表を行う。</p> <p>② 各グループの発表を聞いての気付きや大切と考えたポイント等をグループで共有する。</p> <p>③ これまでの学びを振り返り「洪水災害から味方地域の人の守るために、私たちにできること」を話し合い、まとめ用ワークシートに書く。</p> <p>④ 数グループから発表させる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <p>以下の点を押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の住んでいる地域には洪水被害があることを意識し、普段から早めに避難する必要がある」こと ・「小さい子どもや老人」には呼びかける等して、手を引いて早めの避難をすることが大切なこと ・普段から避難用品を準備しておく必要があること
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ作成から学校周辺地域の洪水の危険性、冠水状態での避難の難しさを知り、早期避難の必要性を理解することができたか。 ・非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 ・中学生という立場でも、安心・安全な暮らしの実現に向けて、他の命を守ることに意識することができたか。 	

【授業実践の様子】



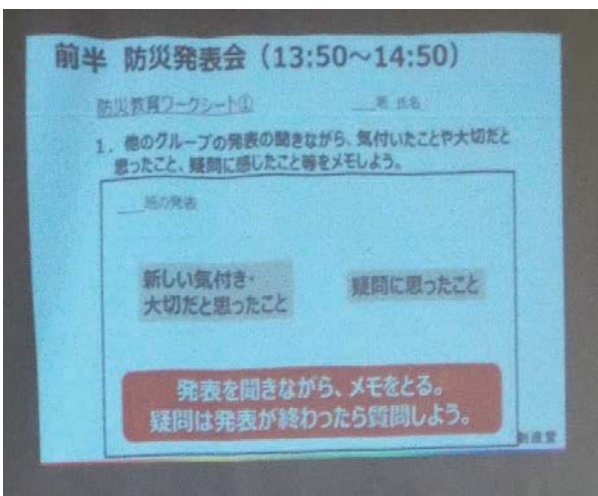
保・小・中合同避難訓練



まち歩き防災マップ作成



小学生とのまち歩き調査



【防災教室発表会 資料】

<味方小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区全域の東側に位置する中ノ口川は、毎年の大凧合戦の舞台にもなる児童にとっては身近な河川である。川に沿うように住宅地が広がり、洪水時には地域全体が浸水する危険性が高い地域である。過去には何度も水害の危機に見舞われてきている。日頃の備えや心構えをより一層高めていく必要がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・味方地域の特性について知り、日頃から水害に対する高い防災意識を持ってほしい。万一の事態に備え、自分自身はもちろん、家族、地域の人とともに、命を守るための早めの行動をとれるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、水害、地震に対する防災意識を持ち、必要な情報を知り、命を守るための行動ができる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震及び水害（6月）、火災（9月）を想定した避難訓練の実施 ・国、県、市と連携した水防災学習の実施（9月・10月・11月） <ul style="list-style-type: none"> 全校児童…水害、地域の特性を知る。防災カードゲームを使った学習 5・6年生児童…中学校と合同の地域実習、防災安全マップ作成・発表活動 ・水防災学習の保護者参観・引き渡し訓練（11月） ・味方地区防災訓練、防災体験ブースへの全校児童・保護者参加（11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の9年間を見通した水防災を含む防災教育の年間指導計画の作成 ・味方地区防災訓練への全校児童・保護者の参加
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校間の情報交換、小中合同水防災学習の継続実施 ・味方地区防災訓練への全校児童・保護者の参加の継続実施 ・新潟県防災教育プログラムに基づいた防災学習の実施及び資料の精選

2. 味方小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年	不審者等に備えた下校訓練											
第5学年	非常ベル対応訓練											
第6学年	親子交通安全教室 歩行(1年生)・自転車(2・3年生)・車との衝突実験(全校)	水防災学習①及び保・小・中合同地震・洪水避難訓練・水中歩行訓練	子ども体験安全教室			火災に備えた避難訓練(休憩時)	水防災学習②及び小中合同地域実習・安全マップ作り		水防災学習参観・味方地域防災訓練への参加(全校児童・保護者)	非常ベル対応訓練		非常ベル対応訓練

3. 味方小学校 防災教育指導例

小学校全学年

(学習のねらい) 洪水の危険性や命を守る行動について知り、
状況に応じた避難の方法や行動について考える
・洪水時の危険性と命を守るための行動,具体的な方法を理解する。

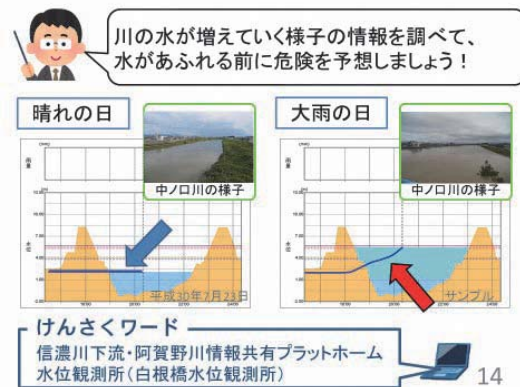
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地域の特性や洪水の危険性について復習し、学習のねらいを知る</p> <p>① 味方地域の特性(中ノ口川が側にあり,居住地域は洪水の恐れがあること),洪水から街を守る対策とその限界について復習する。</p> <p>② 学習のねらい「<u>洪水から身を守るために,私たちはどんな行動をとればよいかを知る</u>」を押さえる。</p>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中ノ口川が氾濫したら,味方地域はどんな危険がありますか? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川よりも土地の低い居住地域に水が流れ,洪水が起きる。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味方地域の洪水ハザードマップを見せる。 ・水防災学習についてのスライド資料で復習する。 <p>【資料】洪水ハザードマップ,学習用スライド資料 (国土交通省提供)</p>
【展開】	<p>2. 洪水の危険性と命を守る行動の仕方について知る</p> <p>① 国土交通省作成の映像資料「洪水から身を守るには」を見て,洪水時の危険性や命を守るための行動の仕方について押さえる。</p> <p>② 映像資料「洪水から身を守るには」を見て,次の点を押さえる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「<u>自宅周辺や学校周辺など,地域の洪水時の危険性</u>」 2) 「<u>洪水の危険がある時の情報収集の仕方</u>」 3) 「<u>安全に避難する行動の仕方</u>」 <p>3. 防災カードゲームで遊びながら,日頃からの備え,水害の危険性や安全な行動の仕方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災カードゲームの7ならべ (カルタ取り,ババ抜き) ○ 図柄を見て順序よく並びかえてみよう 	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水の危険性は,どうやったら知ることができますか。 ・洪水が起きたとき,私たちの住んでいるまちには,どんな危険性がありますか? ・洪水が起きたら,どのように行動すればよいですか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線で情報が流れる。 ・テレビやラジオ ・インターネットで調べる。 <p>【資料】映像資料「洪水から身を守るには」 国土交通省作成</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水に備え,日頃からどんなことに気を付けたらよいでしょうか? ・どのような危険が予想できますか? <p>【資料】防災カードゲーム(国土交通省HPより)</p>

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「映像資料、防災カードゲームから分かったこと」等を書かせて発表させる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>日頃から、災害時の行動や避難場所について家族と話し合っておく</u>」ことを確認する。 ・「<u>万一の時には早めの避難をする、命を守るための安全な行動をとる</u>」ことを確認する。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップから居住地域や、味方地域の洪水の危険性を理解することができたか。 ・水害の危険性について、情報収集の仕方を理解することができたか。 ・命を守るための安全な行動の仕方について理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【スライド資料（国土交通省提供）の一部】



その他の学習活動



小中合同地域実習（10月）



防災安全マップ作り（10月）



防災安全マップの発表（11月）

10) 小針中学校区 (西区)

対象校：小針中学校・小針小学校・青山小学校・東青山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月21日 15:30～16:40 会場：小針中学校	1. 5/10(木)研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について(意見交換) 3. 今、不安や課題として感じていること(意見交換) 4. その他(区支援メニューの説明)
第2回	平成30年9月21日 16:00～16:45 会場：青山小学校	1. 前回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について(情報共有) 3. その他(予算活用状況等)
第3回	平成30年11月13日 16:00～16:45 会場：東青山小学校	1. 各校における取組紹介及び予算活用状況について(情報共有) 2. 次年度以降、継続するために(課題抽出・意見交換)

② 各学校へのサポート事例

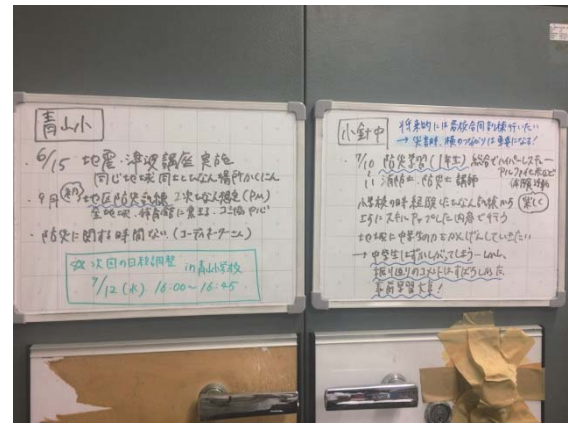
対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
小針中学校	平成30年 5月7日	電話相談	7/10(火)、11(水)に第1学年が総合でAED操作・心肺蘇生法の訓練等に取組む。生徒数が多く、全員が体験できる講座の実現に向け、相談を受けた。一団体では厳しいため、消防署・消防団・防災士を紹介した。
青山小学校	平成30年 5月17日	打合せ	6/15(金)に予定している全校児童及び保護者合同での防災学習について打合せを行った。町内子ども会単位で津波からの身の守り方と近隣の避難場所・避難経路を保護者と確認する活動を行う。
青山小学校	平成30年 6月15日	講座実践	全校児童及び保護者合同で防災学習を行った。町内子ども会単位で、津波からの身の守り方と近隣の避難場所・避難経路について保護者と確認した。町内子ども会での活動を通じて、子どもも保護者も顔見知りになり、災害時に助け合う関係性づくりに繋がった。
小針中学校 小針小学校 青山小学校 東青山小学校	平成30年 6月21日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料(家族防災会議、にいがた災害食レシピ等)を提供した。
小針中学校 小針小学校 青山小学校 東青山小学校	平成30年 6月22日	資料提供	学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料、身近なもので作れる防災グッズづくりの関係資料を提供した。
小針小学校	平成30年 8月30日	電話相談	第5学年理科「流れる水のはたらき」から関連させて洪水災害からの身の守り方や家庭の備えを考えさせたい。指導できる講師について相談を受け、新潟大学ト部准教授を紹介した。

東青山小学校	平成 30 年 9 月 14 日	資料提供	具体的な状況下で洪水災害からの身の守り方を考える防災講座の計画資料・スライド資料・板書計画等を提供した。
小針中学校	平成 30 年 10 月 5 日	電話相談	次年度の防災教育の計画について相談を受けた。遠足で中越を訪問し、新潟の防災を知る学習を予定している。新潟県中越地震のメモリアル施設の特徴について紹介した。
東青山小学校	平成 30 年 10 月 10 日	映像資料 貸出	以前提供した洪水災害からの身の守り方の学習に第 4 学年が取り組む。映像資料について相談を受け、7.13 水害の様子を収録している映像資料を貸し出した。

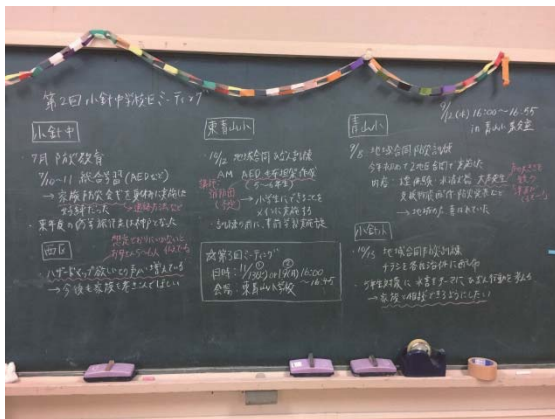
【6/21 第 1 回中学校区ミーティングの様子】



【6/21 第 1 回中学校区ミーティングの記録】



【9/21 第 2 回中学校区ミーティングの記録】



【11/13 第 3 回中学校区ミーティングの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

小針中学校区では、総合的な学習の時間、既存の教科や行事等を活用し、区役所や消防署、防災士、学生消防団、専門家講師、地域や家庭と連携し、防災教育に取り組んだ。心肺蘇生法等の指導に地域講師を延べ 24 名動員した学校、校区内の 2 つのコミュニティ協議会との合同避難訓練の開催を調整した学校もあり、各学校が家庭・地域と連携した防災教育を検討・実践する機会となった。

取組の継続・発展に向け、学校が地域の防災士を活用しやすくするために、区内防災士のリスト化について提案がなされた。

また、防災教育の指定校になり、改めて屋上の点検を行う等、学校全体の防災意識の向上にもつながったとの声も聞かれた。

<小針中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

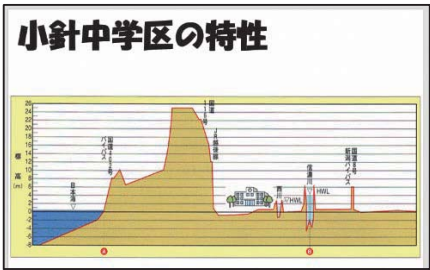
<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当学区は海岸に近く標高が低いいため津波対応の避難訓練を各小・中学校で毎年6月,10月に実施している。小針小学校では防災5人組をつくり,自宅近くに集合して学校へ向かう防災訓練を実施している(消防・警察・地域・PTA・生徒・教員)。小学校3校では避難訓練時に保護者への引き渡しを行っている。青山小学校では避難訓練後の一斉指導において,津波の高さをビニールテープによってイメージさせる工夫をしている。 不審者対応として小針中学校では毎年2月に不審者対応の避難訓練を行っている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は災害時避難所に指定されている。非常食等の備蓄も行っているが,有事の際(避難所開設の際)は率先して救護や炊き出しにあたることのできる中学生の力が必要である。第1学年での総合的な学習の時間を軸として地域と連携した継続的な防災教育を行いたい。
<p>防災教育において,目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災活動や災害時の助け合い,救護活動の大切さを理解し,災害の際に正しい判断をもとに主体的に考え,行動できる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 西消防署消防士・救急隊,地域教育コーディネーターと防災士の支援を受け,災害や事故発生時の正しい救護,正しい判断を学ぶ体験活動(AED操作訓練,心肺蘇生訓練,応急担架作成搬送訓練,初期消火訓練)を行う。 災害時に必要とされるコミュニケーション能力を育むため,ゲームを取り入れた防災コミュニケーション活動や,災害シミュレーション活動,校内における点検活動等を行う。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育を総合的な学習の時間へ位置付け継続的に実践していくことを目的に,各教科で横断的に学習を計画する。また,第1学年を対象に,災害・事故発生時の正しい救護,正しい判断を学ぶ体験活動(AED操作訓練,心肺蘇生訓練,応急担架作成搬送訓練,初期消火訓練)を行い,集団・地域の安心,安全につながる正しい行動ができるようにする。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校担当と地域教育コーディネーターが協力して,地域と連携をしながら,防災のあり方を考えていく。 小・中の定期的な情報交換を行う。(第一回6月 第二回9月 第三回1月) 防災計画を基に避難訓練の計画を立て,年間計画に明確に位置付け,実施後の振り返りをもとに見直しを行っていく。

2. 小針中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<p>地域学習（総合）</p> <p>【西川ウォーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西川の人々と歴史 ・講演会 		<p>避難訓練（津波対応）</p>	<p>防災学習（総合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害への理解 ・家庭内事故における講演 ・応急救護体験 ・コミュニケーション活動 		<p>防災学習（総合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族防災会議 ・学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な住まいと点検（家庭） 					
第2学年								<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による被害の防止 ・応急手当（保健体育） 				<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生のメカニズムと震度（理科） ・火山活動とマグマの性質（理科） ・災害の教訓を受け継ぐ人々の暮らし（社会） ・環境保全と暮らし（社会）
第3学年												

3.小針中学校 防災教育指導例

中学校1学年 (学習のねらい) 災害の際に、正しい救護と正しい判断を学ぶ体験活動を通して、自らはもちろん、学校の集団や地域の安心・安全に対して、率先して行動することの必要性を知り、他者や家庭・地域へ提案、発信することができる。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 防災学習ガイダンスと事前学習（5時間）</p> <p>① 防災学習ガイダンス</p>  <p style="text-align: center;"><スライド資料></p> <p>② 自然災害（地震・風水害・雪害）を知る。</p> <p>③ 道徳「過去が光って見えるとき」</p> <p>④ 地域のハザードマップを確認する。</p> <p>⑤ 自分、家族、地域の命を守るために自分ができることを検討する。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に対して、中学生として正しい判断と行動をするための防災学習について、見通しをもちその内容を確認させる。 ・道徳資料や地域のハザードマップを活用して、自分が今できることを考え、自らのいのちと家族、地域住民のいのちを守るための行動を検討させる。 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」 ・神戸市教育委員会「ビジュアル版 幸せを運ぼう」
【展開】	<p>2. 家庭内事故についての講義と防災学習活動（7時間）</p> <p>① 家庭内事故についての講義 「火災予防について」講師：新潟市西消防署</p> <p>② 学級別学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立場による判断・選択活動 「みんなでわけよう」 ・防災コミュニケーション活動 「ドローイング・チャレンジ」「救援物資を運べ！」 ・災害シミュレーション活動 「そのとき、あなたは!？」 ・アルファ化米炊き出し体験 ・校内点検活動 「命を守る気づき～校内の安全点検を行い全校へ発信しよう～ポスター制作～」 <p>3. 応急救護にかかわる訓練活動（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AED操作訓練（武道場） ・心肺蘇生訓練（武道場） ・応急担架作成搬送訓練（体育館） ・初期消火訓練（グラウンド） 	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の課題を明確にする。 ・円滑な学習活動にするために、教材教具の準備、グループ編成を整える。学習活動のタイムテーブルを各学級で周知させる。 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育コーディネーターを通して、防災士との連絡、調整を行い活動内容の共有をする。 <p>【協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市西消防署、新潟市防災士の会

【#とる】	<p>4. 家族防災会議を開く（課題・1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返り、まとめる。その内容を家庭（家族）へ学習の成果として提案する。 	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポートフォリオを作らせる。 ・家庭の危険箇所を見つけ、改善を提案させる。保護者からの評価をコメントしてもらう。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し話し合ったり、検討したりする活動を通して、災害時に自分で気を付けること、自分にできることを決めることができたか。 ・大切な人や家族の命を守る知識とスキルを身に付けることができたか。 ・家族へ家庭内の防災対策を提案することができたか。 	

【授業実践の様子】



<みんなでわけよう>



<救援物資を運べ！>



<心肺蘇生訓練>

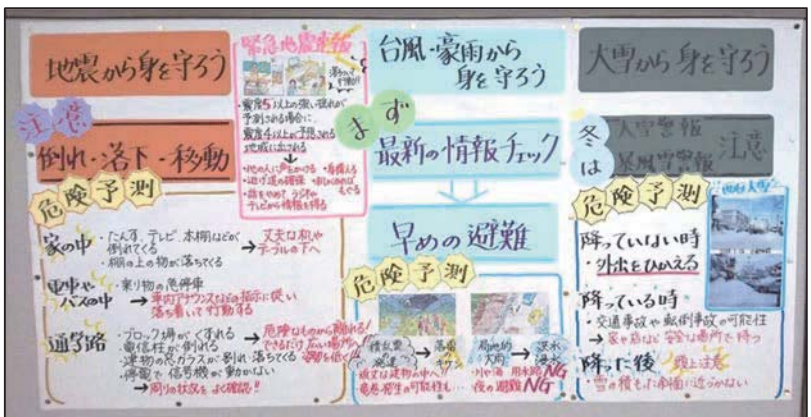


<応急担架作成搬送訓練>



<AED 操作訓練>

【事前学習の板書】



<小針小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・地域共に防災に対する意識は高く、毎年10月に地域合同防災訓練を実施・継続している。訓練には熱心に取り組んでいる。また、災害時に集団登下校ができるよう、町内ごとに防災5人組を編成し集団下校をしている。 ・毎年6月の全市一斉避難訓練時には、児童引き渡し訓練を実施しており、平成30年1月豪雪時、平成30年度の運動会後の下校で実践した。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域で災害が発生したとき、避難場所や集合場所が分かっている状態にあり、自分の命を守る方法が分かる。 ・日頃から地域の人との関係を深め、地域ぐるみの防災への関心を深めることができる。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する理解を深めると共に、児童一人一人が発達に応じて災害発生時の身の守り方が分かり、避難の方法、態度を身に付けている姿（自助） ・避難場所を確認したうえで、主体的に判断し避難行動をとることができる姿
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同防災訓練 ・外部講師を活用した防災講座
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟沖に震度6強の地震とそれに伴う火災と延焼の恐れを想定し、以下の訓練を実施する。 （1）地域の避難場所・集合場所の確認（町内会ごとに防災5人組で集団登校） （2）地域合同避難訓練の実施 ・災害に対する理解や主体的な避難意識等、目指す姿にせまるための防災講座を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域関連諸団体と連携した自校プランの推進

2. 小針小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○町内子ども会で、防災5人組の編成・確認、集団下校 ○校内避難経路確認、警報ブザー訓練 	避難訓練（学習時の火災）	全市一斉避難訓練（地域合同） 引き渡し訓練			避難訓練（休憩時の地震）	小針小学校地区合同防災訓練	避難訓練（不審者対応） 外部講師を活用した 防災講座		避難訓練（休憩時の火災）			
第2学年													
第3学年													
第4学年													
第5学年													
第6学年													

3.小針小学校 防災教育指導例

全校児童対象

(学習のねらい) 防災についての基本的な知識や技能を身に付ける
・小針小学校、保護者、地域自治会が連携した防災訓練

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 防災5人組ごとに集合場所を確認する</p> <p>① 学校外で災害が起こった際には、町内子ども会の防災5人組ごとに人数を確認し、活動することを押さえる。</p> <p>② 地図上で互いの自宅位置を確認する。</p> <p>③ 防災5人組で集団登校をする際の並び方を確認する。（先頭と最後尾は、各班の最高学年がつく。）</p> <p>④ 防災5人組ごとに、<u>災害発生時に集まり、各自治会の集合場所を確認する。</u></p>	<p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外で災害が起こったら、どのように避難をすればよいでしょうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災5人組で集まり,集団で避難する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざという時に、ちゃんと防災5人組で避難できるように、日頃からメンバーを覚えておく。
【展開】	<p>2. 防災5人組で地域の集合場所に集合し、地域と合同で集団登校（避難）をする</p> <p>「<u>避難訓練を通して、避難場所や避難経路を確認する</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年10月13日（土）午前7時50分新潟沖に震度6強の地震が発生し、火災発生と延焼の恐れがあり、地域住民の避難が必要と判断、避難情報が発表されたと想定。 <p>① 各自治会の避難（集合）場所へ、避難（集合）する。</p> <p>② 合同防災訓練会場（小針小学校）へ、町内子ども会ごとに防災5人組でまとまって集団登校（避難）をする（地域の方と共に）。</p> <p>3. 地域と合同で防災訓練を行う</p> <p>「<u>防災訓練を通して、災害時の対応について学習する</u>」</p> <p>◎ 体育館 …… ○応急手当訓練 ○心肺蘇生法・AED取扱訓練</p> <p>◎ プレールーム …… ○防災に関するビデオ鑑賞</p> <p>◎ グラウンド …… ○濃煙体験 ○消火器取扱訓練 ○バケツリレー訓練 ※一部地震体験車に乗車</p> <p>◎ 教室 …… ○非常食乾パン試食体験</p>	<p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの約束の場所はどこですか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の場所に班長を先頭にして並んで集合する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ班のメンバーや集合場所等を忘れぬよう、町内子ども会で確認を繰り返す。 ・事前に避難場所を確認しておく。 ・自治会担当者と連携して動きをつくる。 ・地域の方を知る。 <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に、まず自分でできることはなんですか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を自分で守るために、具体的な体験や訓練を行う。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を自分で守るために、具体的な体験や訓練を行う。

【まとめ】	<p>4. 訓練を通して分かったことを確認する</p> <p>① 自分の命は自分で守ることについて、各学級でまとめ、振り返りをする。</p>	<p>【ポイント】</p> <p>・学年の実態に応じてポイントを絞り、本日の防災訓練で学んだことを振り返る。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・防災について基本的な知識や理解を深めることができたか。 ・自治会別の避難場所や避難経路を確認することで、在宅中の避難について考えることができたか。 ・防災訓練を通して、災害発生時の自分の行動について考え、自分の命は自分で守る意識を高めることができたか。 	

【訓練実践の様子】

＜応急手当訓練＞



＜心肺蘇生法・AED 取扱訓練＞



＜防災に関するビデオ鑑賞＞



＜濃煙体験＞



＜消火器取扱訓練＞



＜バケツリレー訓練＞



<青山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区は日本海と関屋分水路に接している。地震や津波の際には、関屋分水路に接した一部地区での浸水が想定されている。 ・学校は日本海に隣接しているが、海拔7.5mに位置しており、災害の際には避難所となる。区役所、自治会、学校が共同で作成した避難所開設計画がある。 ・毎年、全自治会・学校の合同訓練を2地区に分かれて行っていたが、今年度より初めて、2地区合同（校区全自治会一斉）で訓練を行い、地域の防災意識も高まっている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全のための正確な知識を持ち、地域・保護者・学校・児童で協力をして、適切に行動できるようにしたい。 ・災害時の一次避難は各自治会の実態に応じて最寄りの高台に避難をするが、二次避難は学校の避難所を中心に運営できるよう、より協力体制を整えたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全のために必要な事柄を理解し、安全な生活を営もうとする。 ・危険を予測して、常に安全を確認し、的確な判断の下に安全に行動する。 ・自分や他人の命を尊重し、学校や家庭及び社会の安全に役立つ。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>○保護者・地域と連携した訓練</p> <p>6月15日 全校授業参観時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震津波屋上避難訓練 ・親子防災学習 講師 ふるさと未来創造堂 中野 雅嗣 氏 ・引き渡し訓練 <p>9月8日 地区合同防災訓練</p> <p>○各教科・総合的な学習の時間における防災学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6年学級活動 新潟県防災教育プログラムによる防災学習A年度 ・5年総合的な学習の時間 地域の津波時避難マップ作り 講師 防災士（校区在住） 田中 米三 氏
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と連携した訓練 ・各教科・総合的な学習の時間における防災学習 (新潟県防災教育プログラム,A B年度方式) ・年5回の避難訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と合同の訓練を、実態に合うように見直しを図りながら、毎年行う。 ・新潟県防災教育プログラムを、学級活動・総合的な学習の時間に位置付け、防災学習を行う。

2. 青山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<p>避難訓練①（基本の避難方法・火災）</p> <p>（地震津波訓練・屋上避難・親子防災授業・引き渡し訓練）</p> <p>避難訓練② 全校授業参観時</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1 防災新 聞作り 総合9</p> <p>新潟県 防災教育プログラム 学活1</p> <p>避難訓練③ 地区合同防災訓練（地震津波二次避難）</p> <p>避難訓練④（不審者）</p> <p>避難訓練⑤（火災・休憩時・積雪）</p>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 青山小学校 防災教育指導例

全校児童 (地区合同 防災訓練)	町内子ども会や町内会の人々と災害を想定した集合や体験訓練をすることを 通して、地震津波の二次避難の際に、地域の人々と協力する行動の仕方を学び、 防災への意識を高める
---------------------------------	---

	展開	ポイント
【準備】	<p>校区全自治会が自治会ごとに一次避難訓練をする。 その後、各自治会の訓練参加者が学校に集合する。</p> <p>1. 町内子ども会ごとに集合をする (13:15)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内子ども会長、担当職員を中心に人数を確認する。 救援物資配給を行う児童2名を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各学級で新潟県防災教育プログラム「津波災害編」の今年度（AB年度方式）の学習内容を、学級活動で学習しておく。 訓練の目的を事前指導しておく。「地震津波後の2次避難であること」「命を守る大切な訓練であること」「地域の友達や大人の人と協力すること」
【体験訓練】	<p>2. 災害時の行動の方法について知る</p> <p>町内子ども会ごとにまとめて体験場所を回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 煙体験訓練→水消火器訓練→大声発声訓練 関屋堀割町・虹の根・浦山1区・3区・4区 5区・8区・中央区・サンシャイン青山 水消火器訓練→大声発声訓練→煙体験訓練 浦山6区・10区・青山西・3区 大声発声訓練→煙体験訓練→水消火器訓練 小針松美台・松美台第一・松美台第二 西有明第二・ネオハイツ有明・校区外 <p>3. 避難所を想定した場所で地域の人と協力して活動をする (13:30)</p> <ol style="list-style-type: none"> 町内子ども会ごとに並んだまま、各自治会・町内会の旗の下に合流する。 支援物資配付担当児童2名は、地域の方の指示に従い、支援物資箱を各自治会・町内会に配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方が体験訓練場所を準備し、待機している。 煙体験訓練：消防署員、煙テント 水消火器訓練：消防署員、水消火器 大声発声訓練：青少年育成協議会役員、計測器 各体験場所に待機している地域の担当や消防署の方の指示に従う。 体験終了次第、体育館に行き、全体会が始まるまで、待機をする。
【集会活動】	<p>4. 災害時の避難に大切なことを地域の人と一緒に学習をする (14:00)</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災者体験者 渡辺光明 氏の講話 「災害時の避難所の話」 (10分) 5年防災学習発表 (5分) 4年防災標語発表 (5分) 	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習の成果を発表する。 4年防災標語：夏休みに一人一つ作成し、事前にコミュニティ協議会に提出し、審査を受ける。 5年防災学習発表：総合的な学習の時間において、防災士の出前授業や防災マップ作りの成果をまとめる。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> 町内子ども会や自治会の人と協力して行動できたか。 災害が起こって行動する場合に大切なことを理解することができたか。 	

【実践の様子】



全体会場掲示



煙体験訓練



大声発声訓練



全体会場展示ブース

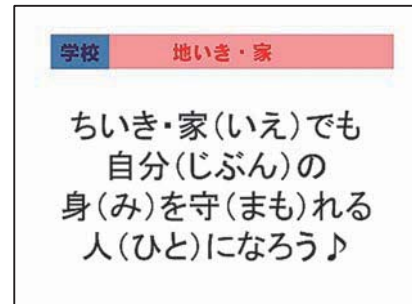
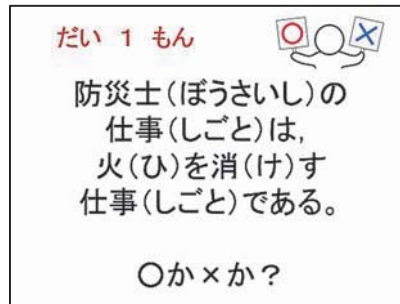


自治会町内会ごとに集合



5年生防災学習発表

【5年生の発表スライド】



<東青山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の目の前に信濃川と関屋分水路が、近くには西川が流れている。地域の大部分が海拔1mほどで、津波による浸水が地域の大部分で想定されている。 ・信濃川の洪水と信濃川に注ぐ西川の増水等によって、地域の大部分が浸水する可能性がある。 ・付近に3つの断層があり、大きい地震の時には、最大で震度6弱～7の強い揺れや液状化の可能性がある。また、西大通りの青山地区は土砂が崩れる可能性もある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者は避難訓練等を通して、災害時に生きる実践的な態度や知識・技能を身に付けさせたいと考えている。 ・学校では年間4回の避難訓練を行い、地域特性を含めて災害時の危険性や身を守る行動について理解し、実践力を身につけさせたいと考えている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>自らの命を守り抜くために主体的に行動することのできる児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら危険を予測し自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。 ・進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができるようにする。 ・災害発生のメカニズムや地域の防災体制を理解し活用できるようにする。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の避難訓練（火災、不審者、地震、津波） ・年間3回の非常ベル・緊急放送訓練 ・児童引き渡し訓練1回・集団下校訓練3回 ・地域防災訓練に参加し、西消防署と地域の防災士を講師に招き、AED体験と毛布担架体験を行った。（高学年） ・各学級1回の防災に関わる授業
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を大切にした避難訓練の実施 ・地域防災訓練に合わせた防災体験（高学年） ・各教科、学活、総合的な学習の時間を活用した防災学習の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携が取りやすいように、避難訓練の計画を年間行事に優先的に位置付ける。 ・地域合同防災訓練に合わせて、防災学習と児童引き渡し訓練を実施する。 ・各学年の指導計画に防災学習を位置付ける。

2. 東青山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回 避難訓練（火災） 第1回非常ベル訓練 </div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回 避難訓練（不審者） </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 防災学習 新潟県防災教育プログラム【津波災害編】の活用 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第4回 避難訓練（地震・津波）・引き渡し訓練・集団下校訓練 地域合同防災訓練 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 防災体験（高学年） </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第3回非常ベル訓練 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 集団下校訓練（積雪時） 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】の活用 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第3回 避難訓練（地震） 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】の活用 </div>											

3.東青山小学校 防災教育指導例

小学校中学年	(学習のねらい) 自分の命を守るためにどのような行動をとったらよいのかを理解することができる ・津波から身を守るにはどうすればよいか知る
--------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 災害にはどんなものがあるか ① 雪・地震・雨・台風・地震によって、津波・火事も起こることを押さえる。 ② 学習のねらい「自分の命を守るためにどのような行動をとったらよいのかを学ぶ」ことを押さえる。	【といかけの例】 ・災害にはどんなものがあるでしょうか？ 【想定される答え】 ・地震・台風・津波・土砂崩れ 【資料】 洪水の映像
	2. 津波から自分の命を守るためには、どのような行動をとればよいか考える ① 資料映像を見る。 ② 資料映像をもとに、津波による被害について話し合う。	【資料】 東日本大震災の津波の映像 ※無音編集 【といかけの例】 ・津波が起こるとみんなの住んでいるところは、どうなるでしょうか？ 【想定される答え】 ・建物がくずれる。 ・農業が打撃をうける。 ・堤防がこわれる。 ・濁流になって家、木、がれきなどが流される。 ・食べ物や住むところなくなる。 ・人の命がうばわれる。
	3. 津波から命を守るための行動について知る ① 津波から命を守るための行動について話し合う。 日頃からどんな準備をしておくべきかを考え、次の点を押さえる。 1) 「 <u>避難場所や避難経路を確認しておく</u> 」 2) 「 <u>すぐに避難できるように、非常持ち出し品を用意しておく</u> 」 ② 児童の生活地域やできることに即して考える。 児童の発表から、東青山校区ではどこに逃げればよいか、非常持ち出し袋には何を入れておけばよいかを話し合う。	【といかけの例】 ・津波から命を守るためには、どうしたらいい？ 【想定される答え】 ・高い所に逃げる。 ・避難情報の発表 ・自分が危ないと判断したら逃げる。 ・いつおきるかわからないから、避難場所を前もって確認しておく。 ・避難するときに持っていく非常持ち出し袋を準備しておく。 【資料】 非常持ち出し品リストの例 【想定される答え】 ・イオン ・青山の浦山 ・学校 ・高いビル

【展開】	<p>③「津波てんでんこ」という言葉について知る。 「津波てんでんこ」とは、「てんでばらばらに、必死に逃げろ」という先人の教えであることを押さえる。</p>	<p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯・薬・食料・飲み水・タオル・エチケット袋 ・雨具・ライター・通信道具・簡易なラジオ
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことをまとめる</p> <p>① 自分が危ないと感じたり、避難情報が発表されたりしたら、素早く避難所や高い所に避難をする。</p> <p>② ワークシートに「振り返り」を書かせ、発表させる。</p>	<p>【ポイント】以下の項目を確認する</p> <p>①津波はものを押し流す力が大きく、スピードも速い。</p> <p>②低い場所では、津波に流されてしまう。</p> <p>③津波の危険があるときは、すぐに高い場所に避難する。</p> <p>④近くに大人がいないときや一人のときでも、一人で高い場所へ避難する行動をとる。</p> <p>⑤家族の集合場所について分かっている。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が起こりそうなときには、高い場所に避難することを理解することができたか。 ・近くに大人がいないときや一人のときでも、避難する行動をとることを理解することができたか。 ・非常用持ち出し品、避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【今年度初めて実施した5, 6年生の防災体験（地域合同防災訓練会場にて）】



1 1) 小新中学校区 (西区)

対象校：小新中学校・坂井輪小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年5月30日 15:00～16:10 会場：坂井輪小学校	1. 5/10(木)研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について(意見交換) 3. 今、不安や課題として感じていること(意見交換) 4. その他(区支援メニューの説明)
第2回	平成30年7月27日 13:30～14:30 会場：坂井輪小学校	1. 前回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について(情報共有) 3. その他(予算活用状況等)
第3回	平成30年11月28日 16:00～16:45 会場：東青山小学校	1. 各校における取組紹介及び予算活用状況について(情報共有) 2. 次年度以降、継続するために(課題抽出・意見交換)

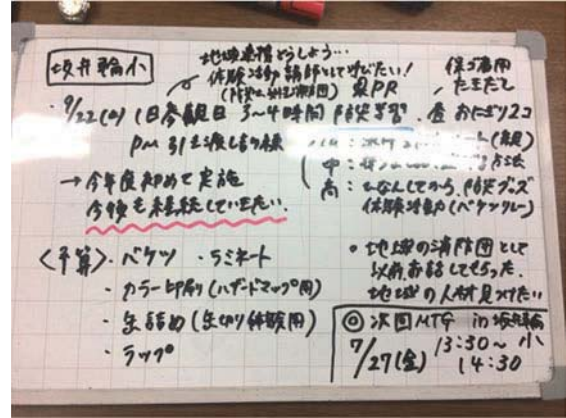
② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
小新中学校 坂井輪小学校	平成30年 5月30日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料(家族防災会議、にいがた災害食レシピ等)を提供した。
小新中学校	平成30年 5月31日	資料提供	学校と家庭・地域が連携した避難所運営・開設訓練と取り入れた防災学習事例の計画資料やスライド資料等を提供した。
小新中学校	平成30年 7月19日	参観	これまでも学校と連携している防災士が講師を務め、第1学年を対象とした災害図上訓練DIG(ディグ)講座の様子を見学した。

【5/30 第1回中学校区ミーティングの様子】



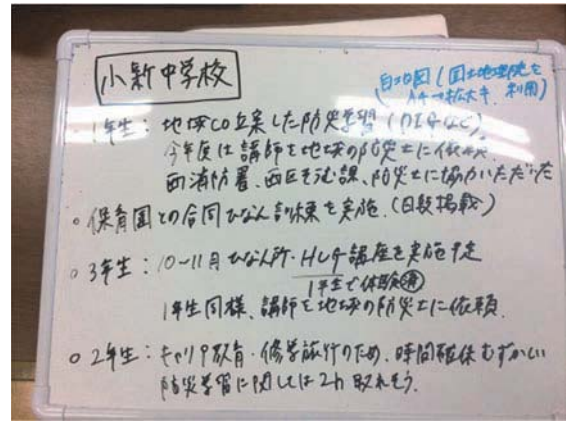
【5/31 第1回中学校区ミーティングの記録】



【7/27 第2回中学校区ミーティングの様子】



【7/27 第2回中学校区ミーティングの記録】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

小新中学校区では、学校と地域が連携した実践的な取組みとして、防災士、区総務課、西消防署、家庭と連携した防災教育に取り組んだ。中学校は既に地域と連携した防災教育を継続しており、校区在住の防災士の協力を得た様々な防災学習に加え、保育園2園と中学校での合同避難訓練を行っている。小学校は今年より1日参観日を活用し、家庭・地域を巻き込んだ防災教育に取り組んだ。

地域教育コーディネーターが中心となって築いた地域人材との繋がりを、校区全体に広げたことで、継続可能な地域と連携した防災教育を中学校区で考える一年間となった。

<小新中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒約350名の中規模校である。落ち着いた学校生活を送っている生徒がほとんどで、集会などでは集中して人の話を聞くことのできる生徒たちである。学校行事にも本気で取り組み、充実感をもって過ごしている。 ・玄関の海拔は-0.5mと低地に位置しており、河川の氾濫等の水害時には校舎が浸水する危険がある。 ・地域の防災訓練は行われている。しかし、学校行事と地域の方の日程調整が難しく、地域と連携して防災訓練を行うことは難しい。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、自分の子どもはもちろんのこと、生徒たちをととても大切に思っている。それは地域の方も同じで、災害のときには、生徒のためにご尽力下さる方は多いと考える。 ・日中若手は他地域に仕事に出ているため、災害が起こったら中学生、高校生を頼りにしており、避難の中心となることを期待している。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害についての正しい知識を身に付け、自分の身を守ることができる生徒 ・災害時には、自分の身を守ったのち、他の人の安全を守る行動ができる生徒 ・避難所や避難場所において、自分に何ができるかを能動的に考え、意思表示をし、行動することができる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>地域の防災士を講師に迎え、以下の講義及び体験活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生：「災害に対する正しい知識」「災害から身を守る方法」「校区の地盤と地質」「ハザードマップ」「危険箇所を考える校外学習」「ジュニアレスキュー」「地域の方を交えての災害図上訓練」 ・3年生：「避難所の疑似体験」「避難所の実際」「避難所の開設から運営」「避難所の役割分担・部屋割り」「災害の備え」「避難所運営の課題と対応」「校舎図に各種利用スペースを配置」「地域の方を交えて避難所運営ゲーム」
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（6月・11月）近隣の保育園との共同避難訓練（6月） ・1,3年生の総合的な学習の時間での計画的な防災教育を行う。防災士を招き、1年生は地域の特徴を知り、災害に関する内容を（災害図上訓練DIG）、3年生は、避難所設営に関する内容（避難所運営ゲームHUG）を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記プランを年間計画に位置付ける。 ・総合的な学習の時間の中心に防災教育を据え、年間計画を立てる。 ・防災士さんへの協力を依頼し、つながりを強固にする。 ・地域教育コーディネーターと連携し、地域の方々を巻き込み、一体となったDIGやHUGを行う。

2. 新潟市立小新中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		<ul style="list-style-type: none"> ・防災士の講義（災害） ・校外学習 ・ジュニアレスキュー ・災害図上訓練（DIG） 										
第2学年		<p>全校避難訓練（火災想定）</p>	<p>近隣保育園との合同避難訓練</p>					<p>全校避難訓練（地震想定）</p>	<p>AED講習会</p>			
第3学年							<ul style="list-style-type: none"> ・防災士の講義（避難所設置、役割分担、部屋割り、災害の備え） ・校舎図に利用スペースを配置訓練 ・避難所運営ゲーム（HUG） 		<p>中高連携防災学習</p>			

3. 小新中学校 防災教育指導例

中学校3学年
総合的な
学習の時間

- (学習のねらい) 避難所運営ゲーム (HUG) を通して避難所の運営ができる
- ・ 避難者の事情を理解し, 的確に居住スペースに配置する。
 - ・ 活動を通して, 非常時に自分にできることは何かを考える。

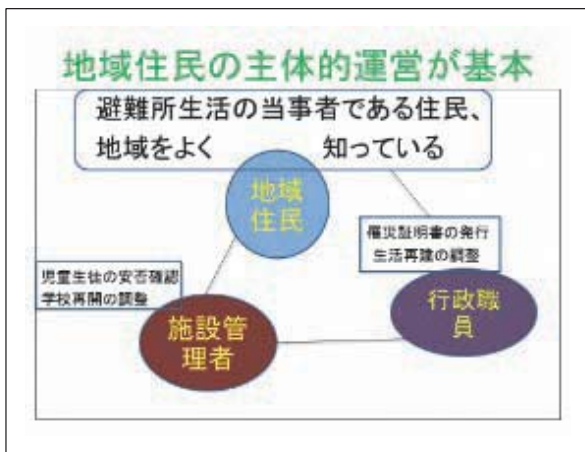
	学習内容 (展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 避難所を開設・運営していくために大切なことは何かを復習する</p> <p>① 本時までの総合的な学習での講義内容を資料等により振り返る。</p> <p>② 前時の利用スペース配置の経験を思い出し、避難所運営ゲーム (HUG) に対する意識を高める。</p>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回, 避難所に利用スペースを配置したとき, 気を付けたことはどんなことだったろう? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんながなるべく公平になるようにする。 ・ お年寄りや子ども, 障がいを持った人を優先して考える。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所では, 体が元気な人が先に行動するため, 過ごしやすい場所を独占するようになるので, 優先すべき避難者を考えることが重要である。
【展開】	<p>2. 避難所運営ゲーム (HUG) についての進め方</p> <p>① 班ごとに使用する道具 (仮想校舎図・カード等) を配布する。</p> <p>② カードの1~3枚目までを説明しながら進め, その後は班ごとにゲームを進める。</p> <p>3. 班ごとにゲームを進める</p> <p>① カードに書かれている避難者の状況を考え, 避難所となっている学校の, どこに入ってもらおうのかを決める。</p> <p>② カードは250枚あり, 40分ほどの間にできるだけ全部のカードを配置する。</p> <p>4. 判断に困ったカード (避難者) を共有する</p> <p>① ワークシートに判断に困ったカードを記入しておき, どのように考えてどこに配置したのかを発表する。</p>	<p>【班内での役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み上げ係 1名 ・ 考えて配置する係 4名 <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み上げ係は, 避難所に避難者が押し寄せてきたことを想定しどんどん読み上げる。 ・ 配置する係はカードを受け取ったら校舎図のどこに配置するのがふさわしいかを瞬時に判断し, それぞれの場所に配置していく。 ・ 班に一人, 地域の方に入っただき, 生徒と一緒に考えていただく。 ・ 地域の方には, 大人としての立場から, 生徒の考えた配置場所の理由を尋ねて, よりよい配置になるようにしていく。 <p>【判断に困る例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人の旅行者はどうしたか? ・ 同じ自治会の方はどのようにしたか? ・ 持病のある避難者はどこに配置するのか?

【展開】	② 他の班の発表を聞いて、自分の班がどのように考えてどうしたのか、意見交換する。	【想定される答え】 ・外国人の方は同じ部屋に入ってもらおう。 ・できるだけ近所の方が近くになるように避難場所を考える。 ・持病のある方は保健室やその近くの場所に。できればご家族も一緒がいい。
【まとめ】	5. 防災士さんによる振り返りとまとめ ① 生徒の活動の様子や発表の内容から、気になったことや良かったこと等を伝える。	【ポイント】 ・災害時には、中学生も避難所で活躍する場面があることを意識しておく。 ・日頃から、近所の大人とあいさつを交わす等、コミュニケーションをとっておくことが、災害時には非常に有効である。
【評価】	・避難者の細かい事情を考え、優先すべき人を的確に配置できたか。 ・避難者を配置するときに、ほかの班員や地域の方と話し合いをのり的確な判断をすることができたか。 ・他の班の考えを聞いて、自分の班の考えを顧みることができたか。	

【授業実践の様子】



【資料】



最後に

- ・避難所では皆が被災者…
協力を(共助)
- ・日頃から地域住民と
コミュニケーションを
- ・思いやり譲り合いの気持ち

<坂井輪小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校児童660名強の大規模校である。考えながら話を聞く児童が多く、学校行事では皆で力を合わせることができる。協力的な保護者が多いが、共働き家庭が多く、緊急時の引き渡し等、すぐには対応できない家庭もある。 ・ 西川沿いの低地に位置している。避難所に指定されているとはいえ、ハザードマップを見ると、西川の洪水時には周辺の道路が冠水し、大河津分水の洪水時には校舎が水に浸かってしまう。 ・ 地域の防災訓練は行われているが、在校する児童の中に他地区の自治会児童が含まれるので、学校行事として防災訓練を地域と連携して行うことは難しい。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者、地域の方々には、「子どもを守る」意識が強く、防災面に限らず、5月の事件を受けて、登下校時に地域の皆さんが引率・立哨をしてくださったり保護者が送迎してくださったりした。災害時にも、地域や子どもたちのために力を貸してくださる方は多いと思う。しかし、横の結びつきが弱く、地域と各家庭がしっかりとつながっているかどうか課題である。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の命は自分で守る」ために、訓練に真剣に取り組み、より安全な避難の仕方について考えたり、行動したりできる子ども ・ (高学年) 災害発生時に、家族や学校、地域の安全について考え、自分のできることで家族や地域の役に立つことができる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静止訓練(4月・9月) 児童は、非常ベルと同時にしゃがんだりした。 ・ 避難訓練(4月・6月) 4月は教室から避難経路を確認しながら、6月は休憩時間に自分で判断しながら「おはし」を守って避難していた。 ・ 集団下校訓練(5月) 学年毎に5コースに分かれ、職員が引率して帰宅した。 ・ 防災学習・引き渡し訓練(9月) 土曜日開催の一日参観日で保護者の参加が多かった。半日、学年ごとに親子で防災学習・体験をした。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静止訓練(4月・9月・1月) ・ 避難訓練(4月・6月: 避難のしかた・避難経路の確認・2次避難) ・ 集団下校訓練(5月: 方法の確認・通学路の確認) ・ 防災学習・引き渡し訓練(9月: 一日参観日・学年ごとの防災学習)
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記プランの内容を、学校行事として年間計画に位置付ける。 ・ 一日参観日を防災の日と位置付け、各学年の防災学習を固定して、低学年は避難の仕方、中学年は避難袋、高学年は避難後の活動というように発達段階を考えた内容で、卒業までの6年間で全てを学べるようにする。 ・ 地域の人材と連携し、正しい情報と最新の技術を計画に生かせるようにする。

2. 坂井輪小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年									静止訓練 緊急放送への対応		
第2学年											
第3学年											
第4学年											
第5学年											
第6学年											

3. 坂井輪小学校 防災教育指導例

全校児童
(防災の日)

(学習のねらい)
発達段階に応じて防災教育の取組を行い、児童・保護者の啓発を図る
(1日参観日に実施し、親子での参加とする。各学年2コマの授業を行う。)

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【1年生】	<p>地震から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震が起こると、どうなるかを考える。 校内で地震が起きたら、どうすればよいかを考える。 <p>校内探検 気を付けることは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で校舎内を回り、危険な場所を確認する。 想定された火元を避けて、教室に戻る。 	<p>【資料等】地震時の写真 校舎図 指令書(火元確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物が落ちたり、窓ガラスが割れたりする等、写真を使い具体的に分かるように工夫する。 頭を守ることの大切さを強調し、実際に教室の机の下に入らせる。 時間になったら開封して読む指令書を用意し、そこから避難訓練とする。 各自に校舎図を持たせ、安全に戻れるようにする。
【2年生】	<p>持ち出し品はななにクイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難する時、何を持って行けばいいのかを考える。 <p>地震から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 家や自分の住む町で地震が起こったら、どうすればよいかを考える。 	<p>【資料等】持ち出し品カード 地震時の写真 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 持ち出し品カードを使って全員で確認する。 何が必要か正答はないので、自分たちが必要と思うものを親子で相談させる。 具体的な写真や教師の体験等により、具体的な被害の様子を把握させ、その対応を考えさせる。
【3年生】	<p>避難所にもっていくものは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所で必要になる物を考える。 持ち出し品一式のバッグの中身を確認する。 <p>日用品で防災グッズを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞紙を使って、スリッパやコップを作る。 作った防災グッズを実際に使ってみる。 	<p>【資料等】持ち出し品一式のバッグ 新聞紙 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な物の優先順位も考えさせる。 実物を確認しながら、必要な理由を考えさせる。 【地域ボランティア】グッズの作り方の説明をする。 親子で、新聞紙を使った避難所で役立つグッズを作る。 スリッパを履いて歩いたり、コップにビニール袋を敷いて水を飲んでみたりする。
【4年生】	<p>災害に備えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段から家に備えておく物は、どんな物がよいかを考える。 <p>バケツリレーに挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に親子でバケツリレーを体験する。 防災クイズで、避難方法等を確認する。 	<p>【資料等】地震時の写真 常備品の入ったリュック ワークシート バケツ</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の意見が違ってよい。多様な意見が出るとよい。 実物を確認しながら、備えておく理由を考えさせる。 ジグザグに向かい合って、バケツを渡していく。 バケツリレーのポイント等は、防災士とよく打ち合わせる。

<p>【五年生】</p>	<p>体験訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で水消火器の体験をする。 ・親子で毛布の担架作りの体験をする。 <p>救急クイズ ～こんなときどうする？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがをした時の応急手当やしてはいけないことについて、クイズを通して理解する。 	<p>【防災士】毛布の担架作りの講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水消火器、担架用の道具は、西消防署及び西区総務課 安心安全係から借用する。 ・水消火器と毛布の担架作りの体験をローテーションで行う。 ・実際に担架に乗って、毛布が動かないことを体験する。 <p>【資料等】掲示用の絵（緊急時の場面）</p> <p>【養護教諭・防災士】救急法等の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出血の場合、手で触ってはいけない」等、具体例を挙げる。
<p>【六年生】</p>	<p>ハザードマップで確認しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップで自分の家と避難場所を確認する。 ・地震による津波の場合、水による被害の起こる場所をハザードマップで調べる。 <p>炊き出しをしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し用ご飯を親子で作る。 ・缶切りで缶詰を開ける体験をする。 ・ご飯と缶詰の試食をする。 	<p>【防災士】ハザードマップの見方の説明</p> <p>【資料等】ハザードマップ（掲示用と児童用） 校区内の地図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で、低いところを避け、高いところに避難することを確認する。 <p>【資料等】炊き出し用ご飯 缶詰 缶切り ラップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力を得て、炊き出しを作る。 ・できるだけ多くの児童に体験させるため、小さい缶詰を多く用意する。

【授業実践の様子】



1年 地震から身を守ろう



2年 持ち出し品クイズ



3年 防災グッズ作り



4年 バケツリレー



5年 毛布の担架作り



6年 炊き出しをしてみよう

1 2) 巻東中学校区（西蒲区）

対象校：巻東中学校・巻南小学校・漆山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成30年6月20日 16:00～17:00 会場：巻東中学校	1. 5/10（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 4. その他（外部講師や地域との連携事例等）
第2回	平成30年10月11日 16:00～16:55 会場：巻東中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成30年12月4日 15:30～16:45 会場：巻東中学校	1. 各校の取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 2. 次年度以降、継続していくために（課題抽出・意見交換） 3. 次年度以降の小・中一貫学習の可能性について（意見交換） 4. その他

② 各学校へのサポート事例

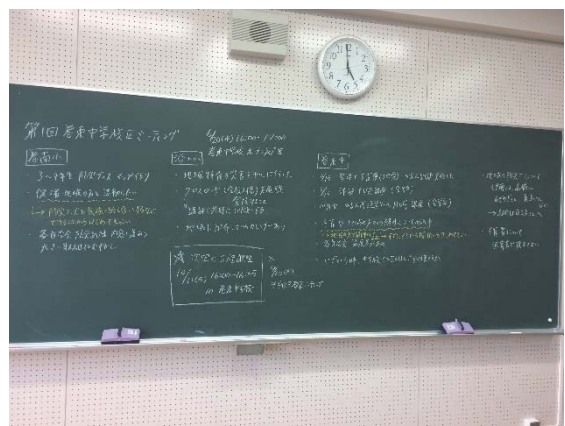
対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
漆山小学校	平成30年 6月20日	打合せ	11月に実施予定の地域と連携した防災学習の内容について打合せを行った。漆山地域で危険性のある落雷や暴風、暴風雪時の対処行動を全校縦割りで考える活動を検討していく。
巻東中学校, 巻南小学校, 漆山小学校	平成30年 6月20日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
巻東中学校	平成30年 6月21日	講座実施	各学年を対象に、津波災害から自分の命を守る行動について具体的な条件下で考える学習を行った。
巻東中学校	平成30年 7月30日	電話相談 資料提供	10月頃に地域住民や防災士に声がけをし、避難所について知り、災害時の避難所で中学生にできることを考える活動を行う。学習への地域住民や防災士の関わり方や具体的な活動案を提供した。
巻南小学校	平成30年 8月24日	打合せ	秋に予定している第3、4学年を対象とした防災講座の内容について打合せを行った。第3学年は避難所の学習及び防災グッズづくりを体験する。第4学年は洪水ハザードマップを活用し、洪水災害からの身の守り方と家庭の備えについて学習する。
漆山小学校	平成30年 10月4日	打合せ 資料提供	11月8日（木）に実施する、落雷・暴風・暴風雪からの身の守り方を考える防災学習に向けて、子どもたちに考えさせる具体的な設問案を検討した。設問例や解説資料、スライド資料等を提供した。

巻南小学校	平成 30 年 10 月 18 日	講座実施	第 3 学年を対象に、避難所の困りごとを紹介し、身近なもの工夫で作れる防災グッズづくりの体験（ペットボトルランタンづくり）を実施した。
漆山小学校	平成 30 年 11 月 8 日	講座 サポート	地域の方を招き、全校縦割り班で、落雷・暴風・暴風雪からの身の守り方を具体的な条件下で考える防災学習のサポートを行った。
巻南小学校	平成 30 年 11 月 20 日	講座実施	第 4 学年を対象に、洪水ハザードマップを活用し、洪水災害からの身の守り方を考えた後、家庭での備えとして必要なものを考える学習を行った。

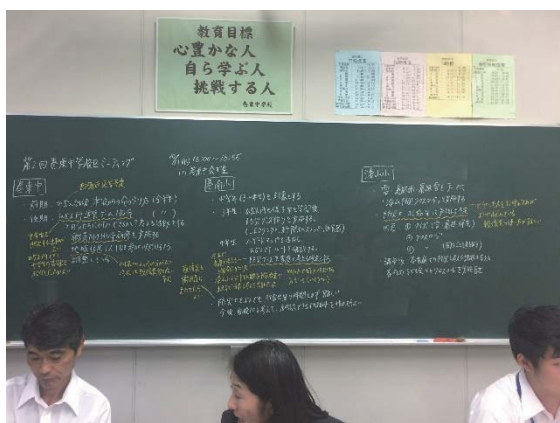
【6/20 第 1 回中学校区ミーティングの様子】



【6/20 第 1 回中学校区ミーティングの記録】



【10/11 第 2 回中学校区ミーティングの記録】



【12/4 第 3 回中学校区ミーティングの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

巻東中学校区は、各校が地域の特性を踏まえた防災教育に取り組み、継続・発展策についても検討した。子どもも大人も共に学び合う防災教育を継続・発展させていくためには、学校だけでは限界を感じる。両者に win×win なプランニングができる学習コーディネーターが必要なことや、小・中学校が連携した防災教育の可能性として、中学生が小学校に出向き、合同で学習すること、中学校区で各校の取組を体系的に整理することと併せて、学校防災教育の推進を区レベルで支える仕組みづくりの必要性等も提案された。

今後も学校と区とで意見交換を行い、持続・発展可能な地域一体での防災教育体制について、検討していくことを期待する。

< 巻東中学校 >

1. 新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、定期的な避難訓練等を小学校・中学校で行ってきており、防災に対する意識はあるものの、自身で大きな災害に遭遇していない生徒が多く、自分事として災害をとらえている生徒は多くない。 ・コミュニティの自治活動は盛んで、地域毎の防災訓練等を行っており、防災に対する関心・意識は高い。ただ、部活動などもあり中学生が地域の防災訓練等に参加する割合は高いとは言えない。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分がどのような行動を取れば良いのか自身で判断し、身を守る行動がとれる生徒を育成したい。→自分の身は自分で守る生徒の育成 ・災害時に自分の安全を確保した上で、家族、地域のために何ができるかを考え実践しようとする態度を育成したい。→貢献できる生徒の育成
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から防災に対する意識を高め、身の周りの危険を考えることができる。 ・自分の命は自分で守るという姿勢を身につけ、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる。 ・災害時の発生時や発生後に、家族、居住地域の安心・安全に対して、一人一人が何ができるかを考え、実践できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練の実施（4月、6月、9月） ・第2回避難訓練日の午前中に「防災授業」の実施（全校） 「地震のとき、どんなことに注意し、どう自分の身を守るか」話し合い活動 ・第2回避難訓練を受けての「防災授業」の実施（全校） 津波が予想される場合にどのような行動をとればよいか、グループでの話し合い ・第3回避難訓練後、消防士の方を招いた防災（火災）に関する講話（全校） ・避難所運営ゲーム(HUG)を通して、避難所の役割や機能について学び、避難所で自分たちができることを地域の方とともに考えた。（全校） ・救急法講習（AED講習、心肺蘇生法）（2年生）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練の実施 ・災害時の危険についての話し合い活動 ・救急法講習（AED講習、心肺蘇生法）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育コーディネータを中心に地域コミュニティ協議会等との連携を図る。 ・防災計画を基に避難訓練の計画を立て、年間計画に明確に位置付け、実施後の振り返りをもとに見直しを行っていく。 ・避難訓練と防災授業を有機的に関連付け、災害を自分事として主体的にとらえる授業の実施

2. 巻東中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年	第一回避難訓練・地震想定											
第3学年			新潟県防災教育プログラムを活用した授業	全市一斉避難訓練・地震	防災学習・津波		第3回避難訓練・火災	防災学習・HUG				

学校が避難所になった
ら自分たちに何ができ
るか？HUGを体験して考
える。


救急法講習
(AED講習、
心肺蘇生) (2月)

○全市一斉避難訓練に合わせて、訓練当日の午前中に「身の回りの危険はど
のようなのか。」を話し合い活動を通し確認し、午後の避難訓練に臨む。
前週の訓練を参考にし、津波の危険と津波が発生したときの対処を考える。

3. 巻東中学校 防災教育指導例

全校生徒

(学習のねらい) 学校内外での地震の危険性について考え、地震が起きた時の身の守り方について考え、知る

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 午後に行われる避難訓練にはどのような心構えで取り組みか考える</p> <p>① 訓練に向けて個人の意識を高める。 ② 他者の発表を聞き、意識の共有化を図り、全体としての避難訓練の必要性に気付かせる。</p>	<p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> これからある避難訓練をより意味のあるものにするために、あなたには、どのようなことができますか。
【展開】	<p>2. 地震が起きた時の危険性を考え、身の守り方について考える</p> <p>① それぞれのグループにテーマを割り振り、「予想される危険・どんなことに注意が必要か」 ② 予測された危険に対し「身を守るための判断と行動」を考える。</p>  <p>3. 危険について、どう身を守るかについて共有する(各グループの意見の発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループ発表を聞き、様々な状況でどのような危険があり、どう身を守るかを個人個人で意識できるようにする。 	<p>【次の状況で大地震が発生した時、どのようなことに注意し、どうやって身を守るか考えよう】</p> <p>【ワークシート】 地震の時、どんなことに注意し、どう自分の身を守るか</p> <p>[学校にいる時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝、登校した時、教室に数人しかいない時 給食準備中、先生がまだ来ていない時 昼休み、体育館・グラウンド・その他の場所で遊んでいる時 放課後、部活動中先生が近くにいない時 <p>[校外にいる時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の深夜、自宅で寝ている時 学校への登校途中 夏の休日、海水浴で泳いでいる時 休日、学校近くで友人と自転車に乗っている時
まとめ	<p>4. 学習してどのような点に危険があり、どのような行動を取れば良いかを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震から身を守る合言葉を学級全体で確認する。 「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難する。 	<p>【確認ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の身を守るのは、自分自身の正しい判断であること ○周囲の指揮者(大人)の指示に従うこと

【避難訓練】	<p>昼休み 〔想定〕 新潟市内で最大震度6強の地震が発生し、沿岸部では大津波警報が発表。西蒲区では土砂災害を警戒し、避難指示が発表された。</p> <p>終学活時 避難訓練振り返りシートの記入</p>	<p>○生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内では、机の下に身を隠し、次の指示を待っていた。 ・体育館では、照明器具等に注意し、中央に集まって指示を待った。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで危険な状況を考え、身の守り方を考え、他のグループの発表からどの状況下でどのような危険があり、どう対応すれば良いか理解することができたか。 ・授業をもとに、実際の避難訓練において、最善と思われる行動をとることができたか。 ・授業、避難訓練を振り返り、災害時に何が大切か自分なりの考えを持つことができたか。 	



平成30年6月15日(金)

地震のとき、どんなことに注意し、どう自分の身を守るか！？

1. これからある避難訓練をより意味あるものにするために、あなたには、どのようなことができますか？

実際におこっているものとしてとらえて、実際に取り組む。

2. 次の状況で大地震が発生した時、どんなことに注意し、どうやって身を守るか考えよう！！

	発生時の状況	予測される危険 どんなことに注意が必要か	どうする！ 身を守るための判断と行動
学校にいる時	朝登校した時 教室に出入りしない	窓ガラスが割れる 机の下に隠れる	ドアを開ける 机の下に隠れる 窓ガラスは避ける
	給食準備中 先生がまだ来ていない	机の下に隠れる 窓ガラスが割れる 机の下に隠れる	中央へ行く
	昼休み 体育館、グラウンド、その他の 場所で遊んでいるとき	木が倒れる 周囲の状況を確認する	体育館の中へ行く。
校外にいる時	放課後・部活動している 先生が近くにいないとき	周囲の状況を確認する 周囲の状況を確認する	安全な場所へ行く。
	平日の深夜・自宅で寝ているとき	揺れが強い	外へ出る いびきに注意する
	学校への登校途中	津波が来る 道路が倒壊する	○白旗を手に持ち走り出す
	夏の休日・海水浴場で泳いでいる	津波が来る 大波が来る	○高いところへ上る
休日・学校近くで友人と自転車で 乗っている	い	○学校へ行く	

2年 組 貴氏名

昼休み体育館、グラウンド、その他の場所
で遊んでいるとき。

- 天井が落ちる。→ 机の下に隠れる。天井が落ちる
- 天井からいすいす落ちてくる。→ 外へ逃げる。
- 地震が起きる。→ 起るはそうは所に行く。逃げる

3年2年7班

海水浴場...

- 津波がくる ⇒ 高い所に行く ⇒ 海から出る ⇒ へにすら走る
- 土砂崩れ ⇒ 崩れそうな所はさける
- 車が動く ⇒ 車に気をつけて走る

手紙
落ちて=100、倒れて=100、移動して=100
場所に行く。

<巻南小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は田園地帯にあり、放水路や小さな河川に囲まれているため、大きな地震時には広い地域で強い揺れや液状化、外水氾濫による浸水の可能性がある。 学区で一番遠い地域は山沿いに位置するところもあり、大雨時には土砂災害の心配がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の命は自分で守る」ための知識と行動力を身に付け、いついかなる時も冷静に判断し、行動できるようになってほしい。 命にかかわることや避難訓練等の活動では、常に真剣に取り組んでほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 火災や地震、洪水、積雪等の緊急事態時に、安全かつ迅速に避難し、危険から身を守ることができる子ども 避難所等集まる緊急時には、自分ができることや互いに助け合うことを進んで考え、行動できる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練①（火災を想定した避難） 緊急および災害時児童引き渡し訓練 避難訓練②（地震発生時を想定した避難） 避難訓練③（不審者対応を想定した避難） 3年 防災学習「防災ってなあに？」 4年 防災学習「もしも洪水になったら？」 避難訓練④（積雪時の火災を想定した避難）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じて、新潟県防災教育プログラムを活用した防災学習を推進し、授業を行えるようにする。 <p><縦断的防災教育活動（例）></p> <ul style="list-style-type: none"> 1, 2年こんなときどうする？（自分の身を守ること 危険時の行動を考える） 3年 防災ってなあに？（防災グッズづくりで意識付け） 4年 私たちの住む地域とハザードマップ（自分事で問題意識を高める） 5年 地震と津波がもたらすものと防災について（防災の重要性） 6年 自然災害時に私たちができること（自助と共助 自治的避難所運営とは？）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育担当者を中心とし、例年行われている避難訓練を見直したり防災学習と結び付けたりしながら、年間行事計画に位置付けていく。 防災教育の重要性を教職員に知らせ、新潟県防災教育プログラムを活用した研修ができるように計画を立てる。

2. 巻南小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 第一回 避難訓練（火災時の避難） 災害時児童引き渡し訓練 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 自転車教室 (4月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 第二回 避難訓練（地震・洪水時の避難） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 夏季休業前における分団会（子ども会）指導 台風、水害、落雷等 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 第三回 避難訓練（不審者対応・避難） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 防災ってなあに？ (10月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 150px;"> もしも洪水 になったら ら？(11月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 第四回 避難訓練（積雪時 火災時の避難） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> 春季休業前における分団会指導（融雪・除雪車等） </div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

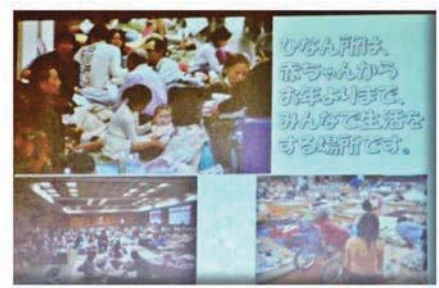
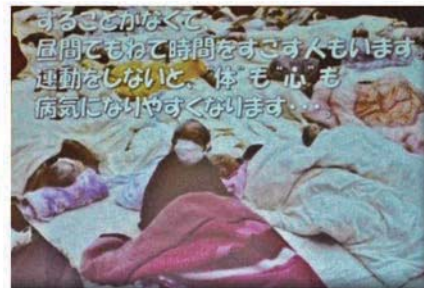
3. 巻南小学校 防災教育指導例

小学校中学年	(学習のねらい) ・過去の災害時の避難所の様子から、避難所の課題を考える。 ・「防災グッズづくり」を通して、工夫することや協力することを学び、防災意識を高める。	
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 災害時の避難所の写真を見せて、避難所の様子を知る ・新潟市の避難所運営方針を伝え、避難所は避難者を含めて、学校・地域・行政が全員で協力し、運営する場所、被災者の生活をみんなで乗り切る場所であることを押さえる。	【写真資料】 ・大雨による洪水や地震等の自然災害が、各地でたくさん起きていることをパワーポイントのスライドで伝える。
【展開】	2. グループワークで「避難所の課題」を考える ○避難所の写真（東日本大震災翌日の避難所）を掲載した「ワークシート」を使い、写真から予想できる課題を班で考える。 ・避難所には子どもからお年寄り、身体の不自由な人まで、様々な人が集まってくることを知る。 ・電気や水道等が使えなくなり、あらゆる生活に不便を感じる事が起きることを知る。 ・困ったことが起きたら、みんなで助け合い、協力する必要があることを知る。 ○班の考えを発表し、聞き合う。 3. 防災グッズを作る ・ペットボトルランタンづくり ・新聞スリッパづくり	【避難所の写真】 【ワークシート】 【といかけの例】 ・「これは何をしている所かな？」 ・「避難所では、どんなことにみんなが困るだろうか？」 【想定される答え】 「電気が使えない、暗くて困る。」 「トイレが混雑する、使えなくなる。」 「水や食べ物は大丈夫かな？」 等。 【用意するもの】 ・LED ライト ・電池 ・紙コップ 2 個 ・ペットボトル ・色ペン ・新聞紙一人 2 枚
【まとめ】	4. 熊本地震で活躍した小中学生の様子を伝え、避難所では「協力すること」「自分にできることを一所懸命がんばること」を伝える	・災害時には「自分にもできること」を考え、工夫して生活したりみんなと協力したりする事の大切さに気付く。
【評価】	・大雨による洪水や地震等の自然災害について、知ることができたか。 ・「避難場所ではどんな課題があるか」ということを、理解することができたか。 ・避難所では互いに協力し合い、助け合いながら、困難を乗り越えることが大切だと理解したか。	

【授業実践の様子】



【スライド資料等】



“ペットボトルランタン”の作り方

絶くてもこのランタンでいじょうぶ!

- 準備するもの：紙コップ2つ、500mlペットボトル1本、小さなLEDライト、油性ペン（10色）、カッター
- 活動の時間：30～40分

●活動の手順

- ① 紙コップの底に十字の切り込みを入れる。
 ※切る場所を下書きしておくときれいに切れる。
 ※切の込みは、LEDライトがはさまる程度にする。（長すぎないことがポイント）
- ② 紙コップとペットボトルに線を画したり、色をぬったりする。
 ※紙コップもペットボトルも上下をかきわけて使うので線の向きに注意する。
- ③ ペットボトルをさかさまにして、キャップの方を紙コップの穴れ自に差し込む。
- ④ ちり1つの紙コップをペットボトルの底の部分にかぶせる。
- ⑤ LEDライトを上紙の紙コップに差し込む。
- ⑥ スイッチを入れて完成。

“新聞紙スリッパ”の作り方

身近なものを工夫して防災グッズを作ろう!

- 準備するもの：新聞紙2枚（1足分）
- 活動の時間：15～20分

- ① 新聞紙を縦向きにして、折り線に沿って折る。
- ② 折り線に沿って、新聞紙を折る。
- ③ 新聞紙の両端を折る。
- ④ 新聞紙の両端を折る。
- ⑤ 新聞紙の両端を折る。
- ⑥ 新聞紙の両端を折る。
- ⑦ 新聞紙の両端を折る。
- ⑧ 新聞紙の両端を折る。
- ⑨ 新聞紙の両端を折る。
- ⑩ 新聞紙の両端を折る。
- ⑪ 新聞紙の両端を折る。

【ワークシート】

ワークシート「ひなん所の問題」

写真（H23.3.11東日本大震災の様子）から予想できる「ひなん所の問題」を空いている欄に書きましょう。

※ひなん所は、“赤ちゃんからお年寄りまで、みんなで一緒に生活をする場所＝寝泊まりをする場所”です。

※電気・ガス・水道は使えません。

ハッパしんがとるかかかない
 ・テレビが 見れない（ニュース）
 ・水が 汚れた水 しかなくて
 ・まじこになる
 ・てん上が つぶれ た
 ・ちいこが つかえ なく なる
 ・あつこい
 ・あつこい かんが せ ない

ワークシート「ひなん所の問題」

写真（H23.3.11東日本大震災の様子）から予想できる「ひなん所の問題」を空いている欄に書きましょう。

※ひなん所は、“赤ちゃんからお年寄りまで、みんなで一緒に生活をする場所＝寝泊まりをする場所”です。

※電気・ガス・水道は使えません。

あつこい はり ない
 ガス マシン だけ 使 えない
 ※水の ぬ せ ない
 ※火の つか せ ない から 火の つか せ ない
 ※テレビの 水 が ぬ せ ない
 ※あつこい かんが せ ない

< 漆山小学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区は、漆山地区と馬堀地区からなる。学校の周りや校区内には田畑が広がり民家や大きな建物が無いエリアが広がる。民家のない広域農道を2kmくらい通学してくる町内の子どもたちもいる。風を遮るものがないため、冬季の地吹雪や年間を通じての暴風雨には危険が生じる。また、雷も多く避難できる建物が無い地域もある。 ・学校の裏手には、大通川が流れている。用水も多く、豪雨時には用水が増水し危険な状態になることもある。 ・防災教育は、5年前から新潟県防災教育プログラムの自校化を進めている。また、引渡し名簿を作成し、保護者や祖父母、地域と連携した引渡し訓練を実施している。 ・校区の優先ハザードは、洪水である。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域は、学校が推進している防災教育の共有を願っている。 ・この地域に多い災害に関する学習の実施や、実際の引渡し時にも訓練が生きていて感謝している。 ・地域は、平日や児童が学校から帰ってからの避難訓練や避難所運営について、学校と連携して、計画し実施していかねばと願っている。 ・保護者・地域・教職員とも、災害だけでなく、この地域の自然や地域特性の良さにも十分目を向けて、学習を進めてほしいと願っている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守れる子ども 「自助」 ・様々な災害から身を守るための、基礎的・基本的事項を理解している子ども ・災害発生時には、学校の友達や先生、家族や地域の人と協力し合える子ども
<p>補助交期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの通報周知に関する全校職員・全校児童一斉学習、通報訓練 ・子ども110番の家の確認、集団下校（年2回） ・地震震避難訓練、新潟県防災教育プログラム「地震・津波」・「雪災害」 ・洪水、雷、豪雨からの身の守り方 <p>※漆山全校防災クロスロード（11月・雷、暴風雨、地吹雪、停電）</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、地域に関する防災学習内容の検討。 <p>※漆山全校防災クロスロード（11月 縦割班 地域・保護者）</p> <p>漆山全校防災クロスロード（12月 登校班 地域・保護者）</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に、PTAや地域のコミュニティ協議会の環境防災部と連携し、地域と学校で連携する避難訓練や防災教育の次年度案を検討する。 ・地域や保護者と連携した取組については、反省を生かし継続案を学校が作成する。

2. 漆山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	新潟県防災教育プログラム活用授業 (地震・津波) 平常時 全校児童 引渡し訓練 (参観日ではない日)	地震からの身を守り方(学校内) 地震からの身を守り方(学校外) 地震への備え 揺れがおさまった時・津波理解 地震の影響 津波からの避難	地震からの身を守り方(学校内) 地震からの身を守り方(学校外) 地震への備え 揺れがおさまった時・津波理解 地震の影響 津波からの避難	雷・ゲリラ豪雨・極暑からの身を守り方(全校集会) 危険箇所(子ども会)	全市一斉避難訓練(地震・津波) (六年生は修学旅行先で実施)	新潟県防災教育プログラム【洪水災害編・土砂災害編】	火災予防・火災発生時の身を守り方・防火扉のくぐり方↓避難訓練	漆山全校クロスロード(1人の時や通学時の身を守り方「雷・暴風雪等」)	町内子ども会クロスロード(地域の人と町内毎で災害時の身を守り方) 地域の避難場所、「子ども110番の家」現地確認	新潟県防災教育プログラム【雪災害編】	新潟県防災教育プログラム【原子力災害】	通報訓練
第2学年												通報訓練
第3学年	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練
第4学年	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練
第5学年	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練
第6学年	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練	通報訓練

3. 漆山小学校 防災教育指導例

全校児童(90分)

(学習のねらい) 帰宅後に一人である時や、通学時に子どもだけである時に、雷、暴風雨、地吹雪等の災害やそれに伴う停電や断水への対応を考えて、いざという時に自分の身を守ることができるようにする

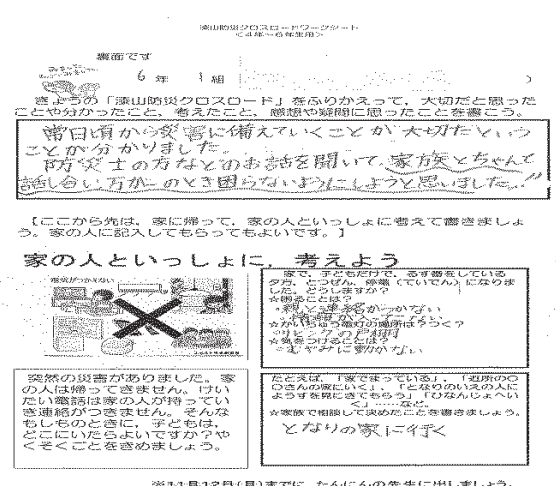
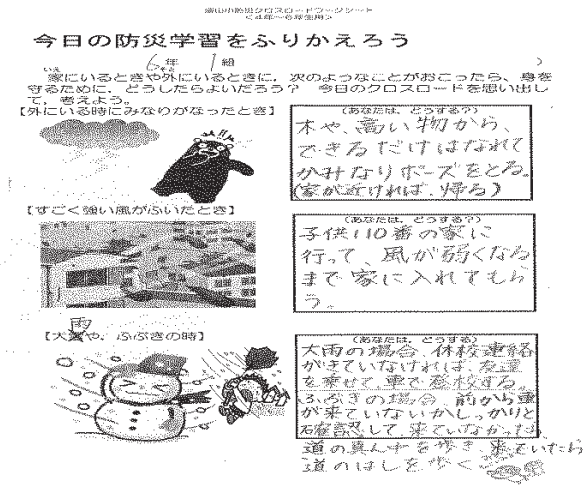
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1 防災〇×クイズにより、雷や非常に風の強い日、地吹雪で前が見えない時の対応について、一人一人が考え、基本的事項を明らかにする</p> <p>① 「友達と遊んだ帰り、大雨が降り雷が鳴った。傘をさしたまま急いで帰ってよい。」「雷の音が聞こえたら、大きな木や電柱の側に行けば安全だ。」等をカードを用いて〇×クイズで行う。</p> <p>② 雷が鳴り出したら「雷ポーズ」で身を守ること、高い木や電柱の側は危険なこと、強風で停電することもあることなど、基本的事項を全員で確認する。</p>	<p>※全校縦割り班 16 班を作り、体育館に集まる。</p> <p>※昨年度冬の豪雪、3月の暴風を想起させる。</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雷は高いところに落ちやすい。音が聞こえたら大きな木や電柱のそばに行けば安全だ。」 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・× <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷は高いところに落ちる。また木や電柱からとび移るため、4m以上離れて「雷ポーズ」。実際に雷ポーズを全員で行う。また、雷が鳴りそうな空が暗いときには外出しない、屋内や車の中にいる。
	<p>2 「漆山防災クロスロード」のねらいや方法を知り、具体的な状況において、どのように行動したらよいか、判断した根拠や考えを交流し合う</p> <p>① 朝のニュースで「落雷に注意」と言っていた。雷も鳴り出した。登校班の集合場所には大きな木がある。集合時刻だからあなたは集合場所に行くかどうか。</p> <p>1)各自が意思表示をいた後、班内で交流させる。</p> <p>2)YES 「集合時刻で班の人がいるから。学校に遅刻するから。雷ポーズをすれば安全だから……。」</p> <p>NO 「木の近くに雷が落ちると危ないから。大人に車で送ってもらえばよいから……。」</p> <p>② 冬の地吹雪で前が見えない状況下の通学路の田んぼ道を一人で歩いている時に、真ん中を歩くか、端を歩くか迷う状況の問題を出し、考えを交流させる。</p> <p>1)真ん中を歩く理由や、端を歩く理由を交流させる。</p> <p>2)吹雪では、周りもそうだが、車の運転手からも子どもたちも見えないことや、用水の水はとても冷たいことを解説で伝える。学校に残る、子ども110番の家に行く、普段から地域の人と交流し相談できるようにする。</p>	<p>※「クロスロード」とは「分岐点」のことで、「防災クロスロード」は、阪神淡路大震災をきっかけに作られた。一人一人はYESなら青、NOなら青磁石をボードに出すが、正解するより、なぜそう判断したのか、理由や考えを交流し合うことに重きを置くことが重要。</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の雪の日の下校中。自宅には田んぼ道をあと10分位歩かないと着かない。あなたは一人。吹雪で田んぼ道の先はほとんど見えない。田んぼに落ちないように道路の真ん中を歩くか、端を歩くか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中 →田んぼや用水に落ちると危ないから。 ・端 →車も前が見えず、ひかれるかもしれないから。田んぼや用水に落ちないから。 <p>【資料】問題用及び解説用パワーポイント、校区の写真</p> <p>※町内子ども会や集団下校時に「子ども110番の家」を確認すること。どのような時に利用してよいかを確認し合う。</p> <p>【資料】「子ども110番の家」のマップ</p>

【展開】	<p>3 災害時等で「困ること・心配なこと」をたくさん出し合い、家族や地域で相談し合うことに繋げる</p> <p>① 1月の寒い日の夕方、一人で留守番をしている時に、雷が鳴って急に停電になった。どのようなことが心配か出し合う。</p> <p>② 困り事を共有し合う。</p> <p>③ 週末に家族で、停電になったらどうするか、懐中電灯はどこにあるか、電池はあるか、家にいるのか等を相談するようにはたらきかける。</p>	<p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 懐中電灯がどこにあるか分からない。暖房が使えず寒い。真っ暗で怖い。テレビやPCがつかないから情報が分からなくて不安。家族と連絡ができない。トイレが使えるか不安。ゲームができない。家族が帰ってこられるか心配。温かいものが食べられない……。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近で起こる停電について改めて考えさせる。家族で考えるワークシートを持ち帰り、停電時にどうしたらよいか等を相談することに繋げる。
【まとめ】	<p>4 学習して分かったことや気づきをワークシートに記入し、自宅で家族と災害時の行動等について相談し合わせる</p> <p>① 教室で、クロスロードで学んだことや感じたことを記入させる。</p> <p>② 裏面に、家族で考え合う問題を入れる。</p>	<p>自作ワークシート（新潟県防災教育プログラム参照）</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズや楽しさだけで終わることなく、学年の発達段階に応じて、本日の学びを担任と振り返らせる。 停電や災害時に子どもが一人の時にどうするか、「<u>日頃から家族で確認しておく</u>」ことを書き込めるワークシートを週末に自宅に持ち帰らせる。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> 「雷」「暴風雨」等の災害の特徴や、やってはいけない行動を理解することができたか。 「雷」「暴風雨」「地吹雪」等の時に、学校外で一人もしくは子どもだけでいる時に、どのようなことを考えて、どのように行動するかを理解することができ、いざという時に大きな不安にならないで行動できるか。 停電時や災害時に一人である時に、どうしたらよいか家族での約束を決めることができたか。 	

【実践の様子】



【使用したワークシート】



「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 30 年度指定校)

平成 31 年 2 月

新潟市教育委員会

制作：新潟市防災教育コンソーシアム

- ・公益社団法人 中越防災安全推進機構
- ・特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂
- ・特定非営利活動法人 にいがた災害ボランティアネットワーク